

盛岡市総合計画実施計画

— 令和２年度実績（まちづくりの取組） —

目次

1 施策体系のしくみ.....	1
(1) 施策体系のしくみ.....	1
(2) 施策体系図.....	2
2 まちづくりの取組.....	3
資料の見方.....	3
(1) 施策別.....	5
基本目標 1 人がいきいきと暮らすまちづくり.....	5
施策 1 地域福祉の推進.....	5
施策 2 子ども・子育て、若者への支援.....	8
施策 3 高齢者福祉の充実.....	14
施策 4 健康づくり・医療の充実.....	18
施策 5 障がい者福祉の充実.....	23
施策 6 生活困窮者への支援.....	27
施策 7 人権尊重・男女共同参画の推進.....	30
施策 8 安全・安心な暮らしの確保.....	33
施策 9 地域コミュニティの維持・活性化.....	39
施策 10 生活環境の保全.....	41
基本目標 2 盛岡の魅力があふれるまちづくり.....	44
施策 11 歴史・文化の継承.....	44
施策 12 芸術文化の振興.....	47
施策 13 スポーツの推進.....	50
施策 14 「盛岡ブランド」の展開.....	54
施策 15 良好な景観の形成.....	57
施策 16 計画的な土地利用の推進.....	61
基本目標 3 人を育み未来につなぐまちづくり.....	65
施策 17 子どもの教育の充実.....	65
施策 18 生涯学習の推進.....	71
施策 19 社会を担う人材の育成・支援.....	73
施策 20 地球環境の保全と自然との共生.....	75
基本目標 4 人が集い活力を生むまちづくり.....	79
施策 21 農林業の振興.....	79
施策 22 商業・サービス業の振興.....	85
施策 23 工業の振興.....	89
施策 24 観光の振興.....	93
施策 25 雇用の創出.....	96
施策 26 都市基盤施設の維持・強化.....	99
施策 27 交通環境の構築.....	107
施策 28 国際化の推進.....	112
施策 29 都市間交流の促進.....	115

(2) 主要事業の実績額一覧（基本目標・施策別）	117
■ 主要事業の実績（基本目標別総括表）	117
基本目標 1 人がいきいきと暮らすまちづくり（施策 1～10）	118
基本目標 2 盛岡の魅力があふれるまちづくり（施策 11～16）	119
基本目標 3 人を育み未来につなぐまちづくり（施策 17～20）	120
基本目標 4 人が集い活力を生むまちづくり（施策 21～29）	121

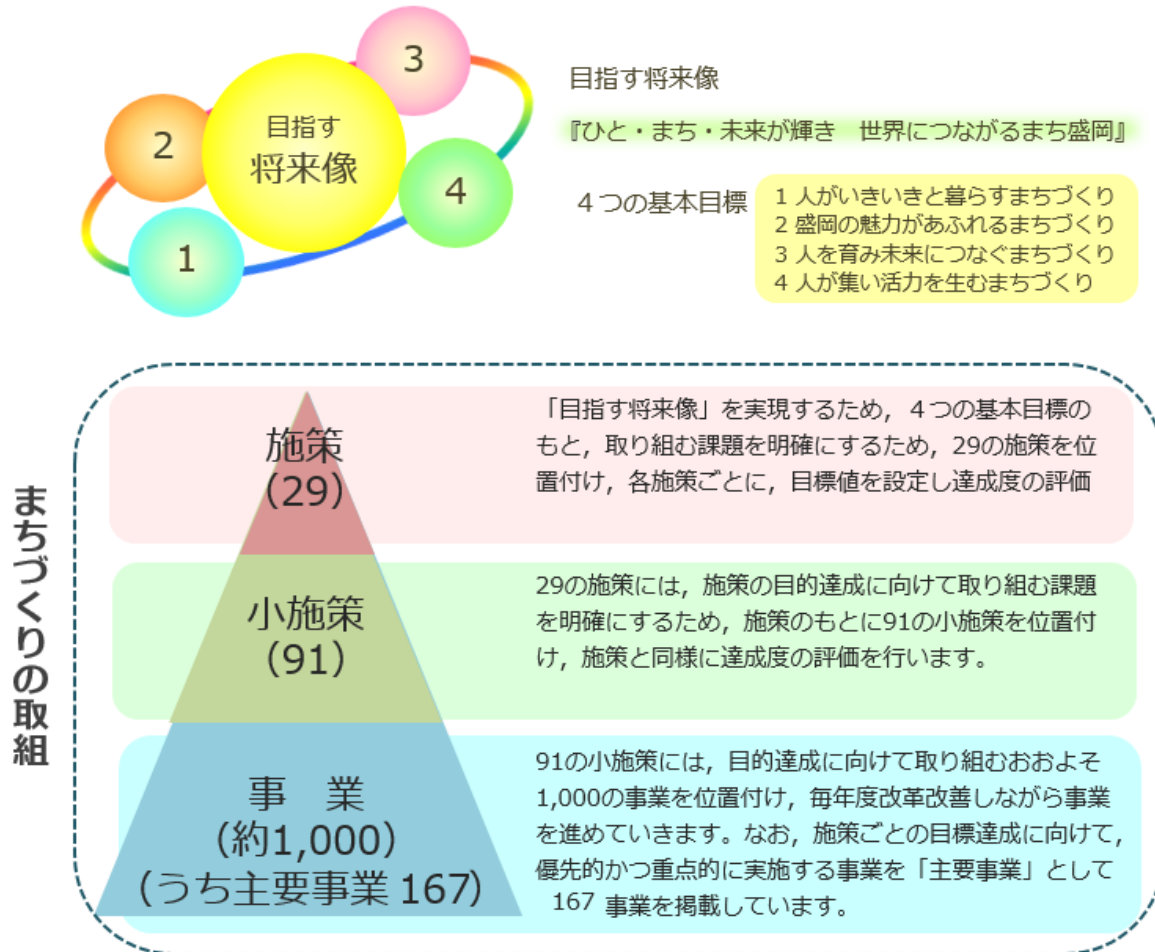
3 計画額と実績額の差が 1 億円以上となった主要事業	122
-----------------------------------	-----

4 令和 2 年度完了事業	124
---------------------	-----

1 施策体系のしくみ

(1) 施策体系のしくみ

基本構想に定める「目指す将来像」を実現するために、次のような体系を構成し、施策を展開します。



(2) 施策体系図

4つの基本目標のもと、取り組む施策間で十分に連携を図り、効果的にまちづくりを進めていくことが必要です。ここでは、それぞれの施策と基本目標との関連性を示し、「目指す将来像」の実現に向けて各施策がどのように取り組んでいくかを示します。

また、それぞれの施策がどの「基本目標」に関係するかを示すだけでなく、施策間で連携することを意識できるように示しています。

＜ 目指す将来像の実現に向けた4つの基本目標と29の施策 ＞



2 まちづくりの取組

資料の見方

施策の方針について掲載しています。

施策1 地域福祉の推進

誰もが住み慣れた地域で、それぞれの個性や尊厳を認め合いながら、共に生活が続けることが・・・

主要事業の主な取組と、各事業内容、実績を掲載しています。

- ・「新市」欄の「★」は、玉山村との合併時に策定した「盛岡市・玉山村新市建設計画」に登載されている主要事業です。なお、「(★)」は、事業の一部が「盛岡市・玉山村新市建設計画」に登載されている主要事業です。
- ・「計画額」は令和2年度当初予算額です。「実績額」は令和2年度予算額に対する実績額です。「翌年度繰越額」は、令和3年度へ繰り越した予算額です。「計画額」「実績額」「翌年度繰越額」とも、四捨五入しているため、計と合致しない場合があります。なお、100万円未満の場合は、切り上げています。

■ 主要事業の実績

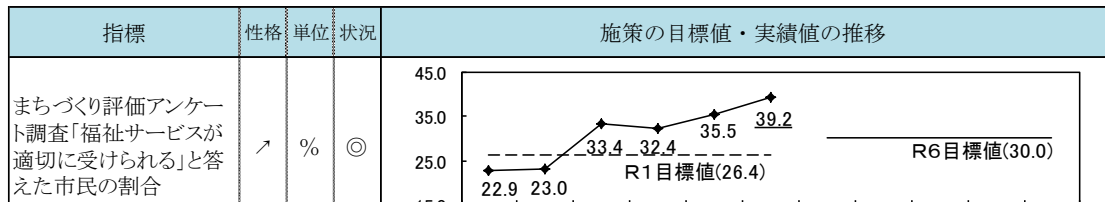
(単位 百万円) ←

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
------	----	------	------	----	-----	-----	--------	-------

まちづくり指標（成果指標）の状況を掲載しています。

- ・指標は、統計値やアンケート調査の結果に基づいています。
- ・「性格」欄の「↑」は数値を上げていくことを、「↓」は数値を下げていくことを、「→」は現状を維持していくことを目標としています。
- ・「状況」欄の「☆」は目標値に到達、「◎」は目標値に向け順調に推移、「○」は目標値に向け推移、「△」は遅れが生じていることを表します。評価の基準は4ページに掲載しています。
- ・「当初値」は、基本的に平成25年度の実績値を用いています。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

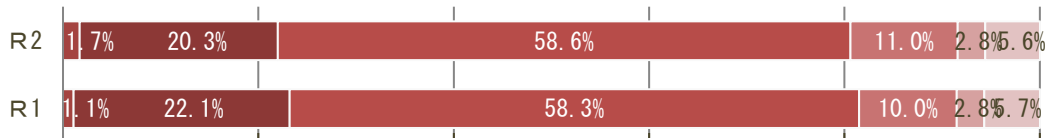


施策に対する市民の実感の状況を掲載しています。

- ・施策への取組状況などについて、市民の皆さんがどのように感じているか、無作為抽出した市民3,000人を対象に毎年アンケート調査を行い、その結果を「市民の実感」として掲載しています。
- ・小数点第2位を四捨五入して算出していますので、合計が100%とならない場合があります。

■ 施策に対する市民の実感

「共に支え合い安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けた取組が行われている」と感じる市民の割合



施策を構成する小施策毎に、現状の成果、問題点や今後の方向性を掲載しています。

■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

支援を必要とする人が福祉サービスを受けられる仕組みづくり

小施策毎の分析結果を踏まえた施策全体の総括と、今後の方向性を掲載しています。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

地域における包括的な相談支援システムの構築には、・・・

■ 成果指標の状況の評価基準

1 基準値について

平成 27 年度に策定した総合計画の目標年次は令和 7 年度で、令和元年度は目標年次の中間年度であることから、各指標の基準年度を令和元年度実績値としています。ただし、統計数値の公表時期の都合等により、令和元年度実績値の把握ができない場合は、直近の実績値を基準値としています。

2 評価基準について

各施策・取組の評価基準は、原則として次のとおりとしています。

なお、下記評価基準のうち、

- ・資料 2 掲載の戦略プロジェクトにおいては、“令和 6 年度の目標値”を“最終年度の目標値”に読み替えます。
- ・成果指標の性格が「↓」のものは、“減少”を“増加”に読み替えます。

◆成果指標の性格が「↑」「↓」の評価基準

- (1) 令和 2 年度実績値が、令和 6 年度の目標値を達成しているものについては、「目標値に到達 (☆)」と評価します。
- (2) 令和元年度を基準として、令和 6 年度目標値に対し、令和 2 年度の進捗率が 2 割を超えるものについては、「目標値に向け順調に推移 (◎)」と評価します。
- (3) 令和元年度を基準として、令和 6 年度目標値に対し、令和 2 年度の進捗率が 2 割以下の場合については、「目標値に向け推移 (○)」と評価します。
- (4) 令和元年度の基準値と令和 2 年度の実績を比較して、減少又は停滞しているものについては、「遅れが生じている (△)」と評価します。

◆成果指標の性格が「→」の評価基準

- (1) 令和 2 年度実績値が、令和 6 年度の目標値と等しいものは、「目標値に到達 (☆)」と評価します。
- (2) 令和 2 年度実績値が、令和 6 年度の目標値に対し、± 1 割の範囲を維持しているものは、「目標値に向け順調に推移 (◎)」と評価します。
- (3) 令和 2 年度実績値が、令和 6 年度の目標値に対し、± 2 割の範囲を維持しているものは、「目標値に向け推移 (○)」と評価します。
- (4) (1)～(3)に該当しないものは、「遅れが生じている (△)」と評価します。

(1) 施策別

基本目標 1 人がいきいきと暮らすまちづくり

施策 1 地域福祉の推進

誰もが住み慣れた地域で、それぞれの個性や尊厳を認め合いながら、共に生活することができるように、地域住民が互いに支え合う地域社会の形成を推進します。

■ 主要事業の実績

地域福祉コーディネーターを中心とした市内の相談支援機関が、民生委員や包括支援センターなどから寄せられた相談ごとを連携して支援できる体制を構築しています。

また、「地域力強化推進事業」として、モデル地区を3地区選定し、地域住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを支援しています。さらに、高齢者や子育てをしている者を地域で支える取組としてシルバーサロン事業の推進及びボランティア養成等に取り組みました。

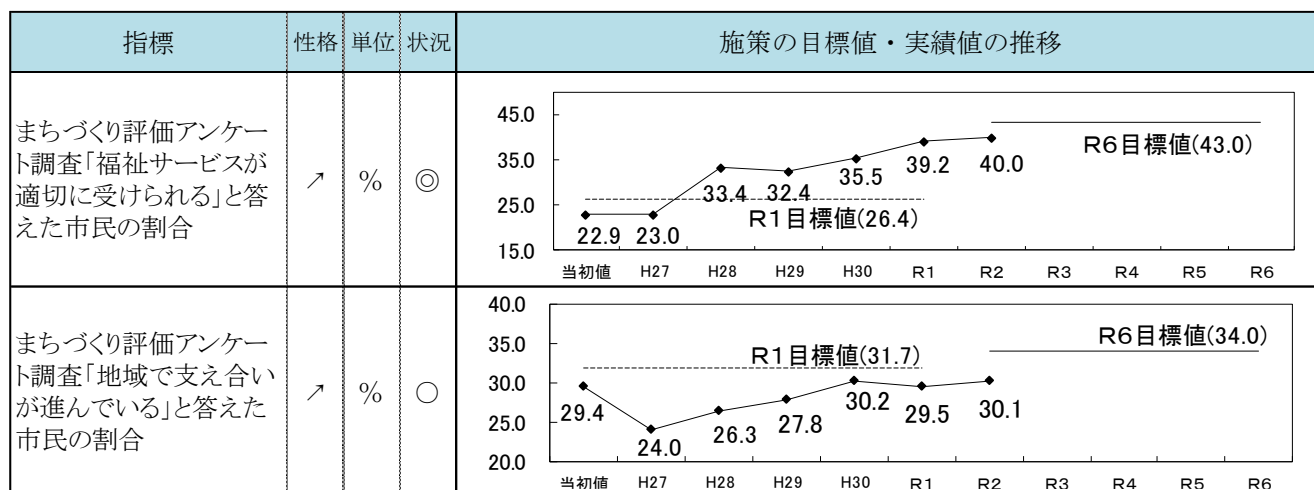
新たな犯罪を抑制し、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目的とした、「盛岡市再犯防止推進計画」を策定しました。

災害の発生に備え、避難行動要支援者名簿を毎年更新して、災害時の支援が必要な方の把握に努めました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
1		地域トータルケアシステム構築事業（地域福祉コーディネーターネットワーク構築事業）	一般		32	31	0	地域福祉コーディネーター等のネットワーク構築の推進
2		盛岡市社会福祉協議会事業費補助事業	一般	(★)	129	129	0	(社福) 盛岡市社会福祉協議会の事業費補助
3		社会福祉法人指導監督等事業	一般		12	10	0	社会福祉法人の所轄庁事務及び社会福祉法人・社会福祉施設等の指導監査事務を実施
4		地域再犯防止推進計画事業	一般		4	3	0	「盛岡市再犯防止推進計画」を策定
5		地域福祉団体育成事業	一般		3	3	0	31の地区福祉推進会に事業費補助金を支給
施策の計（一般会計 5事業）					180	176	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



・ 「福祉サービスが適切に受けられる」と答えた市民の割合／◎目標値に向け順調に推移

当初の目標値を越えて福祉サービスが適切に受けられると回答している背景には、高齢化社会の進展により、介護サービス等を受けたいと考える方、もしくは家族に受けさせたいと考える方が増加し、地域における福祉サービスの需要が高まっていることが背景にあると考えられます。

また、多様な支援機関同士が、複合的な要因により解決困難な事例に対しても、連携して取り組み、支援が地域に浸透してきています。

さらに、福祉総合ワンストップ窓口を社会福祉協議会への委託事業で設置したことも、順調な推移の要因と考えられます。

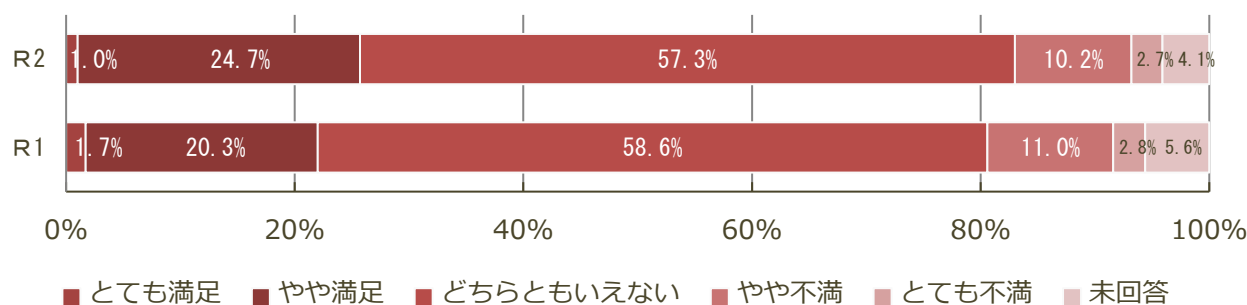
・ 「地域で支え合いが進んでいる」と答えた市民の割合／○目標値に向け推移

令和2年度は目標値を達成出来ませんでしたが、平成27年度から年々増加傾向にあること、また、ふれあいサロンの開催等が年々増加していることは、地域福祉コーディネーターが主体となって地域力強化に向けた取組を進めている成果であると考えられます。

地域住民が自主的に支え合えるような環境づくりについて、関係機関と連携して更に進める必要があることからモデル事業の成果や課題を検証し、市全区域の地域活動にいかに関与させていくことが目標達成に向けた今後の課題と言えます。

■ 施策に対する市民の実感

「共に支え合い安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けた取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

支援を必要とする人が福祉サービスを受けられる仕組みづくり

（成果）

ごみ屋敷の対応など、一つの相談窓口では解決が困難な複合的な事例について、各分野の福祉機関で構成される相談支援包括化推進員が連携して対応するネットワークを構築したことにより、民生委員や包括支援センターなどから寄せられた事例に対し、地域福祉コーディネーターや様々な関

係機関が連携し、福祉サービス等につなげることができました。

（問題点）

ひきこもり者を抱える世帯など、問題が表面化しにくく、相談につながりにくいケースなど、複合的な支援が必要なケースが増えていることから、支援につなげる相談体制の構築が必要です。

（今後の方向性）

令和4年度以降に行う、社会福祉法の改正に伴う「重層的支援体制整備事業」に向けた相談体制の構築を進めることで、既存の特定の分野の相談機関において、属性によらない相談を受け付けることで多機関がさらに連携し、相談機能の向上を図ります。

また、民生児童委員の相談業務の複合化・多様化等により、見守りなどの事例が増加していることなどから、包括的な相談窓口の周知や活用を図り、必要な福祉サービス等の利用につなげていきます。

共に支え合うことができる地域環境づくり

（成果点）

民生委員が要支援者に対して、避難行動要支援者情報提供同意者名簿への登録や、災害発生時に避難行動を取る際の補助となる「あんしん連絡パック」の配布を進め、全国的に災害が多発している中、災害時により円滑な支援が可能となりました。

（問題点）

地域内において支援を求める住民と、支援を提供したいと考える方との支え合いにつなぐマッチング活動が十分に機能できていません。

個人情報の流出を懸念する方等により、避難行動要支援者情報提供同意者の人数が増えていません。

（今後の方向性）

令和3年度改正の災害対策基本法において、個別避難計画の作成が努力義務化されたことから、安心パックの登録を進め、避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難に向けた事業を実施します。

地域福祉を担うひとづくり

（成果）

盛岡市社会福祉協議会が実施する、高校生ボランティアスクールや一般の方を対象としたボランティア入門講座により、ボランティアが継続して登録されており、支援活動等が行われています。

（問題点）

シルバーメイト事業において、見守り対象（シルバー）の高齢者が増加しており、見守る側（メイト）の新たな担い手が必要です。

（今後の方向性）

「重層的支援体制整備事業」において、地域のつながりの創出を目的とした支援を実施するなかで、ボランティアを担う人材の発見や育成に努めるとともに、実際の地域福祉活動につながるよう取組を推進します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

地域における包括的な相談支援システムの構築には、地域力を高めながら、個別支援だけでなく、地域資源を活かした仕組みづくりを推進し、各分野の相談支援機関などが有機的に連携できるような仕組み（地域トータルケアシステム）を構築して、「共に支え合うことができる地域環境づくり」に取り組んでいく必要があります。

その主軸となる地域福祉コーディネーターの設置を着実に進め、地域住民が自ら課題解決に取り組む意識を醸成するとともに、地域のつながりの創出を図る必要があります。

施策2 子ども・子育て、若者への支援

子どもの最善の利益を第一に、希望を持って子どもを産み育て、全ての子どもが健やかに成長できるように、子ども・子育て支援を進めます。

また、困難を抱える若者が自立できるように、社会全体で支援する仕組みを構築します。

■ 主要事業の実績

子ども未来基金を活用し、市民、団体などが行う子ども・子育て支援活動に補助しました。

子どもの医療費給付事業について、中学生の現物給付化を実施しました。

私立保育所等の整備、定員弾力化、保育士確保対策などを推進し、1月1日時点の待機児童0人を達成しました。

世帯年収が概ね550万円未満の世帯を対象に、以下の2つの助成を行いました。

①0～2歳児について、第2子以降の保育料の無償化を実施

②副食費（おかず代）や放課後児童クラブ利用料を助成

ひとり親の就労を支援（市の会計年度任用職員として雇用）しました。

保育士確保対策として、奨学金返還支援、宿舍借上げ支援、処遇改善支援を実施しました。

児童センター整備に向けた取組を行いました（見前北児童センター実施設計、向中野児童センター基本設計・地質調査）。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
6		私立児童福祉施設等運営事業	一般		5,320	5,274	0	認可された私立保育所、母子生活支援施設、助産施設の運営委託
7		認定こども園等運営費給付事業	一般		4,029	4,187	0	認定こども園や地域型保育事業による保育施設への給付
8		保育所管理運営事業	一般		397	393	0	市内公立保育所の管理運営
9		特別保育事業	一般	★	315	256	0	保育所での延長保育、一時預かりの実施
10		地域子育て支援センター事業	一般	★	65	69	0	市内の保育所8園における親子の交流の場の提供、子育て講座、子育て情報の提供等
11		子育て世代包括支援センター事業	一般		10	11	0	妊婦相談や乳幼児家庭訪問、出張子育て相談、子育て支援サービス等の情報提供、ケアプラン作成など
12		子ども未来基金事業	一般		32	17	0	市民等が実施する子ども及びその保護者に対する支援活動に要する経費の助成
13		子育て応援ブラザ運営事業	一般		25	25	0	室内遊び場や託児機能を備えた子育て支援エリアと、子育て中の母親を雇用する民間事業エリアの運営
14	1	医療費給付事業（妊産婦）	一般		136	120	0	妊産婦医療費給付
14	2	医療費給付事業（乳幼児）	一般		431	420	0	乳幼児医療費給付
14	3	医療費給付事業（小学生）	一般		231	248	0	小学生医療費給付
14	4	医療費給付事業（中学生）	一般		86	99	0	中学生医療費給付
15		子育てのための施設等利用給付事業	一般		494	316	0	特定教育・保育施設以外の施設等への利用料の給付
16		母子保健事業	一般		244	248	0	母子保健関係業務、子育て相談、思春期保健講演会等
17		乳幼児健康診査事業	一般	★	97	95	0	1歳6か月児・3歳児健診の実施
18		小児救急輪番制病院事業	一般		23	19	0	休日、夜間などに入院治療を必要とする小児重症救急患者を輪番制で診療する病院への運営費補助
施策の計（一般会計 13事業）					11,936	11,796	0	

・ 認定こども園等運営費給付事業

給付費算定に係る加算項目が増えた施設があったことにより、実績額が大きくなりました。

・ 子育てのための施設等利用給付事業

主に子育てのための施設等利用給付事業（預かり保育事業分）の利用実績（児童数及び対象経費）が見込みを下回ったため実績額が小さくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
子育て支援サービス利用者数	↑	人	△	100,000 80,000 60,000 40,000 20,000 0 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(74,000) R6目標値(86,868)
まちづくり評価アンケート調査「子育てを楽しんでいると感じている」と答えた子どものいる親の割合	↑	%	△	100.0 90.0 80.0 70.0 60.0 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(75.0) R6目標値(80.0)
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合	↑	%	○	60.0 40.0 20.0 0.0 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(40.0) R6目標値(50.0)

・ 子育て支援サービス利用者数／△遅れが生じている

平成27年度以降、目標値を上回っていた「子育て支援サービス利用者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度に続いて、大きく減少しました（平成30年度の35%まで減少）。

新型コロナウイルス感染症の蔓延が収束しない中でも、子育て世帯の孤立化を防ぎ、地域・社会とつながる場を維持していくために、利用者が安心してサービスを受けられるよう、感染症対策を万全にし、利用者数の回復を図っていくことが必要です。

また、盛岡バスセンターや新たな地区への子育て支援拠点の整備を進め、利用者の拡大を図ることも継続して取り組みます。

・ 「子育てを楽しんでいると感じている」と答えた子どものいる親の割合／△遅れが生じている

「子育てを楽しんでいると感じている」割合は、2年連続で概ね目標値に近い割合を維持していますが、令和元年度より微減しました。

保育環境の充実により、令和2年度には、4月、10月及び1月の3つの時点全てで待機児童0人を達成したほか、放課後児童クラブなど児童の放課後の居場所の整備や、育児不安解消に向けた相談窓口や産後ケアの充実、地域で子育てを見守る子ども食堂への支援、年収550万円未満相当世帯の第2子以降の保育料の無償化や各種医療費助成制度の拡充など、経済的な負担軽減策も実施してきたところであり、妊娠から子育て期までの切れ目のない子育て支援施策を継続して取り組みます。

・ 「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合

／○目標値に向け推移

「市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」割合は、平成27年度以降、微増傾向にありますが、令和2年度によりやく20%を超えたところであり、依然として、目標値とは大きな差がある状況で

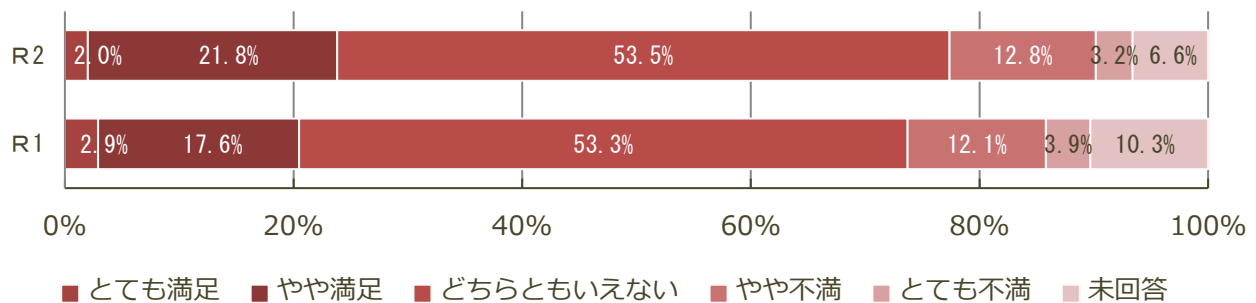
す。

この間、待機児童対策緊急プロジェクトや子ども未来基金を活用した子ども・子育て支援活動への補助、地域での子ども食堂の開設など、多方面に渡る子育て支援事業を展開してきたところですが、今後についても、ニーズ把握に努めるとともに、子育て支援に対する関心と理解が深まり、市民や地域・団体等、社会全体で子育てを支える気運が高まるよう、取組の充実及び周知の強化が必要です。

また、児童センター等の施設整備を進めることにより、児童が安心して過ごせる居場所づくりを推進します。

■ 施策に対する市民の実感

「安心して産み・育てられる子育て支援の取組が充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

保育環境の充実

（成果）

国の定義に基づく4月1日時点の待機児童は6年連続0人です。

（問題点）

空き待ち児童を含め、年間を通じた保育所入所希望者全員の入所には至っていません。

保育所定員の拡大に伴い保育士が必要となりますが、保育士が見つかりにくく、確保が難しい状況は変わっていません。

また、新型コロナウイルス感染症対策のため、保育士の業務量が増大しています。

（今後の方向性）

第2期盛岡市子ども・子育て支援事業計画における地域ごとの教育・保育の必要な量の見込みと、空き待ち児童の現状を比較しながら、施設整備や保育所定員の弾力化などに引き続き支援を行います。

保育士確保対策について、これまで様々な支援策を講じてきたことから、事業効果の分析を行うとともに保育関係者からの意見を伺い、保育士の定着を図りながら今後の支援策を検討していきます。

育児不安の軽減

（成果）

子ども家庭総合支援センターと子育て世代包括支援センターの一体的な運営や、職員体制及び関係機関の連携強化により、相談体制の充実が図られています。

（問題点）

虐待等の相談件数が年々増加しており、今後、更に増加していくことが懸念されます。

子育て支援の情報発信がホームページ主体であり、情報発信の方法を検討する必要があります。

（今後の方向性）

地域子育て支援拠点の充実を図ります。

児童虐待の発生予防のため、要保護児童及び要支援児童のいる世帯を対象とした養育支援訪問（家事援助）事業の対象エリアを拡大し、支援が必要な世帯へ行きわたるようにします。

子育て世代に広く活用されているスマートフォンを対象とした情報発信（LINE等の活用）を検討します。

支援体制の充実

（成果）

中学生の医療費給付事業について、令和2年8月から現物給付化を実施し、制度の拡充を図ったことにより、受給者が微増しました。

（問題点）

対象拡大、給付方式の変更（償還→現物給付）及び全額無料化を望む声がありますが、実施するためには継続して多額の費用を要することが課題となっています。

医療費給付事業の給付方式の変更は、国民健康保険療養費等国庫負担金の減額措置があり、国保財政に負担が生じます。

（今後の方向性）

乳幼児以外の現物給付方式は、国民健康保険療養費等国庫負担金の減額措置の対象となっており、県が1/2を補助することになっていますが、減額措置制度自体の廃止について、継続して国に働きかけます。

母子保健・予防の推進

（成果）

妊産婦健康診査や乳幼児健康診査の受診率は高い水準を維持し、適時適切な保健指導を行うことにより、健康の保持増進が図られました（3歳児健康診査は、新型コロナウイルス感染症対策のため、4～8月の間、開催を見送ったことにより受診率減少。）。

産婦健康診査と産後ケア（訪問型）により、医療機関等と連携した産婦の保健指導ができています。

（問題点）

産後ケア（デイサービス型）の取組を開始したところであり、円滑な事業実施に向けて、委託医療機関と連携を図っていく必要があります。

また、宿泊型の実施についても検討する必要があります。

（今後の方向性）

母子健康手帳交付時に妊産婦健康診査の重要性を説明し、受診勧奨を継続します。

医療機関と連携し、産後ケア（訪問型・デイサービス型）についての周知を図ります。

また、宿泊型の産後ケアについて、関係機関との検討会を継続し、実施に向けて取り組んでいきます。

困難を抱えた子ども・若者の支援

（成果）

新型コロナウイルス感染症の影響で、相談機会の確保が難しい状況でしたが、前年度の8割の子ども・若者に関する相談に対応し、支援を行うことができました。

（問題点）

不登校、引きこもりなど、困難を抱えた子ども・若者は増加傾向にあると認められますが、子ども・若者に関する相談件数は目標値に達していない状況にあります。

（今後の方向性）

子ども・若者に関する相談機関の一層の周知を図ります。

県や民間支援団体等と連携し、積極的に訪問活動を行うなど相談対応を強化します。

児童・青少年の健全育成

（成果）

少年センターの街頭巡回において、多くの子どもたちに声かけをすることで、少年非行の未然防止と早期発見に結びつきました。

補導件数は目標値以下を達成しており、前年比で30%以上減少しましたが、新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響もあるものと考えられます。

（問題点）

困難や悩みを抱える少年の現状が見えにくくなり、インターネット利用から犯罪に巻き込まれる事案が増加しています。

（今後の方向性）

出前講座の開催などにより、インターネット利用の弊害について普及啓発を図ります。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

子育て支援サービスは、コロナ禍のこのような状況だからこそ、育児不安や孤立を防ぐため、安全対策を取りながら充実させていく必要があります。

まちづくり評価アンケートの数値は、少しずつ目標値に近づいていますので、更に子育て施策の充実を図るとともに、子ども・子育て情報を必要とする人に適切に届くよう、情報発信の充実を図ります。

施策3 高齢者福祉の充実

高齢者が健康で生きがいを持ち、安心して暮らすことができる長寿社会の実現を目指し、高齢者の社会参加を促進するとともに、介護予防や認知症対策などを推進するほか、介護サービス提供体制を強化するなど、高齢者福祉の充実を図ります。

■ 主要事業の実績

平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス、通所型サービス、介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業）に取り組み、より一層の事業の周知を図り、利用者数の増加を図りました。

また、地域包括支援センターを市内11か所に設置し、年間約2万1千件の多種多様な相談へ対応し、相談者を必要なサービスにつなぐなど、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう「地域包括ケアシステム」の構築に努めました。

生きがい活動を支援する「老人福祉センター管理運営事業（28施設）」、「老人クラブ活動促進事業」、「盛岡ゆうゆう大学開催事業」等を通じ、高齢者の社会参加を促進しました。

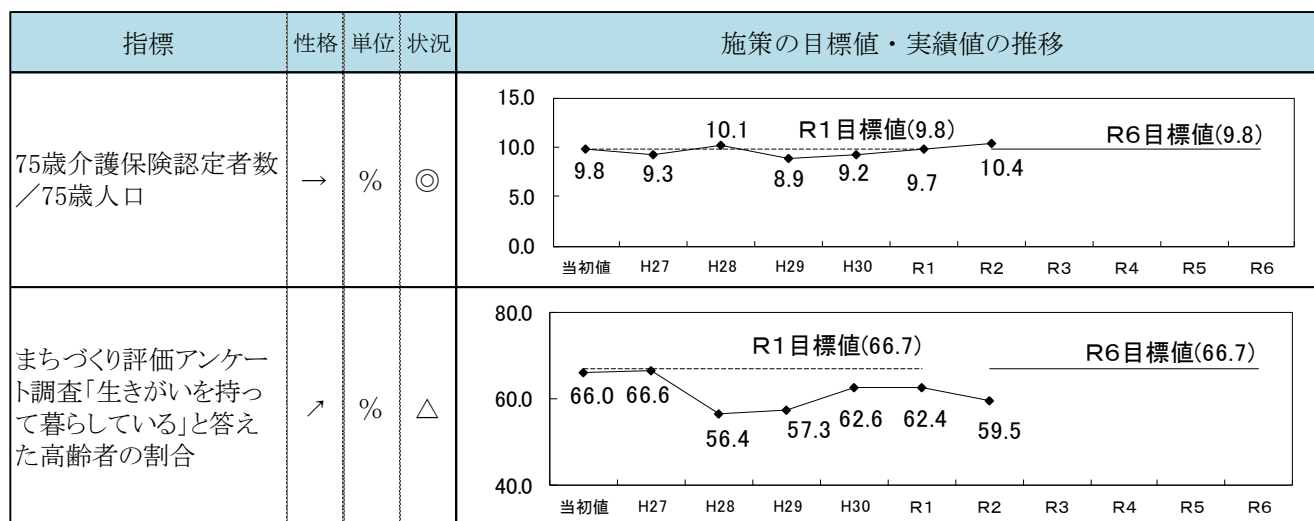
（単位 百万円）

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
19		地域包括ケアシステム構築事業（地域支援事業）	介護		934	925	0	介護予防事業、地域包括支援センターの運営、認知症施策など
20		生きがい活動推進事業	一般		29	7	0	老人作品展の支援、敬老バスの運行、スポーツ振興など
21	1	介護保険事業（繰出金）	一般		3,829	4,089	0	介護保険特別会計への一般会計繰出金
21	2	介護保険事業（施設整備）	一般		45	5	0	老人福祉施設整備に対する補助
21	3	介護保険事業（特別会計）	介護		24,918	26,169	0	介護保険制度の周知、介護保険サービスの運用など
施策の計（一般会計 3事業）					3,903	4,101	0	
施策の計（一般会計以外 2事業）					25,852	27,094	0	

・ 介護保険事業（繰出金、特別会計）

新型コロナウイルス感染症対応の介護報酬臨時特例の影響や、利用者の増加等により、保険給付費が増大したため、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



・ 75歳介護保険認定者数／75歳人口／◎目標値に向け順調に推移

令和元年度と比較して0.7ポイント上昇したものの目標値前後で推移しており、医療の進歩や食生活の向上、健康に対する高齢者の意識の変化等により健康寿命が伸び、元気な高齢者の割合が維持されていると考えられます。

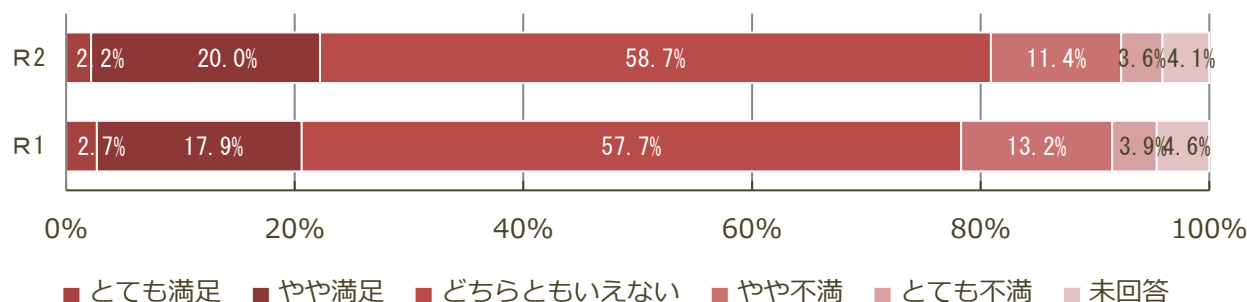
・ 「生きがいを持って暮らしている」と答えた高齢者の割合／△遅れが生じている

目標値を下回り、令和元年度から令和2年度は約3ポイント下降しています。この要因として、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、様々な活動が自粛された影響によるものと考えており、感染症の収束後は、従前の水準程度までは回復すると思われます。

令和6年度目標値の達成に向けては、社会との関わりを増やしていくことが、心身の健康増進に寄与するとの研究成果が示されていることから、市が行う元気はなまる教室や盛岡ゆうゆう大学の開催に引き続き取り組むとともに、高齢者の就業促進や、老人クラブの活性化など、高齢者の社会参加活動を促進するための取組を推進していきます。

■ 施策に対する市民の実感

「高齢者が積極的に社会参加できる取組や高齢者福祉サービスが充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

地域包括ケアシステムの構築

（成果）

地域包括支援センターへの相談件数が、平成27年度の14,795件から令和2年度は21,628件となり、相談機関周知の効果が表れています。

（問題点）

住民アンケートによると地域包括支援センターの認知度は50%以下と低いものの、高齢者人口が増加している中で地域包括支援センターの業務負担が過大との指摘もあり、認知度を上げることにより地域包括支援センターの業務量が更に過大となることが懸念されます。

（今後の方向性）

今後も更に地域包括支援センターの周知を行なうとともに、高齢者が相談しやすい環境づくりに努めます。また、生活支援コーディネーター兼認知症地域支援推進員が十分に機能することで地域包括ケアシステムの構築につなげます。

令和4年度からの重層的支援体制整備事業の実施に向け、関係機関との連携を強化し、困難事例等への対応能力を高めます。

高齢者の健康・生きがい対策の充実

（成果）

シルバーリハビリ体操推進事業を実施し、養成した体操指導者を、指導者会と連携して地域の通いの場へ派遣し、住民主体の介護予防の取組を推進しました。

市内27地区において、地区老人スポーツ大会が継続的に開催され、高齢者の健康増進が図られました。

（問題点）

生きがい活動をしている高齢者数が、令和元年度は225,297人、令和2年度は192,233人となり、前年度と比較すると減少しています。

生きがい活動の場を増やすには、地域での活動の担い手を増やす必要があります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため様々な活動が自粛されました。

（今後の方向性）

シルバーリハビリ体操の指導者の養成をすすめるなど、担い手となる高齢者が増加するような事業を継続します。また、新型コロナ感染症拡大防止に努めながら、様々な生きがい活動を実施することができる環境づくりに努めます。

高齢者福祉サービスの充実

（成果）

介護予防・日常生活支援総合事業の利用者数は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で前年度を下回ったものの、長期的には増加傾向にあり、介護予防の対策に寄与していると考えられます。

（問題点）

介護サービス利用者が増加傾向にある中で、介護職員の人材不足が深刻化しています。

（今後の方向性）

サービス利用者が安定した介護サービスを受けられるよう、介護従事者確保事業の拡充を行います。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

高齢者人口が急速に増加する中、特に団塊世代の高齢化に対応するためにも、高齢者が元気に安心して生活できる環境の構築が必要となっており、健康寿命の延伸には介護予防施策の一層の充実が必要

です。

また、認知症対策の中では、成年後見制度について、専門の相談機関を広域市町と共同設置していますが、高齢者が安心して地域で生活できるよう、成年後見制度の活用に向けて、周知や制度利用への支援等に取り組む必要があります。

また、介護サービス提供体制を支える担い手の不足が顕著なものとなっており、国の施策とともに、市としての具体的な取組を充実させていく必要があります。

施策4 健康づくり・医療の充実

生涯にわたり健やかに暮らすことができるように、健康相談や健康診査などを実施するとともに、医療体制の拡充や医療費を助成するなど、健康づくりと医療の充実を図ります。

■ 主要事業の実績

懸案事項であった成人検診・特定健診・後期高齢者健診の各種受診券を、関係課4課で俯瞰的に検討した結果、1本化を実現することが可能となり、市民の利便性を図ることや、経費削減ができました。

胃がん集団の受診者数が新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために、個別検診の実施ができなかったことから、追加日程と予算を調整して対応したため、前年度より増加しました（1,091人→3,621人）。

骨粗しょう症予防検診、受診券や市広報ホームページでPRしたことで、前年度より42名増加しました。

公募型協働推進事業を活用し、青年期壮年期の働き世代を対象に土日の教室を開催やチラシの工夫SNSでの周知したため、若い世代の参加者が増加しました。

予防接種事業では、子どもや高齢者に対する定期予防接種を実施したほか、幼児小中学生を対象としてインフルエンザ予防接種の一部助成を行い、感染症のまん延防止に努めました。

精神保健福祉事業では、盛岡市自殺対策推進計画に基づき、こころの健康づくり講座及びゲートキーパー研修会等を開催し、市民のこころの健康づくり及び普及啓発人財育成に努めました。

食品衛生や生活衛生に係る営業施設等に対する監視指導、営業者等による自主衛生管理体制の推進を通じて良好な衛生環境の確保に努めました。

感染症予防事業では、巡回検診車による結核レントゲン検診を実施したほか、広報等による啓発、医療機関との連携により、市民に結核予防の重要性を周知しました。

また、エイズ、肝炎に係る相談及び無料の検査を定期的の実施し、感染症の早期発見及び予防に努めました。

医療費通知や後発医薬品の利用勧奨通知の送付、重複頻回受診者に対する保健指導等、医療費の適正化に向けた取組を推進したほか、健康教室や糖尿病重症化予防事業等各種保健事業を実施しました。

国民健康保険の特定健康診査の受診率を向上させるため、AIを活用した被保険者ひとり一人の特性に応じた、特定健康診査受診勧奨（はがき）を実施しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
22		各種健康診査事業	一般	★	487	285	0	各種がん検診健康診査、女性健康診査、肝炎ウイルス検診、骨粗鬆症予防検診の実施（新型コロナウイルス感染症の影響により、胃がん個別検診及び大腸がん検診について実施を中止した）
23		健康教育事業	一般	★	4	3	0	ウォーキング教室、地区健康教室、病態別栄養教室などの開催（新型コロナウイルス感染症の影響により、一部健康教室、健康相談及び健康フェスタについて実施を中止した）
24		精神保健福祉事業	一般		4	4	0	こころの健康についての相談、自殺対策事業
25		予防接種事業	一般		887	880	0	インフルエンザなどの各種予防接種
26		感染症対策事業	一般		117	254	0	感染症に関する検診や予防対策の周知、新型コロナウイルス感染症対策など
27		食品衛生指導事業	一般		7	4	0	食品営業施設の監査指導や食品営業許可など
28		生活衛生指導事業	一般		1	1	0	公衆浴場など生活衛生施設に対する営業許可や井戸水の検査など
29		医務業務指導事業	一般		1	1	0	医療施設の開設許可や医薬品販売業などの許可・登録、病院への立入検査
30		第二次救急医療事業	一般	★	60	60	0	休日、夜間などに入院治療を必要とする重症救急患者を輪番制で診療する病院への運営費補助
31		在宅当番医制事業	一般		8	8	0	休日などに開院する内科、小児科、外科・整形外科、歯科の在宅当番医による診療
32		夜間急患診療所管理運営事業	一般		75	72	0	夜間の初期救急患者のための内科、小児科の診療（年中無休）
33	1	国民健康保険事業（繰出金）	一般		1,725	1,676	0	国民健康保険費特別会計への一般会計繰出金
33	2	国民健康保険事業（特別会計）	国保		25,250	25,360	0	国民健康保険の被保険者への保険給付、人間ドック等の保健事業など
34	1	後期高齢者医療事業（繰出金など）	一般		3,373	3,326	0	医療給付に要する費用、健康診査等助成及び特別会計への一般会計繰出金など
34	2	後期高齢者医療事業（特別会計）	後期高齢		3,250	3,225	0	申請受付、保険料の徴収及び保険基盤安定負担金を含む広域連合納付金など
施策の計（一般会計 13事業）					6,749	6,574	0	
施策の計（一般会計以外 2事業）					28,500	28,586	0	

- 各種健康診査事業

当初計画では、個別検診のうち胃がんX線検診、胃がん内視鏡検診及び大腸がん検診についても実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により当該検診の実施を中止したことから、委託料及び事務費の一部に不用額が生じ実績額が小さくなりました。

- 感染症対策事業

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、当初計画に計上していなかった、まん延防止等の感染症対策を実施しました。

- 国民健康保険事業（特別会計）

医療の高度化、被保険者の高齢層の増加等の影響により、保険給付費が増加したため、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
3大死因 ^{*1} の死亡率(人口10万対年齢調整死亡率 ^{*2}) ^{*3}	↘	割合	☆	225.6 213.7 208.9 204.7 202.7 197.4 R1目標値(223.3) R6目標値(221.1)
まちづくり評価アンケート調査「身近に健康について相談できる人がいる」と答えた市民の割合	→	%	◎	90.8 90.8 84.7 85.8 87.6 85.4 86.2 R1目標値(90.8) R6目標値(90.8)
まちづくり評価アンケート調査「いつでも受診できる医療機関がある」と答えた市民の割合	→	%	◎	90.9 89.8 86.5 84.5 87.1 86.0 85.0 R1目標値(90.9) R6目標値(90.9)

*1 3大死因

悪性新生物，心疾患，脳血管疾患のことです。

*2 年齢調整死亡率

人口構成の異なる集団間で比較するために，死亡率を一定の基準人口にあてはめて算出した指標です。

*3 令和2年度の実績値は，令和4年3月に公表予定です。

- 3大死因の死亡率（人口10万対年齢調整死亡率）／☆目標値に到達

がん検診の受診率は、新型コロナウイルス感染症のために胃がん検診と大腸がん検診の個別検診が実施できなかったことや受診控えのために減少しましたが、医療機関の充実や医療の進化等により死亡率は減少傾向にあるものと考えられます。

- 「身近に健康について相談できる人がいる」と答えた市民の割合／◎目標値に向け順調に推移

新型コロナウイルス感染症のために、計画していた相談事業が実施できず、今後もコロナ渦の状況が続く限り気軽に相談できる環境にはなりづらいと懸念されますが、実績値の大きな落ち込みには至っていない状況です。

- 「いつでも受診できる医療機関がある」と答えた市民の割合／◎目標値に向け順調に推移

在宅当番医制事業や夜間急患診療所運営事業で初期救急医療体制を充実させ、二次救急医療事業や小児救急輪番制病院事業で重症救急患者の診療にあたるよう、それぞれの事業を継続することで、24時・365日受診できる医療体制を継続します。

かかりつけ医がいることにより、体調などに関して相談が可能となるため、必要時に医療面で早め

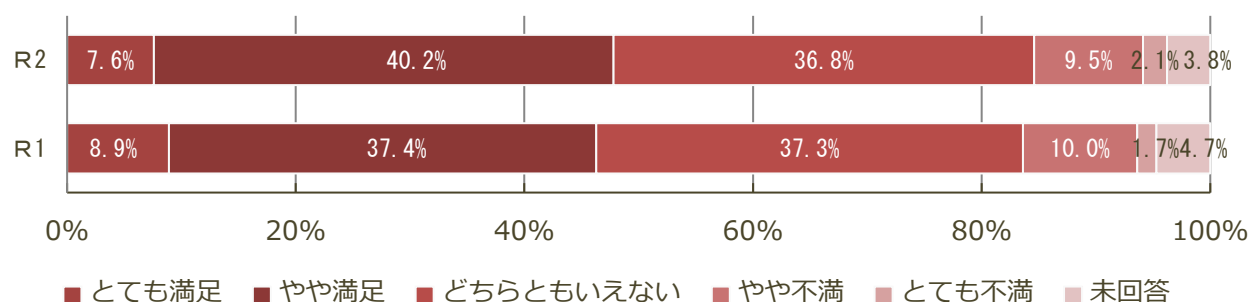
の対策がとれ、専門医を的確に紹介することが可能となります。

かかりつけ医がない場合、自己判断で受診を控えたり、延期するなど、誤った対応策を取るなどし、重症化してしまうことがあります。

何でも相談できるかかりつけ医をもち、体調が悪いときには早期の受診が有効であることの周知を図ります。

■ 施策に対する市民の実感

「健康診断や予防接種、健康相談がしやすい」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

健康の保持増進

（成果）

3大死因による死亡率は当初値から減少傾向に推移し、身近に相談出来る人やいつでも受診できる医療機関があると回答した割合は横ばい状況にあります。

（問題点）

各種検診の受診率が、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え等もあり向上していません。

（今後の方向性）

国の補助金を利用したコールリコール（受診再勧奨）の実施に向けて取組みを行います。

受診率が伸び悩んでいる若年層や働き盛り世代に、検診の必要性や健康管理の重要性を伝えるために、SNSなどを活用し周知に取り組みます。

保健・予防の推進

（成果）

全結核罹患率が低下傾向にあり、令和2年度で目標値から2.99%下回りました。

乳幼児に係る定期予防接種の接種率は、高い水準を維持しています。

（問題点）

若年時に感染し、休眠していた結核菌が、高齢化に伴う免疫低下などにより発症することが一因となって結核患者における高齢者の割合が全国的に増加傾向にあります。

定められた期間内に予防接種を受けそびれる人がいます。

（今後の方向性）

加齢に伴う免疫低下はやむを得ない現象ですが、定期的にレントゲン検診を受ける機会を増やすことで、症状の発症・進行を早期に発見し、さらに要精密検査となった対象者へ受診勧奨を行い、速やかな再検査、治療に結び付け重症化及び感染の抑制に繋げ、DOTS（直接服薬確認療法）事業の推進により、治療成功率を高めます。

乳幼児について、新たに定期予防接種が追加されることに伴い、開始時期や対象者について市民に適切に情報提供し、盛岡市医師会等と連携しスムーズな実施に向け準備を行います。

また、新たに幼児等おたふくかぜ予防接種助成について検討します。

生活衛生対策の推進

（成果）

食品関係事業者等の衛生意識の向上の結果、不良食品苦情件数は45件、収去検査の不適件数は6件と、低い水準で維持できています。

（問題点）

監視対象施設が約9,500件と多く、すべての施設の監視が困難となっています。

（今後の方向性）

重点監視対象施設を中心に、引き続き計画的に監視指導を実施します。

改正食品衛生法の施行に合わせ、監視対象施設の見直しを検討します。

収去検査及び検査結果に応じた衛生指導を継続します。

食品事業者等への監視指導及び衛生講習による食品衛生の普及啓発を継続します。

医療機関との連携強化

（成果）

市民にとって安心してかかることができる医療機関を確保することができました。

（問題点）

新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えも一定程度見られています。

令和元年9月に岩手医科大学附属病院が矢巾町へ移転しましたが、大きな混乱もなく順調に経過しています。

（今後の方向性）

かかりつけ医の受診を促すため周知を図ります。

初期救急の盛岡夜間診療所の周知を図ります。

健康保険制度の健全運営

（成果）

保険税収納率の令和2年度実績値は92.9%となり、令和6年度目標値である92.0%を超える実績を継続しています。

（問題点）

保険税収納率は目標値を超えているものの、一人当たりの療養諸費費用額が増加傾向にあるほか、収支の均衡をはかるため、保有している国民健康保険事業財政調整基金を取り崩しています。

特定健康診査の受診率は年々上昇傾向にあり、令和元年度に50.1%と中核市で初めて50%以上を達成したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり42.7%と大幅に減少しました。

（今後の方向性）

生活習慣病予防など保健事業を強化し、医療費抑制に向けた施策の充実を図ります。

後期高齢者のフレイル予防を推進するため、個別または通いの場において「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」を実施します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

健康の維持・予防においては、病気の早期発見・早期治療のための健診受診率の向上がさらに求められます。

また、生活習慣病予防や介護予防等、将来安定したQOL（生活の質）の向上を獲得するため、市民が気軽に参加できる健康教育・健康相談等の実施や健康づくりをサポートする関係機関等と連携を図りながら、市民自らが主体的に健康づくりに取り組む環境づくりを進め、健康寿命の延伸を図る必要があります。

施策5 障がい者福祉の充実

障がい者が地域の一員として安心して暮らすことができるように、障がいや障がい者への市民の理解と交流を促進するとともに、障がい者福祉サービスの充実を図ります。

■ 主要事業の実績

障がい福祉サービス受給者（介護の支援を受けるサービス、生活や就業の訓練を受けるサービス、障がい児が療育の支援を受けるサービスの利用者）は3,636人となり、平成25年度と比べて1.47倍に増加、令和元年度との比較でも増加（令和元年度：3,474人）しました。

また、平成29年4月から盛岡市基幹相談支援センターを設置し、令和2年度の実績は、障がい者からの相談1,530件、相談支援事業者に対する助言87件、相談支援事業者以外の関係機関からの相談315件あり、相談支援体制の充実を図りました。

施設整備については、共同生活援助事業所2件の創設に対し助成しました。

（単位 百万円）

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
35		地域生活支援事業	一般		258	249	0	精神障がい者及び家族対象のサロン、市民を対象にした講演会
36		障がい者相談支援事業	一般		39	38	0	身体・知的・精神に係る相談事業、福祉サービスなどに関する情報提供、基幹相談支援センター業務委託
37		障がい者福祉施設整備助成事業	一般		39	39	0	障がい者福祉施設整備に対する助成
38		介護給付等給付事業	一般		3,262	3,524	0	障がい者に対する居宅介護や生活介護、施設入所支援などのサービス給付
39		訓練等給付事業	一般		2,392	2,495	0	障がい者の機能訓練、生活訓練、就労支援など
40	1	医療費給付事業（重度心身障がい者）	一般		718	702	0	重度心身障がい者への医療費給付
40	2	医療費給付事業（中度身体障がい者）	一般		212	205	0	中度身体障がい者への医療費給付
施策の計（一般会計 6事業）					6,920	7,252	0	

・ 介護給付等給付事業、訓練等給付事業

利用者の増加に伴い、給付金額が計画額を上回ったため、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																											
障がい福祉サービス受給者数	↗	人	◎	<table><caption>障がい福祉サービス受給者数推移表</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>2,460</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>2,780</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>2,969</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>3,102</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>3,266</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>3,474</td><td>3,300</td></tr><tr><td>R2</td><td>3,636</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>4,100</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	2,460		H27	2,780		H28	2,969		H29	3,102		H30	3,266		R1	3,474	3,300	R2	3,636		R6		4,100
年度	実績値	目標値																													
当初値	2,460																														
H27	2,780																														
H28	2,969																														
H29	3,102																														
H30	3,266																														
R1	3,474	3,300																													
R2	3,636																														
R6		4,100																													
施設から地域への移行	↗	人	○	<table><caption>施設から地域への移行推移表</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>96</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>114</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>134</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>144</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>150</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>156</td><td>150</td></tr><tr><td>R2</td><td>159</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>195</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	96		H27	114		H28	134		H29	144		H30	150		R1	156	150	R2	159		R6		195
年度	実績値	目標値																													
当初値	96																														
H27	114																														
H28	134																														
H29	144																														
H30	150																														
R1	156	150																													
R2	159																														
R6		195																													
施設から一般就労への移行	↗	人	◎	<table><caption>施設から一般就労への移行推移表</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>18</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>45</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>44</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>51</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>64</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>55</td><td>19</td></tr><tr><td>R2</td><td>61</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>69</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	18		H27	45		H28	44		H29	51		H30	64		R1	55	19	R2	61		R6		69
年度	実績値	目標値																													
当初値	18																														
H27	45																														
H28	44																														
H29	51																														
H30	64																														
R1	55	19																													
R2	61																														
R6		69																													
管内事業所の障がい者雇用率	↗	%	△	<table><caption>管内事業所の障がい者雇用率推移表</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>1.74</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>1.83</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>1.95</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>2.12</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>2.10</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>2.18</td><td>2.00</td></tr><tr><td>R2</td><td>2.17</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>2.30</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	1.74		H27	1.83		H28	1.95		H29	2.12		H30	2.10		R1	2.18	2.00	R2	2.17		R6		2.30
年度	実績値	目標値																													
当初値	1.74																														
H27	1.83																														
H28	1.95																														
H29	2.12																														
H30	2.10																														
R1	2.18	2.00																													
R2	2.17																														
R6		2.30																													

・ 障がい福祉サービス受給者数／◎目標値に向け順調に推移

障がい福祉サービス受給者は増加を続け、令和2年度で3,636人となり、令和6年度のまでには目標値に達する見込です。

理由としては、サービスを提供する事業所が増えていること、また子どもの発達支援に不安を抱える保護者が増加し、障がい児通所支援の需要が増加していることなどが要因と考えられます。

令和2年度中の事業所数は、特に就労継続支援B型が3事業所増加しており、同サービスの利用者増につながっています。

・ 施設から地域への移行／○目標値に向け推移

地域での受け入れが先が増えたことにより、施設を退所し、グループホームやアパート・一般住宅等地域での生活へ移行する人は増加しています。

障がい者の高齢化・重度化により、施設入所支援のニーズはあり、身体障がい者施設の待機者がいる状況が続いています。

・ 施設から一般就労への移行／◎目標値に向け順調に推移

平成27年以降、目標値を大きく上回って達成しています。これは、主に一般就労するための訓練を提供する「就労移行支援」の利用者が平成24年度から26年度の間増加し（平成24年度51人⇒平成26年度88人）、その後も微増（令和2年度95人）してきたことから、一般就労した方の増加につながったものと考えられます。

また、障がい者の法定雇用率が、平成30年度に2.0%から2.2%に引き上げられたことも、大きな要因であると考えられます。

・ 管内事業所の障がい者雇用率／△遅れが生じている

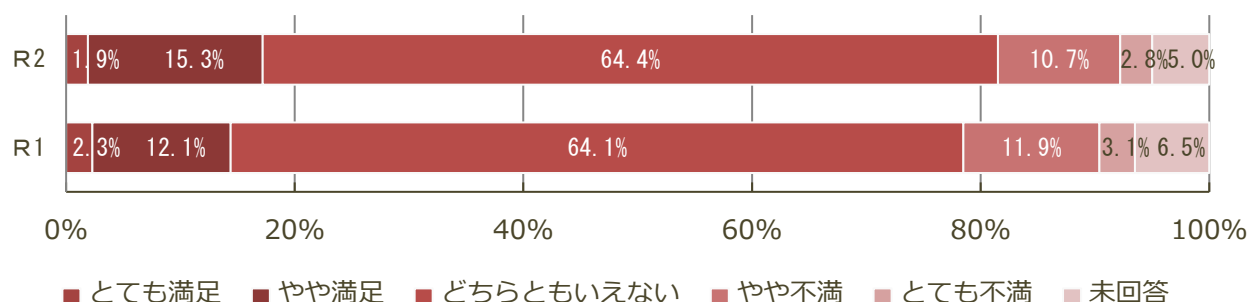
平成29年度以降、目標値を達成しており、全国平均の2.15%を上回っています。

一方、法定雇用率（2.2%）を下回っている状況にあり、就労移行支援等による障がい者の就労支援

をより一層進める必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「障がい者が安心して暮らすことができるまちづくりや障がい福祉サービスが充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

障がい者への理解と交流の促進

（成果）

盛岡市障がい者芸術文化祭を、プラザおでつにて開催しました。参加作品数は令和元年度の76点から60点と16点減少はしたものの、入場者数に関しては134人から180人と46人の増加となりました。

聴覚障がい者とのコミュニケーションの促進を図るため、手話初級講座を実施しました。令和元年度は受講者が18人であったのに対し、令和2年度は22人と4人増加しました。

（問題点）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、盛岡市障がい者スポーツ大会そのものを中止としたことにより、障がい者とボランティアの交流を図ることができませんでした。

（今後の方向性）

障がい者スポーツ大会や芸術文化祭などの催事を工夫するなどし、障がい者と市民との交流を進めます。

障がい者福祉サービスの充実

（成果）

障害福祉サービスの受給者は順調に増えており、また、障がい者就労に関する2つの指標についても、目標値を達成済みです。

（問題点）

障がい者の雇用率について、目標値を達成しているが、一方で法定雇用率を下回っている状況にあり、依然として一般就労に向けた支援を進める必要があります。

全国的に、就労継続支援A型事業所の適正な運営について問題視されています。市内事業所でも全18事業所中10事業所が、令和元年度就労支援事業会計決算において赤字でした。これは、利用者の賃金額に直結する問題であることから、事業所に対して関係機関と連携して、賃金向上につながるよう、指導、支援を行う必要があります。

施設から地域への移行について、進捗が遅れが生じています。障がい者が地域で生活するためには、障害の程度や特性のほか、家族の状況など様々な要因を考慮し支援体制を個々に構築していく必要がありますが、一方で市内の社会資源が十分に整っていないことが一因であると考えられます。

（今後の方向性）

障害福祉サービスによる支援を必要とする方に、適切に給付できるよう、取り組みを継続します。

既存の障がい者福祉施設整備事業補助金を活用するほか、今後予定している地域生活支援拠点整備

事業、重層的支援事業により、支援体制を整備していきます。

また、既存事業所に対しては、適切な助言指導を引き続き行い、運営の適正化や経営状況の改善を促します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

障がい者がサービスを受ける環境や働く環境は、整備が進み良好に推移しています。

しかし、障害者差別解消法については、市民の理解が横ばい傾向にあることから、同法の周知を推進する必要があります。

また、医療的ケアが必要な在宅の重症心身障がい児（者）等については、ライフステージにおける様々な相談への対応が重要であり、日中活動等サービスの提供について、引続き関係機関等との協議・調整を行い、体制整備を進めていく必要があります。

施策6 生活困窮者への支援

生活困窮者が自立し安定した暮らしができるように、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度などによる支援を推進します。

■ 主要事業の実績

生活保護受給者を対象とした就労支援事業において、ハローワークと連携した就職による経済的自立の実現、求職活動へのステップアップ、社会参加を促す職場体験といった対象者の状況に応じた支援を行いました。

平成27年度に開始した生活困窮者自立支援制度において、「盛岡市くらしの相談支援室」による自立相談支援事業のほか、住居確保給付金支給事業、就労準備支援事業、学習支援事業など、生活困窮者に対し「第2のセーフティネット」として、生活保護に至る前の段階から支援を行いました。

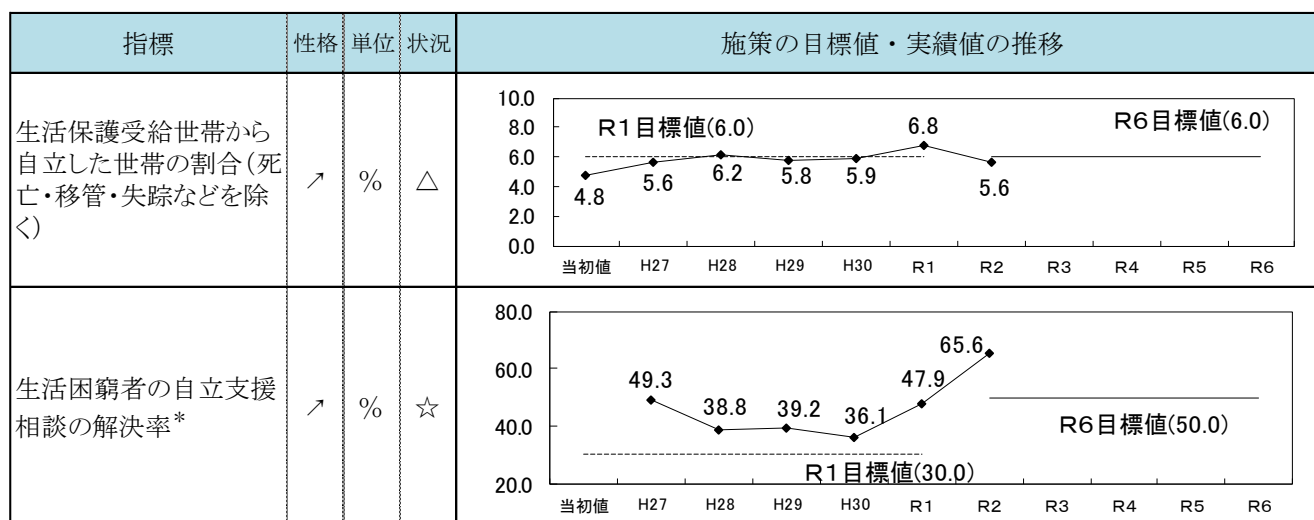
(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
41		生活保護事業	一般		7,304	7,252	0	生活困窮者への生活扶助費、住宅扶助費、教育扶助費、医療扶助費などの支給
42		生活困窮者自立支援事業	一般		69	94	0	生活困窮者の就労、住宅確保、学習等の支援及び自立に関する相談支援など
43	1	医療費給付事業（ひとり親家庭）	一般		137	150	0	ひとり親家庭医療費給付
43	2	医療費給付事業（寡婦・寡夫）	一般		63	63	0	寡婦・寡夫医療費給付
44		公営住宅整備事業	一般		966	865	46	市営青山三丁目アパート1号館の建設工事及び既存市営住宅の改善工事など
施策の計（一般会計 4事業）					8,539	8,425	46	

・ 公営住宅整備事業

入札差金（設計額と契約額の差金）により、事業費の減額が生じたことで、実績額が小さくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



* 平成27年度から新たに設定した指標です。生活困窮者自立支援法の施行（27年4月）に伴い実施する事業において実績を把握するため、当初値は表示していません。目標値については、類似事業の実績値を基に設定しています。

・ 生活保護受給世帯から自立した世帯の割合／△遅れが生じている

勤労収入の増加による保護廃止割合の低下は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済の低迷による影響が考えられます。

また、感染防止のために、常設窓口「ハローワーク盛岡就労支援コーナー」への来所を自粛し利用件数が減少したことも、要因と考えられます。

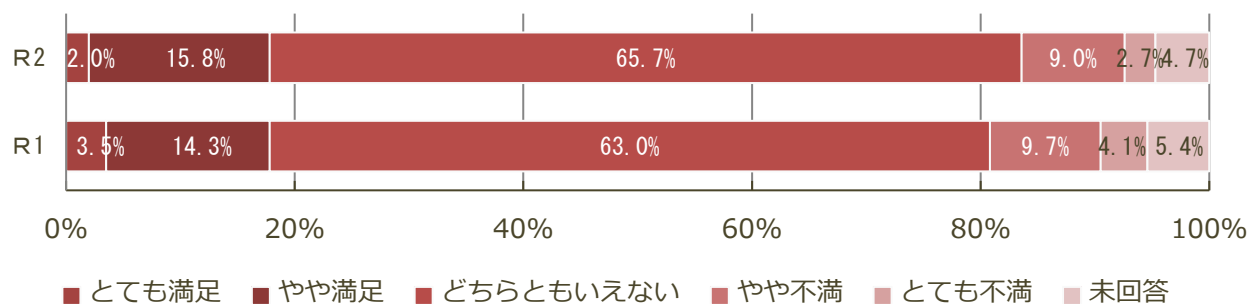
・ 生活困窮者の自立支援相談の解決率／☆目標値に到達

「盛岡市くらしの相談支援室」における自立支援相談の解決件数は、令和2年度、過年度分を合わせ1,361件であり、生活困窮者の抱えている課題を評価・分析した上で、ニーズに応じて計画的かつ継続的に丁寧な支援を行っています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会経済の低迷による相談者の急増に対応するため、相談支援員2名を追加配置したことから、解決率（当該年度の新規相談件数と過年度分の繰越件数の合計に対する当該年度の解決件数の割合）が高まりました。

■ 施策に対する市民の実感

「生活保護や医療助成などの生活の自立を支援する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

生活困窮者の自立支援

（成果）

生活困窮者自立支援制度で対応している相談者の解決率が、目標値を上回っています。

（問題点）

相談者の抱える問題が複雑なものが多くなり、全体の支援件数が増加していることから、十分なアウトリーチが困難になっています。

（今後の方向性）

生活保護受給者を対象とした就労支援事業については、引き続きハローワークと連携して事業の充実を図ります。

生活困窮者自立支援制度に基づく各事業については、盛岡市生活困窮者自立支援庁内連携会議を構成する庁内関係課や関係機関との連携を密にし、支援の充実を図ります。また、生活困窮者のより多くの新規相談に対応し、支援の充実を図るため、令和元年度から実施している家計改善支援事業において、家計管理に課題を抱える世帯への働きかけを行い、利用者増に結び付けるとともに、自立相談支援の解決率を上げます。

学習支援事業については、令和3年度から学習会の常設会場を1か所増設したことから、積極的な周知を図り、利用者増に努めます。

「盛岡市くらしの相談支援室」にアウトリーチ支援員を令和2年度から配置し、就職氷河期世代への支援の一環として、ひきこもりに陥った方への支援を行います。

安定した生活の確保

（成果）

老朽化した市営住宅が、建替えや改修工事の実施により、良質な住宅に改善されました。

（問題点）

老朽化等に伴い、入居募集できない空き住戸が年々増加傾向にあります。

（今後の方向性）

市営住宅長寿命化計画に則し、適切な改修工事を進めながら、募集戸数の増加を図ります。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

生活困窮者自立支援制度により、生活保護の対象にならない生活困窮者を救うための事業が実施され、働く意欲を促すなど実績を上げてます。

一方で、家庭における解決しなければならない課題が多種多様で複雑なものが多い現状もあることに加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済への影響もあり相談件数が増加していることから、生活困窮者支援の関係機関と庁内関係部局の連携の強化によるチーム支援により、迅速かつ包括的に一層取組んでいく必要があります。

施策 7 人権尊重・男女共同参画の推進

お互いを理解しながら個人が尊重される社会を実現するため、人権尊重の精神と平和の尊さの意識啓発に取り組むとともに、男女が均等に利益を享受し、責任も分かち合いながら、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画を推進します。

■ 主要事業の実績

【平和・人権啓発の推進】

原爆写真パネル展を市内3箇所で開催したことにより、多くの市民に戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、そして平和の尊さを啓発することができました。

また、戦没者追悼式には177人の市民が参列し、恒久平和を願う機会とすることができました。

盛岡人権擁護委員協議会への事業補助金により、同協議会の円滑な運営が図られたほか、各種人権啓発活動による人権擁護思想の普及や人権相談による人権擁護活動が行われました。

また、盛岡・二戸・宮古地域人権啓発活動ネットワーク協議会盛岡部会が行う人権啓発活動や、盛岡人権擁護委員協議会が行う各種啓発活動に積極的に協力しました。

【男女共同参画の推進】

令和2年7月に策定した第3次盛岡市男女共同参画推進計画に基づき、各事業を計画的に推進しました。

男女共同参画の意識醸成や性の多様性についての関心と理解を深めるため、市民向け講座、イベント等の啓発事業及び市職員を対象とした研修を実施しました。

審議会等における女性委員の登用率向上のため庁内に働きかけを行ったほか、女性活躍の取組が進むよう、先進的取組事例の紹介や講演会等を通じ、市内企業の取組支援を行うとともに、働く女性向けの人材育成セミナーや講座等を開催しました。

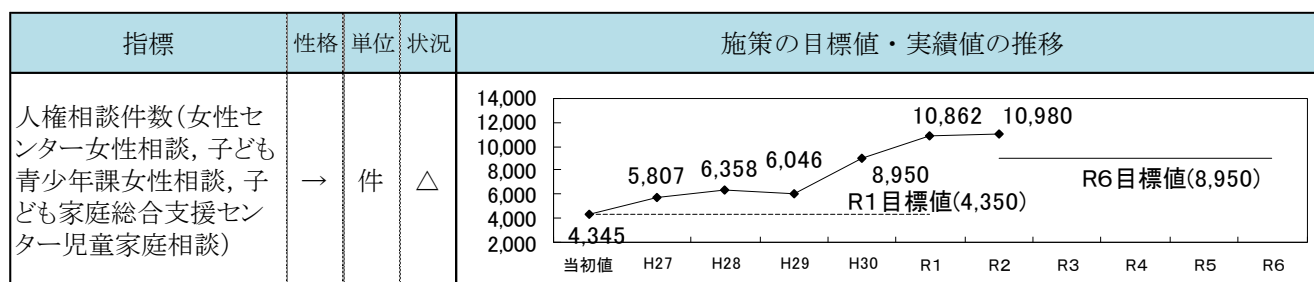
女性センターや子ども青少年課での女性相談等において、児童虐待とDVの各担当部署、関係機関及び盛岡広域市町と連携を図りながら適切な助言や支援を行うとともにDV被害者の安全確保を図りました。

また、庁内窓口関係課を対象に職員向けDV研修を実施したほかDV防止のための人権出前講座や啓発活動を行いました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
45		人権擁護事務	一般		1	1	0	人権の花運動、盛岡市人権擁護委員協議会活動補助
46		男女共同参画意識啓発事業	一般		1	1	0	男女共同参画意識を高めるために、情報紙「あの・なはん」の作成や男女共同参画に資する人材を育成するための講座の開催など
47		配偶者等暴力防止事業	一般		4	4	0	DV相談、指導及び被害を予防するための啓発など
施策の計（一般会計 3事業）					6	5	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



・ 人権相談件数（女性センター女性相談，子ども青少年課女性相談，子ども家庭総合支援センター児童家庭相談）／△遅れが生じている

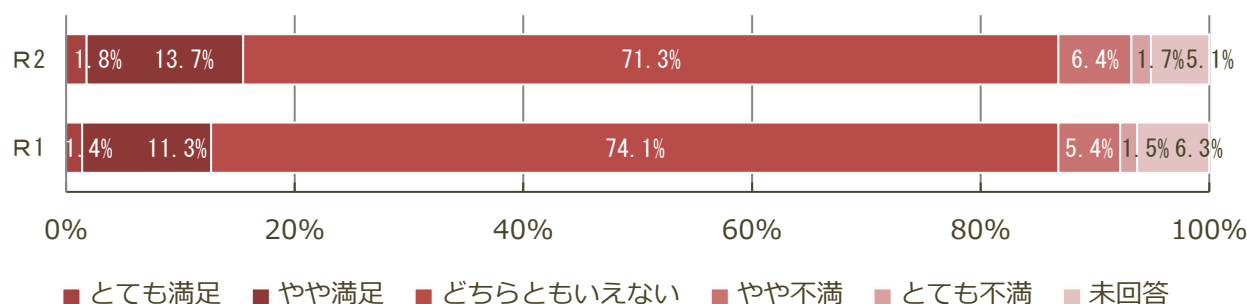
子ども家庭総合支援センターの開設（平成30年）や，女性相談窓口の周知啓発活動の継続により，相談件数は平成30年度以降高めに推移しています。

長期的には，「人権に関する困りごとそのもの」を減少させることを大きな目標としていますが，潜在的な相談需要の掘り起こしの観点から，今後も意識啓発（街頭キャンペーン）や広報による相談窓口の周知や相談体制の強化を進めることで，一定数の新規相談件数を保ちつつ，継続相談を解決に結びつけていくことが必要です。

令和2年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により，経済的な問題や感染への不安等，相談の内容も幅広くなり，児童虐待や精神障害なども絡み複雑化する状況が背景にあることから，引き続き，関係機関等と連携した支援が必要です。

■ 施策に対する市民の実感

「男女共同参画社会の推進や人権問題への取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

平和・人権啓発の推進

（成果）

原爆写真パネル展や戦没者追悼式の開催により，多くの市民に戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ，平和の尊さなどを啓発することができました。

各種人権啓発活動や人権相談により，人権擁護思想の普及や市民の人権擁護・救済が図られ，指標の人権相談件数は増加しています。

（問題点）

終戦からすでに70年以上が経過し，戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさに対する理解が風化してしまうおそれがあります。

まちづくり評価アンケートの「人権擁護委員がいることを知っている」と答えた市民の割合は低く，人権擁護委員の活動への認知があまり広がっていません。

（今後の方向性）

日本非核宣言自治体協議会から資料提供を受けることにより、次世代へ向けた非核平和の啓発を図ります。

人権擁護委員が行う各種啓発活動について、報道機関への情報提供や市の広報媒体を活用して積極的に周知を行うほか、人権擁護委員が行う人権相談事業について、市民が利用する商業施設等で開催するなど、人権擁護委員の認知度の向上を図ります。

男女共同参画の推進

（成果）

女性が能力を発揮しやすい環境整備により、優秀な人材確保や企業イメージ向上など企業の成長に繋がるという認識を持つ市内事業所が、徐々にではあるが増え始めています。

DV防止対策については、街頭キャンペーン等の啓発活動により、市民への意識啓発と相談につながっています。

（問題点）

男女共同参画への関心や理解が進んできているものの、性別等に関する固定的な役割分担意識や、価値観、慣習、無意識の偏見が依然として残っています。

審議会等の女性委員登用率向上のため、女性人材リストの活用を担当課に働きかけるなど、人材活用への機運の醸成が図られてきていますが、いまだに女性委員がいない審議会もあります。

（今後の方向性）

男女共同参画や性の多様性への関心と理解を深めるため、啓発事業や情報提供など、意識醸成のための啓発活動に取り組みます。

女性人材リストへの新規登録のための情報収集を行うとともに、審議会等への女性委員登用に継続して取り組みます。

市内事業所における女性活躍推進の取組が進むよう、啓発や環境整備のための講演会等を通じ、事業所の取組支援を行います。

DV相談について、幅広い相談ニーズに対応するため、メール等を活用した相談に対応するとともに、適切な被害者支援と庁内連携の構築及び関係機関との連携を進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

人権相談や非核平和の推進に係る各事業の認知度を向上させるためには、前例にとらわれず、SNSなどのツールを活用した周知を図るとともに、幅広い世代が関心を持つように、事業内容を工夫する必要があります。

また、盛岡市男女共同参画推進条例に基づき、男女共同参画の意識醸成を図るとともに、性の多様性への関心と理解を深めるための啓発事業及び女性活躍推進のための啓発事業を継続的に実施するほか、DV相談が複雑化・多様化していることを踏まえ、市配偶者暴力相談支援センターを中心に、国、県、関係機関及び盛岡広域市町との更なる連携を図り、適切な被害者支援に取り組みます。

施策8 安全・安心な暮らしの確保

市民の安全・安心な暮らしを確保するため、自然災害や火災、健康被害など、あらゆる危機に対し強いまちを目指し、防災や防犯対策、消防力の充実などに取り組みます。

■ 主要事業の実績

河川整備等による危険箇所の解消を進めるとともに、県が進める急傾斜地崩壊対策事業の進捗が図られました。

防災訓練やシェイクアウト訓練などの実施により、防災意識の向上を図りました。また、自主防災組織の結成促進に取り組み、組織結成率が向上しました。

盛岡市職員の新採用職員を対象とした消防団体験入団の継続、学生消防団活動認証制度及び消防団員を優遇する店舗の登録事業の実施等により、消防団員の確保に努めました。

また、町内会自治会等の研修等の機会を捉えて救命講習の実施を働きかけ、救命講習の受講者数が増加しました。

交通安全教室の開催、交通指導員による朝夕の街頭指導等の実施により、人口1万人当たりの交通事故発生件数が減少するとともに、交通事故死亡者数も減少しました。

防犯ボランティア団体等への防犯パトロール用品の支給などの実施等、自主防犯活動の支援を継続するとともに、広報啓発活動等を実施し、人口1万人当たりの刑法犯認知件数が減少しました。

空き家等の所有者に対して、適正管理に向けた助言・指導を行うとともに、空き家等に関する相談会を開催し、空き家等の周辺の生活環境の改善を図りました。

消費者被害の救済のための生活相談や積極的な啓発活動を実施し、消費者の安全安心や市民の権利が確保されました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
48		急傾斜地崩壊対策事業	一般		40	57	56	山岸地区の対策工事及び桜山地区の用地測量
49		都市基盤河川改良事業	一般		471	471	72	一級河川南川の改修工事に係るＪＲ東日本工事負担金、詳細設計、用地補償等
50		自主防災組織育成事業	一般		10	5	0	防災資機材等の交付、地域防災組織育成助成事業補助など
51		危機管理防災事業	一般		32	32	0	危機管理及び防災体制の構築・推進
52		防災施設整備事業	一般		180	294	96	避難場所標識整備、災害時用備蓄物資（アルファ化米、パターションや段ボール等感染防止対策物品）の購入など
53		盛岡地区広域消防組合負担金事務	一般		3,829	3,801	0	消防署等の運営、消防施設整備など
54		消防団管理事務	一般		183	172	0	消防団員報酬、出動手当、消防団装備購入など
55		消防施設整備事業	一般		116	106	0	消防ポンプ自動車・小型動力ポンプ付積載車の更新、消防屯所の建設
56		交通安全教育事業	一般		10	9	0	交通安全教室の開催
57		交通指導員活動事業	一般		44	40	0	交通指導員活動（行事、登下校時等における街頭指導）
58		防犯活動事業	一般		6	6	0	市防犯協会事業費助成、防犯活動支援
59		空き家等対策推進事業	一般		13	7	0	空き家等の相談受付、現地確認、周辺環境に悪影響を及ぼしている空き家等の所有者に対する適正管理に係る助言、空き家バンク物件購入者への改修費補助
60		消費者行政推進事業	一般		35	33	0	消費生活相談、多重債務者対策など
施策の計（一般会計 13事業）					4,969	5,033	223	

・ 防災施設整備事業

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、災害時の避難所における感染リスク低減に必要な物資の拡充を行ったことにより、実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
まちづくり評価アンケート調査「避難場所を知っている」と答えた市民の割合	↗	%	△	<table><thead><tr><th>期</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>69.0</td></tr><tr><td>H27</td><td>72.7</td></tr><tr><td>H28</td><td>76.2</td></tr><tr><td>H29</td><td>76.2</td></tr><tr><td>H30</td><td>80.6</td></tr><tr><td>R1</td><td>80.7</td></tr><tr><td>R2</td><td>79.8</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	期	値	当初値	69.0	H27	72.7	H28	76.2	H29	76.2	H30	80.6	R1	80.7	R2	79.8	R3		R4		R5		R6	
期	値																											
当初値	69.0																											
H27	72.7																											
H28	76.2																											
H29	76.2																											
H30	80.6																											
R1	80.7																											
R2	79.8																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
まちづくり評価アンケート調査「防災対策をしている」と答えた市民の割合	↗	%	◎	<table><thead><tr><th>期</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>60.7</td></tr><tr><td>H27</td><td>57.9</td></tr><tr><td>H28</td><td>62.1</td></tr><tr><td>H29</td><td>54.4</td></tr><tr><td>H30</td><td>42.0</td></tr><tr><td>R1</td><td>42.8</td></tr><tr><td>R2</td><td>52.6</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	期	値	当初値	60.7	H27	57.9	H28	62.1	H29	54.4	H30	42.0	R1	42.8	R2	52.6	R3		R4		R5		R6	
期	値																											
当初値	60.7																											
H27	57.9																											
H28	62.1																											
H29	54.4																											
H30	42.0																											
R1	42.8																											
R2	52.6																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
人口1万人当たりの火災発生件数	↘	件	☆	<table><thead><tr><th>期</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>1.7</td></tr><tr><td>H27</td><td>1.6</td></tr><tr><td>H28</td><td>1.5</td></tr><tr><td>H29</td><td>1.4</td></tr><tr><td>H30</td><td>1.2</td></tr><tr><td>R1</td><td>1.4</td></tr><tr><td>R2</td><td>1.0</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	期	値	当初値	1.7	H27	1.6	H28	1.5	H29	1.4	H30	1.2	R1	1.4	R2	1.0	R3		R4		R5		R6	
期	値																											
当初値	1.7																											
H27	1.6																											
H28	1.5																											
H29	1.4																											
H30	1.2																											
R1	1.4																											
R2	1.0																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
人口1万人当たりの刑法犯認知件数	↘	件	☆	<table><thead><tr><th>期</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>68.4</td></tr><tr><td>H27</td><td>57.6</td></tr><tr><td>H28</td><td>51.2</td></tr><tr><td>H29</td><td>43.6</td></tr><tr><td>H30</td><td>41.5</td></tr><tr><td>R1</td><td>34.6</td></tr><tr><td>R2</td><td>29.9</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	期	値	当初値	68.4	H27	57.6	H28	51.2	H29	43.6	H30	41.5	R1	34.6	R2	29.9	R3		R4		R5		R6	
期	値																											
当初値	68.4																											
H27	57.6																											
H28	51.2																											
H29	43.6																											
H30	41.5																											
R1	34.6																											
R2	29.9																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
不適正な管理状態にある空き家等の相談件数	↘	件	◎	<table><thead><tr><th>期</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>60</td></tr><tr><td>H27</td><td>178</td></tr><tr><td>H28</td><td>140</td></tr><tr><td>H29</td><td>122</td></tr><tr><td>H30</td><td>102</td></tr><tr><td>R1</td><td>128</td></tr><tr><td>R2</td><td>99</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	期	値	当初値	60	H27	178	H28	140	H29	122	H30	102	R1	128	R2	99	R3		R4		R5		R6	
期	値																											
当初値	60																											
H27	178																											
H28	140																											
H29	122																											
H30	102																											
R1	128																											
R2	99																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
消費生活相談の解決率 (解決した件数／消費生活相談件数)	↗	%	◎	<table><thead><tr><th>期</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>98.5</td></tr><tr><td>H27</td><td>98.8</td></tr><tr><td>H28</td><td>98.9</td></tr><tr><td>H29</td><td>98.4</td></tr><tr><td>H30</td><td>98.5</td></tr><tr><td>R1</td><td>98.5</td></tr><tr><td>R2</td><td>98.7</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	期	値	当初値	98.5	H27	98.8	H28	98.9	H29	98.4	H30	98.5	R1	98.5	R2	98.7	R3		R4		R5		R6	
期	値																											
当初値	98.5																											
H27	98.8																											
H28	98.9																											
H29	98.4																											
H30	98.5																											
R1	98.5																											
R2	98.7																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												

・ 「避難場所を知っている」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

平成30年度に全戸配布した「防災マップ」の浸透，町内会等を対象とした防災講座の実施，自主防災組織等を中心とした地域での防災・減災への取組の普及，避難場所等掲示板の設置などにより，避難場所の周知が図られてきている傾向ではありますが，令和元年度より実績値は低下しました。

・ 「防災対策をしている」と答えた市民の割合／◎目標値に向け順調に推移

市民が取り組める具体的な防災対策の浸透が不十分なこと，東日本大震災からの時間経過による防災意識の低下などが考えられますので，啓発事業等に取り組んでいく必要があります。

一方，アンケートの設問に具体的な防災対策を記載したことで，前年度から実績値が上昇したのと考えられます。

・ 人口1万人当たりの火災発生件数／☆目標値に到達

消防署や消防団の車両による山火事防止パトロールや火災予防広報活動のほか，火災が発生するおそれがある場合に依頼する集客施設での店内放送を活用した火災予防広報，火災予防運動などの期間

に消防署、消防団、婦人防火クラブ及び婦人消防協力隊が集中的に行う一般家庭の防火点検などの活動が、火災件数減少の効果を発揮していると考えられます。

・ **人口1万人当たりの刑法犯認知件数／☆目標値に到達**

自主防犯活動の継続的な支援により、地域における自発的な防犯活動が根付いてきたことが、刑法犯認知件数の減少に繋がっているものと考えられます。

・ **不適正な管理状態にある空き家等の相談件数／◎目標値に向け順調に推移**

市からの指導、助言等のほか、空き家等の所有者を対象とした相続、活用に関する相談会の開催などにより、空き家等が改善されたことで、相談件数は減少傾向にあります。

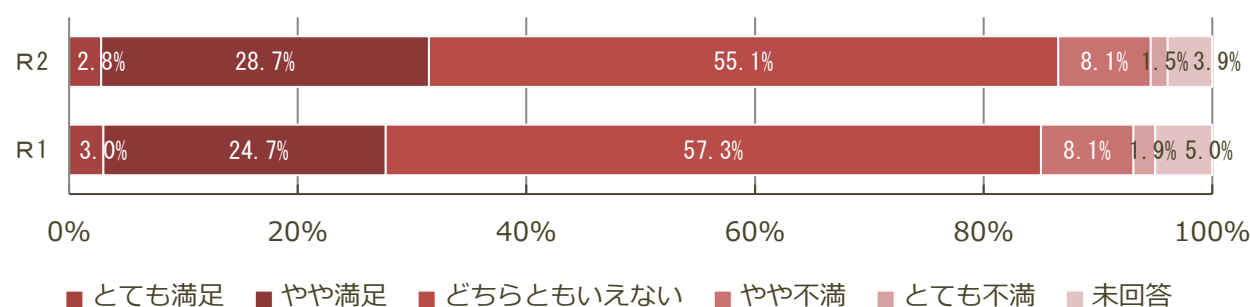
令和元年度は町内会等との意見交換会を実施し、空き家の適正管理に関する市の取組を広く周知したことから、相談件数が増加したものと考えられます。

・ **消費生活相談の解決率（解決した件数／消費生活相談件数）／◎目標値に向け順調に推移**

消費生活相談の解決率は、令和6年度の目標値を下回っているものの、上昇傾向で推移しています。出前講座の実施などの積極的な啓発活動が、消費者の自立につながってきているものと考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「安全・安心な暮らしを確保するための防災対策や防犯、交通安全、消費者相談などの取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

危険箇所の解消

（成果）

準用河川や南川の整備は少しずつ進んでいます。

県が進める急傾斜地崩壊対策事業の進捗が図られました。

（問題点）

土砂災害ハザードマップの作成の前提となる土砂災害警戒区域等の指定について、地元への説明に時間を要しています。

（今後の方向性）

準用河川については、河川状況を把握の上、予算配分や施工方法を検討して、効率的な事業の進捗を図ります。一級河川については、引き続き国及び県に対して要望及び調整を行い、予算を確保します。急傾斜地崩壊対策事業及び土砂災害警戒区域等の指定では、進捗が図られるよう、県に協力していきます。

地域防災力の強化

（成果）

防災マップの浸透や町内会等を対象とした防災講座の実施などにより、避難場所の周知が十分に図られてきています。

（現状の成果、問題点）

防災対策をしている市民の割合が目標値に達しておらず、防災対策への意識の低下が見受けられます。

（今後の方向性）

市民参加型の防災訓練やシェイクアウト訓練、土砂災害訓練などの継続実施及び内容充実を図るとともに、自主防災組織の結成促進や活動強化により、防災対策の啓発や防災意識の向上を図ります。

消防・救急の充実

（成果）

航空支援隊（ドローン）や水難救助隊（救助用ゴムボート）の編成等消防団の装備の充実や処遇の改善を進めています

（現状の成果、問題点）

全国的な傾向ですが、消防団員の減少が続いています。

準市街地での防火水槽の設置が進まず、大規模災害時に上水道が断水した場合の火災への対応が心配されます。

（今後の方向性）

令和3年度は準中型自動車免許取得費助成制度を設け、取得にかかる費用の助成を行い将来的な消防ポンプ自動車運転手を確保するとともに、市新採用職員の消防団体験入団の継続、学生消防団活動認証制度の周知、消防団員を優遇する店舗の登録事業の促進等により、消防団員の確保を図ります。

消防水利の整備について、引き続き協議を行うとともに、救命講習については、インターネットを通じて応急手当の基礎的知識を学ぶeラーニングの周知宣伝などにより、受講者数の増加を図ります。

交通安全の推進

（成果）

交通安全教室の開催による交通安全知識の普及や街頭指導の事故防止活動により、交通事故発生件数は減少傾向にあり、交通事故死亡者数も減少しています。

（問題点）

高齢化の進展により、高齢の歩行者や運転免許保有者が増加し、高齢者が関係する交通事故の割合が増加しています。

（今後の方向性）

高齢者の交通安全啓発について、高齢の歩行者に加え、高齢車両運転者に対する啓発活動を警察等交通安全関係団体と連携し実施します。

病院など高齢者が利用する施設において交通安全啓発活動を実施します。

防犯対策の推進

（成果）

防犯ボランティア団体等への防犯パトロール用品の支給や研修会の実施などの支援、防犯協会や警察、町内会など関係機関との顔の見える取組が根付いてきたことで、刑法犯認知件数の減少に繋がっていると考えられます。

（問題点）

子供に対する声かけ事案については減少傾向が見られるものの後を絶たないことから、地域での見守りが必要です。

（今後の方向性）

防犯パトロールに対する支援を継続するほか、防犯パトロールだけでは不十分な場所をカバーするため、地域防犯カメラを設置する町内会等への支援を行い、犯罪の抑止を図ります。

空き家等対策の推進

(成果)

適正に管理されていない空き家等の所有者に対して、適正管理に向けた助言・指導を行うとともに、空き家等に関する相談会を開催した結果、周辺的生活環境が改善されました。

(問題点)

問題がある空き家等の中には、管理方法が分からない、相談相手がいない等の理由により所有者の対応が遅れるケースがあります。

(今後の方向性)

適正に管理されていない空き家等の所有者に対して、更なる指導及び助言を行い、必要に応じて、応急措置や代執行を行います。

また、家財道具の整理や相続手続等に関する講座を開催します。

消費者の自立支援

(成果)

出前講座等の啓発活動を関係機関と連携、実施したことにより、市民の消費生活の自立に貢献し、消費者の安全安心や市民の権利が確保されました。

(問題点)

コロナ禍におけるDX推進や成人年齢の引き下げ等、社会状況の変化に応じた新たな手法による消費者教育を推進する必要があります。

(今後の方向性)

これまで実績のある出前講座や広報紙等を活用した啓発活動を継続するとともに、コロナ禍におけるDX推進の流れを受けたリモート講座や、若年層に向けたSNS等の活用による啓発活動等について検討を進めていきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

全国各地で発生する大規模災害をはじめ、生活の身近なところで発生する火災や交通事故、刑法犯罪、消費生活被害など、あらゆる事案から市民の安全・安心な暮らしを確保するため、引き続き、市と関係機関や組織団体、市民で連携して取り組んでいきます。

施策9 地域コミュニティの維持・活性化

地域コミュニティがこれまで担ってきた多岐にわたる役割を維持し、活動を活性化するため、地縁又は目的を共にする団体などへの支援に取り組みます。

■ 主要事業の実績

町内会・自治会の負担軽減を目的に実施した町内会・自治会協働推進奨励金制度の浸透に取り組みました。

町内会・自治会が所有管理する街路灯について、リース契約に基づき維持管理を行いました。

地域活動の新たな担い手を創出するために、多世代を巻き込んだ活動事例の紹介などを行う人材養成講座を開催しました。

活動事例の発表や意見交換会などを行う「コミュニティリーダー研修会」を開催し、コミュニティ推進地区組織の活動促進を図りました。

町内会・自治会の持続的な活動と多様な主体によって構成される組織の自主的な地域づくり活動の支援に向け、「盛岡市地域づくり協働推進計画」を策定しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
61		地区行政事務	一般		78	77	0	町内会・自治会活動に対する協働推進奨励金交付など
62		コミュニティ推進事業	一般		28	27	0	30のコミュニティ推進地区に対する活動費補助、市民協働推進センター事業など
63		公衆街路灯関連事業	一般		93	87	0	町内会・自治会などに対する公衆街路灯のLEDリース料、電気料及び設置費補助
64		地域協働推進事業	一般		14	11	0	地域づくり計画に基づく事業の実施費用に対する補助
施策の計（一般会計 4事業）					213	202	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「コミュニティ活動に参加したことがある」と答えた市民の割合	↑	%	△	46.5 46.7 43.8 46.9 44.4 45.2 37.0 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R6目標値(56.5) R1目標値(51.5)

・ 「この1年間に地域のコミュニティ活動に参加したことがある」と答えた市民の割合

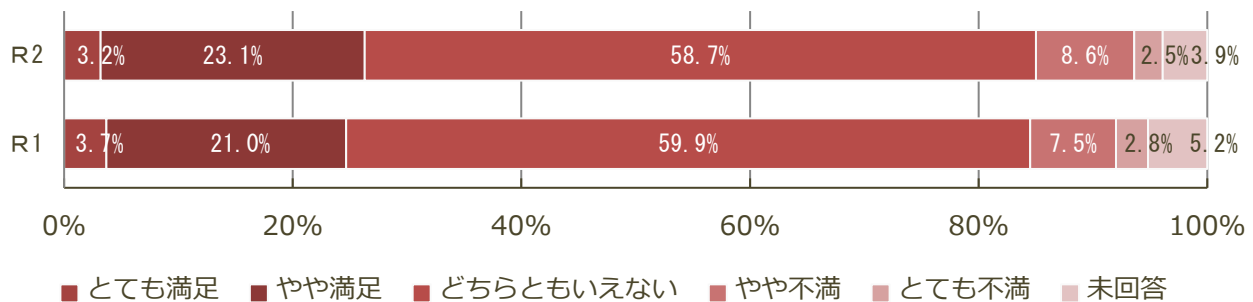
／△遅れが生じている

令和2年度まちづくり評価アンケートにおける「コミュニティ活動に参加した市民の割合」は37.0%であり、令和2年度は前年から8.2ポイント低下しました。

町内会・自治会をはじめとする地域活動団体では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、総会や地域の行事、お祭りなど、参集して開催するイベントを縮小や中止としたため、市民のコミュニティ活動へ参加する機会が減ったことが影響したものと考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「町内会などの地域活動を支援する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果，問題点と今後の方向性

コミュニティ活動の支援

（成果）

盛岡市町内会・自治会協働推進奨励金制度について，制度実施4年目を迎え，町内会・自治会の制度に対する理解が進みました。

コミュニティリーダー研修会について，参加者アンケートの結果が好評でした。

（問題点）

町内会・自治会で世帯数が少ないなどの理由から，活動が低調な町内会・自治会があり，活動の促進が課題です。

コロナ禍により，研修会や人材養成講座の参加人数が減少したこと，個別開催の人材育成講座の開催団体が1団体にとどまったことが課題です。

（今後の方向性）

盛岡市地域づくり協働推進計画の着実な推進に向け，地域づくりを担う町内会・自治会の活動のほか，多様な主体から構成される組織が行う地域づくり活動への支援を進めます。

町内会・自治会協働推進奨励金制度や地域づくり事業補助の見直しのほか，各補助制度の周知などを通じ，町内会・自治会の活動を支援します。

コミュニティリーダー研修会や人材養成講座について，地域や団体のニーズに合わせ，内容の充実や参加者の拡大を図ります。

コロナ禍収束後の地域活動を促進させるために，「新しい生活様式」を取り入れた地域づくりの開催方法を周知するなど，地域づくりの活性化に向けた取組を推進します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

人口減少や少子高齢化の進行により，地域活動の担い手が不足するなど，コミュニティ活動の維持・活性化が難しくなる中，各種補助事業の事務手続きの簡素化により町内会・自治会の負担軽減を図るなど，成果を上げた一方で，新型コロナウイルス感染症により，各団体において地域活動の縮小や中止を余儀なくされるなど，地域活動の活性化の面で大きな影響がありました。

今後は，令和3年3月に策定した「盛岡市地域づくり協働推進計画」に基づき，活動施設確保など各種補助事業による活動への支援を行うとともに，情報発信の強化，担い手の育成を行うなど，地域活動の更なる活性化に取り組むほか，「新しい生活様式」に基づく地域活動事例集の浸透を図り，コロナ禍収束後の地域活動を促進するとともに，市民のコミュニティ活動への参加を促します。

施策10 生活環境の保全

大気汚染、水質汚濁、騒音などの監視の継続や廃棄物の適正処理などを図り、良好で快適な生活環境の保全に取り組みます。

■ 主要事業の実績

【環境衛生の確保】

廃棄物処理施設の老朽化の進行に対応した設備改修及び維持管理により、廃棄物の適正処理に努めました。

盛岡地域における家庭ごみの収集運搬については、全域を9地区に分割して効率的な実施に努めるとともに、各地区の排出状況をデータ化した上で、地区毎の特徴を踏まえた効果的な資源化・減量化の周知啓発に努めました。

各一部事務組合と緊密に連携を図りながら、廃棄物の適正処理に努めました。

不法投棄やタバコ等のポイ捨て対策として、監視やモラル向上のための周知啓発に取り組みました。

【公害の防止】

環境負荷を低減させ良好な生活環境を保つため、大気、水質、騒音、振動などの監視や、事業所への指導を行いました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
65		クリーンセンター設備改修事業	一般		293	249	0	焼却施設改修工事などの施設整備
66		公害防止対策事業	一般		25	24	0	大気、水質、騒音、振動、ダイオキシン類などの測定、監視
施策の計（一般会計 2事業）					318	273	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
まちづくり評価アンケート調査「清潔で衛生的、公害がないといった点で、きれいなまちだと思う」と答えた市民の割合	↗	%	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>75.8</td></tr><tr><td>H27</td><td>79.1</td></tr><tr><td>H28</td><td>77.4</td></tr><tr><td>H29</td><td>76.2</td></tr><tr><td>H30</td><td>75.5</td></tr><tr><td>R1</td><td>78.5</td></tr><tr><td>R2</td><td>78.5</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	年度	値	当初値	75.8	H27	79.1	H28	77.4	H29	76.2	H30	75.5	R1	78.5	R2	78.5	R3		R4		R5		R6	
年度	値																											
当初値	75.8																											
H27	79.1																											
H28	77.4																											
H29	76.2																											
H30	75.5																											
R1	78.5																											
R2	78.5																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
焼却処理施設での年間処理量*	↘	t	☆	<table><thead><tr><th>年度</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>96,367</td></tr><tr><td>H27</td><td>92,898</td></tr><tr><td>H28</td><td>91,320</td></tr><tr><td>H29</td><td>90,219</td></tr><tr><td>H30</td><td>90,037</td></tr><tr><td>R1</td><td>88,968</td></tr><tr><td>R2</td><td>84,658</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	年度	値	当初値	96,367	H27	92,898	H28	91,320	H29	90,219	H30	90,037	R1	88,968	R2	84,658	R3		R4		R5		R6	
年度	値																											
当初値	96,367																											
H27	92,898																											
H28	91,320																											
H29	90,219																											
H30	90,037																											
R1	88,968																											
R2	84,658																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												

- ・ 「清潔で衛生的、公害がないといった点で、きれいなまちだと思う」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

盛岡市環境部のサイト「ecoもりおか」のコンテンツの充実や、更新頻度を増加など、きめ細やかな情報提供に努めていますが、さらなる情報提供の仕方を含めた対応方法の検討が必要です。

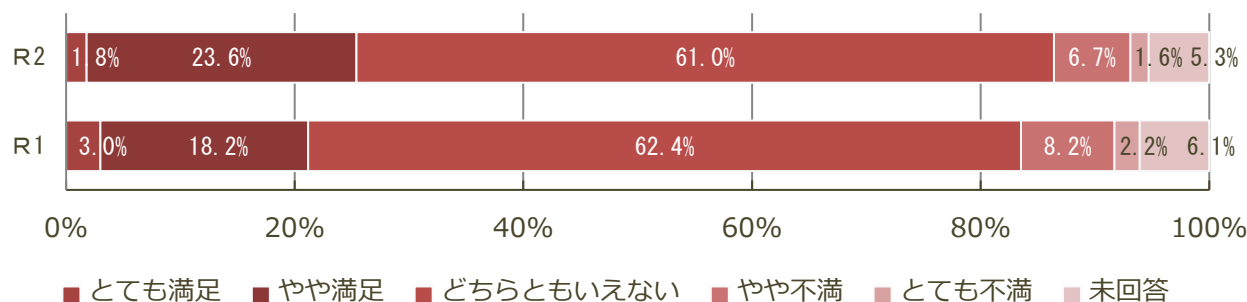
- ・ 焼却処理施設での年間処理量／☆目標値に到達

ごみ減量及び資源化に向けた各種取組により、焼却処理されるごみが減少してきたことに加え、令和2年度は、コロナ禍による事業活動の停滞によると思われる事業系ごみ排出量の減少により、焼却処理施設での年間処理量は、令和6年度の目標値以下の処理量となりました。

今後、市内経済の回復が期待されますが、これに伴う事業系ごみの排出動向への影響（増加）にも注視しつつ、引き続き、資源化・減量化に資する効果的な施策を展開していく必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「身近な生活環境が保全されている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

環境衛生の確保

（成果）

焼却施設での処理量が大幅に減少しています。市内全地域で、一般廃棄物・資源物・粗大ごみの適正な処理が行われました。

（問題点）

市クリーンセンターは、施設稼動開始から23年が経過し老朽化が進行しており、適正処理継続のために計画的な設備改修が必要です。資源ごみ処理施設及び粗大ごみ処理施設についても老朽化が進んでおり、安定的な処理の継続には計画的な設備改修が必要です。

（今後の方向性）

市クリーンセンターの設備改修事業は、現在、総合計画実施計画における主要事業に位置付けられており、県央ブロックごみ・し尿処理広域化基本構想の進捗を見据え、改修費用の抑制と財源の確保に努め、引き続き計画的に実施します。

資源ごみ処理施設及び粗大ごみ処理施設については、個別施設計画（令和2年度策定）に基づき計画的に設備の修繕を行うとともに、施設の更新の方向性について検討を行います。

公害の防止

（成果）

大気及び水質についてはおおむね良好な状況にあります。

（問題点）

一部環境基準の超過（光化学オキシダント、BOD、大腸菌群数）が見られるとともに、騒音についても道路に面する地域で環境基準の超過が見られます。

（今後の方向性）

大気、水質、騒音等その他の環境項目について環境測定を継続するとともに、環境基準超過については原因の分析や、県や他の中核市等の取組状況の把握を継続して行います。

環境基準超過の改善に向けては、事業者の指導や市民への周知を継続して行います。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

大気、水質等について、環境基準適合率はおおむね良好ですが、監視指導を継続するとともに、効果的な環境教育、環境啓発に取り組む必要があります。

また、新型コロナウイルスの感染が広がっている状況においても、廃棄物の適正な収集運搬・処理体制を維持し、快適な生活環境の保全に努める必要があります。

基本目標2 盛岡の魅力があふれるまちづくり

施策11 歴史・文化の継承

地域に受け継がれている歴史や文化に誇りを持ち、次世代に伝えていくため、文化財の保護に取り組むとともに、市民が歴史や文化に理解を深め、身近に感じることができるよう、文化財の幅広い活用を図ります。

■ 主要事業の実績

文化財の保護については、文化財の新たな指定を行うほか、指定となっている有形・無形の文化財の存続を図るとともに、無形民俗文化財保持団体への支援を行いました。

また、埋蔵文化財については、適切な調査・記録と保存・展示を行いました。

博物館施設の整備・充実については、既存9施設の活用が図られるよう、手洗い、消毒、検温等の新型コロナウイルスの感染症対策の徹底とPR活動に取り組みました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
67		盛岡城跡保存整備事業	一般		7	6	0	本丸の発掘調査等
68		遺跡の広場整備事業	一般	★	1	1	0	遺跡環境保全、整備
69		玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館整備事業	一般	★	3	2	0	基本計画策定
施策の計（一般会計 3事業）					10	9	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
文化財数(国・県・市指定)	↗	件	○	<table><caption>文化財数(国・県・市指定)の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>270</td></tr><tr><td>H27</td><td>271</td></tr><tr><td>H28</td><td>273</td></tr><tr><td>H29</td><td>274</td></tr><tr><td>H30</td><td>275</td></tr><tr><td>R1</td><td>275</td></tr><tr><td>R2</td><td>276</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	年度	値	当初値	270	H27	271	H28	273	H29	274	H30	275	R1	275	R2	276	R3		R4		R5		R6	
年度	値																											
当初値	270																											
H27	271																											
H28	273																											
H29	274																											
H30	275																											
R1	275																											
R2	276																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												
まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合	↗	%	◎	<table><caption>まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>58.6</td></tr><tr><td>H27</td><td>56.7</td></tr><tr><td>H28</td><td>56.8</td></tr><tr><td>H29</td><td>56.2</td></tr><tr><td>H30</td><td>59.3</td></tr><tr><td>R1</td><td>57.7</td></tr><tr><td>R2</td><td>60.9</td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td></tr></tbody></table>	年度	値	当初値	58.6	H27	56.7	H28	56.8	H29	56.2	H30	59.3	R1	57.7	R2	60.9	R3		R4		R5		R6	
年度	値																											
当初値	58.6																											
H27	56.7																											
H28	56.8																											
H29	56.2																											
H30	59.3																											
R1	57.7																											
R2	60.9																											
R3																												
R4																												
R5																												
R6																												

・ 文化財数（国・県・市指定）／○目標値に向け推移

民俗芸能では初めて、民謡の「外山節」を盛岡市指定無形民俗文化財に指定しました。

既存の文化財等は、保護のための環境、保存整備や調査、保存維持への助成や、保存継承団体への育成支援、活用などに取り組み、存続することができました。

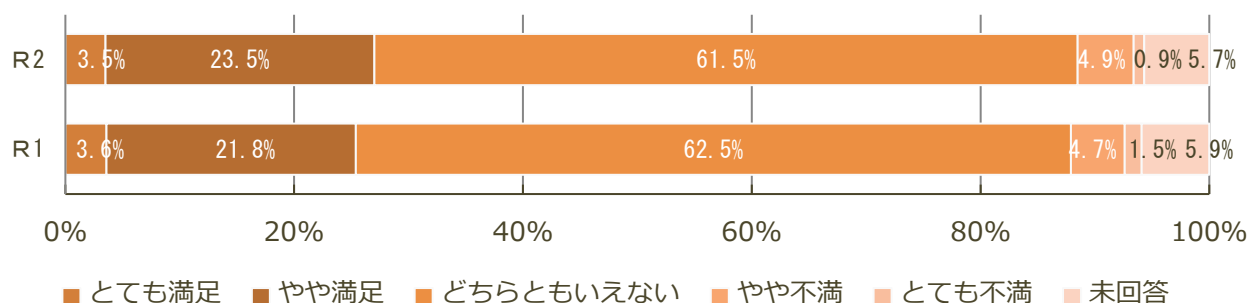
・ 「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合減少／◎目標値に向け順調に推移

盛岡城跡保存整備事業や埋蔵文化財調査事業、博物館等での歴史・文化財を活用した事業等や現地説明会等の周知を市民に図り、市民に学習機会を提供したことで、まちづくりアンケート調査「盛岡

の歴史・文化財に興味関心がある。」と答えた市民の割合が、3.2%上昇しました。

■ 施策に対する市民の実感

「文化財の保護や活用が図られている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

文化財の保護と活用

（成果）

新たな文化財の指定を行うほか、指定となっている有形・無形の文化財等を存続できました。

（問題点）

有形文化財等において、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものがあります。

無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっています。

埋蔵文化財の出土資料は増え続け、従来の施設には収まりきれず、仮設の施設にも仮置きしている状況です。

（今後の方向性）

有形文化財等の保存・修繕のため、町内会等地元住民への協力要請を行うとともに、必要に応じて、支援や助言を行います。

盛岡市歴史的風致維持向上計画等に基づき、補助制度を活用しながら、文化財の保護と活用に取り組みます。

民俗芸能保持団体の後継者不足について、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら支援策を講じます。また、民俗芸能を紹介するPR動画を制作し、踊りの魅力を全世界に向け発信するほか、発表の機会を確保し、民俗芸能の周知を図ります。

埋蔵文化財発掘の出土資料を、活用頻度等により再配置を行うとともに、空き教室等を利用するなど、収蔵場所の確保を図ります。

未指定の文化財も含め、文化財をまちづくりに生かしつつ、地域社会との協働でその承継にどのように取り組むか等を明らかにする「文化財保存活用地域計画」の策定に向けた協議・検討・調査を進めます。

博物館等施設の整備・充実

（成果）

既存の博物館9施設は、新型コロナウイルス感染症の影響から、4施設で入館者数が例年の半数以下となるなか、各施設では活用が図られるよう、手洗い・消毒・検温の徹底等、感染症対策の徹底とPR活動に取り組みました。

（問題点）

各博物館施設においては、老朽化が進行しており、バリアフリー化など利用者の安全性・利便性の向上を図る必要が生じています。

（今後の方向性）

博物館施設の活用が図られるよう、魅力あるイベント等を開催するほか、効果的なPR活動を行います。

博物館施設については、いずれも老朽化が進行していることから、改修等の必要性や緊急性を考慮し、利用者の安全確保及び利便性の向上が図られるよう、計画的に対応します。

「文化財保存活用地域計画」や「地域における文化観光の推進に関する法律」における地域計画等の策定に向け、博物館等施設での保存・活用のあり方を検討します。

石川啄木記念館・玉山歴史民俗資料館の整備について、道の駅整備との連携等を図りながら、施設の文化的景観の確保及び来館者の利便性の向上に取り組みます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

地域に受け継がれている歴史や文化に親しむこと、そして、それを次世代に継承することは、地域づくりにとって、大切なことであり、更に市民の関心が高まるよう、企画展やイベント等について、創意工夫・改善し、意識啓発を図る必要があります。

また、博物館等施設については、市民が関心を持ち訪れてみたいと思う魅力的な施設であり続けるよう、計画的に修繕・改修及び整備を行う必要があります。

今後も、市民が地域の歴史や文化に興味を持ち、文化財の大切さを認識するとともに、施設の来館者の増加にもつながるよう、ソフト・ハード両面から、施策展開に努めます。

施策12 芸術文化の振興

誰もが芸術文化に親しみ、豊かな生活が送れるように、優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民の自主的、創造的な芸術文化活動を支援します。

■ 主要事業の実績

市民にとって芸術文化をより身近なものとすることを目指し、令和元年6月に策定した盛岡市芸術文化推進計画に基づき、計画を推進するとともに、未設定であった指標について設定を行いました。

盛岡の魅力を再発見する取組として、令和2年11月に第2回盛岡国際俳句大会を開催し、国内外に向けた魅力発信に努めました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術文化活動の自粛、減少していることを受け、芸術文化団体等の活動の再開を支援するとともに、芸術文化活動への参加および鑑賞の機会を広く市民に提供することを目的として、芸術文化事業を行う団体等に補助金を交付しました。

文化施設利用者へのサービス向上のため、施設の修繕及び調光設備の更新を行いました。

盛岡市公共施設保有最適化長寿命化計画に基づき、市民文化会館の長寿命化修繕を実施しました。

市民の芸術文化の振興を図るため「盛岡市芸術文化振興基金」を創設しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
70		芸術文化活動振興事業	一般	★	16	26	0	芸術団体などが行う芸術文化活動の振興、コロナ禍における芸術文化鑑賞機会の市民への提供
71		文化会館活動事業	一般	★	20	17	0	パイプオルガン・演劇・合唱等関連講座の開催、舞台公演・美術展など芸術鑑賞機会の提供、情報誌の発行
施策の計（一般会計 2事業）					36	44	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合	↗	%	△	当初値 41.6 H27 40.3 H28 40.9 H29 40.6 H30 42.2 R1 44.7 R2 28.7 R1目標値(45.0) R6目標値(50.0)

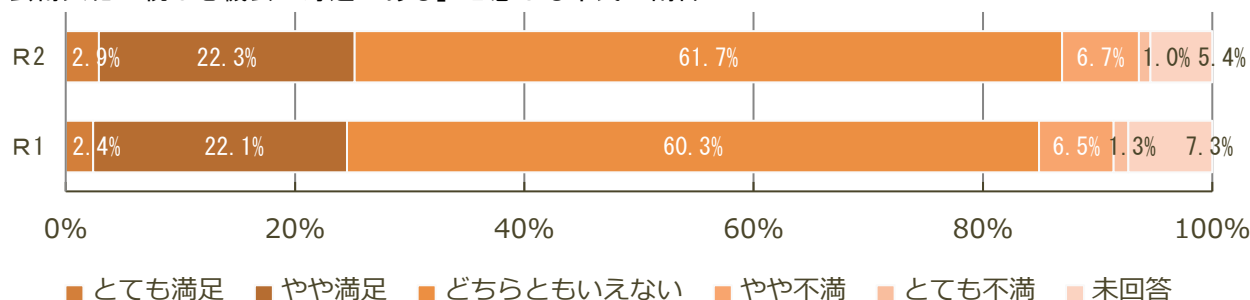
・ 「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの芸術文化活動に参加した」と答えた市民の割合は大きく減少しました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、市芸術祭の中止を始めとして、芸術文化活動が制限される中、参加や鑑賞の場が大きく減少したことがその一因と考えられます。

そうした中でも、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じながら、安全・安心な環境で活動を実施できるよう、文化会館にタブレット型サーマルカメラの設置、市民に鑑賞、参加の機会を提供する芸術文化活動団体等に対しての補助金交付など、芸術文化活動を支援する事業を実施しました。

■ 施策に対する市民の実感

「芸術文化に親しむ機会が身近にある」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

芸術・文化活動の充実

（成果）

盛岡芸術協会をはじめ、芸術活動団体が主催する催しに共催・後援するなどして活動支援の充実を図ることができました。

（問題点）

芸術文化団体の活動支援については団体によってニーズが多様であることから、内容を適切に把握し、社会情勢を踏まえた上で支援策を講じる必要があります。

より多くの市民に広く芸術文化に親しんでもらうため、限られた市民や団体だけでなく誰もが気軽に芸術文化に触れ体験できる取組を充実する必要があります。

（今後の方向性）

指定管理者や芸術文化関係団体との意見交換を踏まえて策定した「盛岡市芸術文化推進計画」について、適切に関係団体等のニーズを把握しながら、着実に計画を推進します。

特に、芸術文化ポータルサイトを先行して構築し、芸術文化イベント及び各種助成事業等の情報提供に努め、芸術文化に興味のある方々の連携を支援します。また、個人や団体の活動を配信することによる発表・鑑賞機会の創出を支援します。

令和2年度に設置した「盛岡市芸術文化振興基金」を活用し、ふるさと納税や企業等からの芸術文化振興に係る寄附金等を財源に、市民の創造的な活動の支援につなげていきます。

文化施設の整備と活用

（成果）

施設側、利用者側共に（公社）全国公立文化施設協会が定める「劇場、音楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づく対策を講じるほか、各文化会館にタレット型サーマルカメラを設置し、安全・安心な施設利用に向けた環境整備を行いました。

（問題点）

施設の老朽化に伴い、安全・快適で機能的な活動環境を提供するため、適正な管理運営と計画的な施設設備の修繕や更新に努める必要があります。

（今後の方向性）

市の公共施設保有最適化・長寿命化計画計画や緊急度、優先度を踏まえ計画的な修繕の実施を進めていきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術文化活動の自粛、減少していることを踏まえた評価結果となったものの、コロナ禍での芸術文化団体等の活動の再開を支援するため、芸

術文化活動への参加および鑑賞の機会を広く市民に提供することを目的として、芸術文化事業を行う団体等に補助金を交付して、芸術文化の振興に努めました。

今後においても、今般の社会情勢を踏まえ、市民が喜びや感動、心の潤いや安らぎを享受しながら暮らすことができる環境の構築に向けて、活動団体の有機的なつながりの支援を行うとともに、老朽化した施設の更新を計画的に進めるなど、芸術文化活動への積極的な支援を進めます。

施策13 スポーツの推進

誰もがスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるように、スポーツをする環境やスポーツを支える環境づくりを進めるとともに、スポーツを通じたまちの魅力の創出などに取り組めます。

■ 主要事業の実績

全ての市民がスポーツに参画する機会の提供を目指し、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、(公財)盛岡市スポーツ協会を中心とした各種競技団体やスポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等と連携し各種事業に継続的に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら施設運営を継続したことにより、市民がスポーツをする機会を継続して提供しました。

市民が継続してスポーツを楽しめるよう、老朽化した施設の大規模改修を計画的に行い、利用者の利用環境の向上を図りました。

東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業として、新型コロナウイルス感染症の影響でオリンピック・パラリンピックが1年延期となったなか、カナダとのオンライン交流やマリ共和国を紹介するホームページ作成などを行いました。

コロナ禍における全国規模の大会として、令和2年8月にスポーツライミング第33回リードジャパンカップを、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で開催しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
72		生涯スポーツ推進事業	一般	★	88	88	0	指導者養成、スポーツ教室開催、体育団体育成、学校体育施設開放事業、スポーツ大会開催支援(新型コロナウイルス感染症拡大による代替企画を実施)、スポーツ・パル事業など
73		都南東部体育館(仮称)整備事業	一般		0	1	0	不動産鑑定評価、測量業務委託
74		盛岡南公園野球場(仮称)整備事業	一般		119	119	0	基本設計、実施設計、アドバイザー業務委託等
75		盛岡広域連携スポーツツーリズム推進事業	一般		54	7	0	スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致、ホストタウン周知啓発、東京2020オリンピック・パラリンピック大会機運醸成
施策の計(一般会計 4事業)					261	213	0	

■ まちづくり指標(成果指標)の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
まちづくり評価アンケート調査「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合	↑	%	△	当初値 31.1 H27 28.9 H28 27.3 H29 31.4 H30 45.3 R1 44.6 R2 44.1 R3 R4 R5 R6 R1目標値(56.0) R6目標値(71.0)

- 「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

「週1回以上スポーツをしている」と答えた市民の割合は、平成29年度、30年度と増加傾向にありましたが、令和元年度及び令和2年度において若干低下しています。

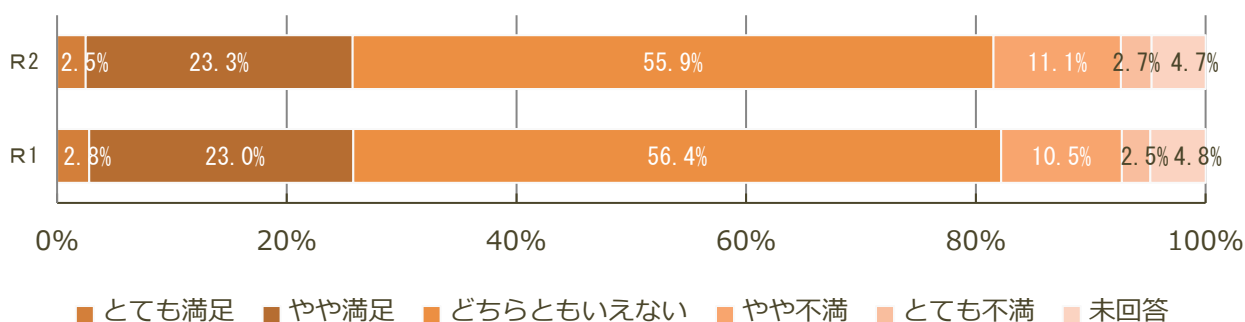
29年度から割合が増加しているのは、スポーツの範囲が競技スポーツだけではなく健康づくりのために行うウォーキング（散歩等を含む）やラジオ体操等の運動も含み推奨してきたことと、その旨をアンケートの項目をして分かりやすく表記したためと考えられます。

令和2年度において割合が増加しなかった要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツ施設の一定期間閉鎖及び各種大会の中止等により運動機会の提供ができなかったことが考えられます。

一方、コロナ禍においても日常の中で体を動かす習慣が浸透してきたことがスポーツ実施割合の維持の下支えとなっていると推測されます。

■ 施策に対する市民の実感

「スポーツ・レクリエーションを楽しむ機会の確保や施設の整備が整っている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進

（成果）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いわて盛岡シティマラソンを、アプリを活用したオンライン大会とした結果、コロナ禍における新たな形のスポーツイベントとして約3,000人が参加するスポーツイベントを開催することができました。

（問題点）

事業内容が類似・重複していないか検討する必要があります。

事業参加者は子供や高齢者の参加が多いが、働く世代の参加者が少ない傾向にあります。

（今後の方向性）

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会で生まれた有形・無形の様々な遺産（レガシー）を発展させ、着実に次世代に引き継ぐ取組が必要であり、市や（公財）盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが行っている各種スポーツ大会やスポーツ教室の周知促進を図ります。

各種スポーツ団体や健康づくりに関連する担当部署等と協議を行いながら、ライフステージに応じたスポーツを含めた健康づくりに取り組めるよう計画的に進めていきます。

健康づくりに関するアプリの使用等によるコロナ禍における新たな健康づくり事業の実施を検討します。

スポーツ施設の整備充実

（成果）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により施設利用者は大きく減少したが、一部利用休止期間を除き、感染症対策を実施しながら営業を継続したことにより、市民がスポーツをする機会を継続して提供することができました。

都南東部体育館（仮称）整備事業及び盛岡南公園野球場（仮称）整備事業について、着実な進展を図ることができました。

（問題点）

利用者が快適に利用できるよう、不具合備品や競技用具の更新のほか、施設を計画的に修繕する必要があります。

（今後の方向性）

施設利用者増加につながる自主事業の拡大について指定管理者に要請します。

公共施設保有最適化・長寿命化計画の着実な推進を図ります。

施設の維持管理に係る費用の確保について検討します。

新型コロナウイルス感染症対策として各スポーツ施設においてガイドラインに沿った換気や消毒等の感染症対策を行った上で安心安全な施設運営に努めます。

スポーツ団体等との連携強化

（成果）

市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなどの事業運営が継続的に行われています。

（問題点）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により（公財）盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の事業数が減少しました。各競技団体や総合型地域スポーツクラブへの活動支援が必要です。

総合型地域スポーツクラブは平成29年度に1団体増加、令和2年度においても1団体増加したところですが、それ以降の増加は見られず目標達成が難しい状況にあります。

（今後の方向性）

（公財）盛岡市スポーツ協会や各競技団体、総合型地域スポーツクラブが各教室や大会を開催しやすいようにするため、連携を強化し、情報提供を行っていきます。

総合型地域スポーツクラブの活動状況について継続して周知を図りながら、人材確保に努めるとともに、総合型地域スポーツクラブの地域性等を生かした健康づくり習慣化推進事業を委託し、市民のスポーツ活動の機会の提供に努めます。

総合型地域スポーツクラブの創設に向けた研修会の開催や設立時における国等の補助制度等の周知を図ります。

プロスポーツ等との連携

（成果）

令和2年度において岩手ビッグブルズ及びいわてグルージャ盛岡に対し、ホームゲームの観戦者に盛岡市の特産品を贈呈する業務委託を発注し、市内製造業等の経済活動の活性化を図るとともに、市民がプロスポーツに触れる機会の促進を図りました。

（問題点）

新型コロナウイルス感染症の影響による試合数の減等によりプロスポーツチームの会員数が減少傾向にあるため、会員数を増やすための支援（PR等）が必要です。

（今後の方向性）

練習環境の確保、ホームゲームの開催、広報活動に係る支援を継続します。

プロスポーツ団体を受託者としたスポーツ推進事業及びプロスポーツ支援事業を検討します。

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承

（成果）

新型コロナウイルス感染症の影響でオリンピック・パラリンピックが1年延期となったなか、カナダとのオンライン交流やマリ共和国を紹介するホームページ作成などを行いました。

新型コロナウイルス対策を実施したうえで開催する初の全国大会として、リードジャパンカップを無観客で開催しました。

（問題点）

全国大会や合宿の誘致活動を、新型コロナウイルス感染症の影響により積極的に行うことができませんでした。

（今後の方向性）

日本スポーツマスターズ2022等大規模な大会を控え、更に世界大会や全国大会の誘致を進め、賑わい創出や盛岡の魅力発信につなげます。

東京2020オリンピックにおけるカナダ事前キャンプ受入れの実績を生かし新型コロナウイルス感染症対策を講じた市民交流や周知啓発のあり方を検討します。

大会や合宿誘致で選ばれる都市となるよう現行のMICE制度より有利な助成制度の導入の検討を進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

市民が継続してスポーツを楽しむための利用環境の向上を図るため、施設の修繕を計画的に行うとともに、（公財）盛岡市スポーツ協会を中心とした各競技団体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等と連携を図りながら市民がスポーツを行う機会の提供を進めていく必要があります。

併せて、コロナ禍における健康づくり施策の展開やSNSを活用したスポーツイベントの開催を進めていく必要があります。

また、希望郷いわて国体・いわて大会の遺産（レガシー）を次世代に継承するため、東京2020オリンピックにおけるカナダ事前キャンプ受入れの実績を生かした新型コロナウイルス感染症対策を講じたスポーツ振興に取り組みます。

施策14 「盛岡ブランド」の展開

盛岡が住みたいまち、住んでみたいまち、訪ねてみたいまちとなるため、盛岡ならではの魅力や価値である「盛岡ブランド」を市民と共に磨き、育み、都市ブランド*の確立を目指します。

さらに、効果的に市内外に発信することにより「盛岡ブランド」を展開します。

*観光地や地場産業、文化・暮らしなどの個別のブランドにより生み出される都市の価値観やイメージのことです。

■ 主要事業の実績

小学校の総合学習で盛岡ブランドを取り上げ、子どもたちの郷土愛の醸成を図りました。

盛岡ブランドフォーラムやもりおか暮らし物語表彰により、市民への普及啓発を行いました。

首都圏の若者世代を中心とした「対象者」に、盛岡の価値や魅力を伝えるプロモーション素材を作成し、それを活用したプロモーション活動を行いました。

関係人口を機軸とした移住定住交流人口対策事業として「盛岡という星で」プロジェクトを立ち上げ、情報発信や首都圏における盛岡コミュニティ形成など、多角的なアプローチで情報発信やネットワーク形成を行いました。

庁内の様々なプロモーションにおいてマーケティングや戦略的な情報発信を取り入れることが出来るよう研修や情報交換を行いました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
76		盛岡ブランド確立事業	一般	★	12	8	0	首都圏等における盛岡市の認知度向上につながるプロモーション活動など
施策の計（一般会計 1事業）					12	8	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																								
まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合	↗	%	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>値</td><td>78.0</td><td>77.7</td><td>78.5</td><td>76.9</td><td>81.4</td><td>79.2</td><td>78.6</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	値	78.0	77.7	78.5	76.9	81.4	79.2	78.6				
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																	
値	78.0	77.7	78.5	76.9	81.4	79.2	78.6																					
地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」	↗	位	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>値</td><td>58</td><td>63</td><td>117</td><td>62</td><td>90</td><td>46</td><td>67</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	値	58	63	117	62	90	46	67				
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																	
値	58	63	117	62	90	46	67																					
観光客入込数	↗	万人回	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>値</td><td>472</td><td>509</td><td>500</td><td>500</td><td>508</td><td>519</td><td>450</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	値	472	509	500	500	508	519	450				
年度	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																	
値	472	509	500	500	508	519	450																					

- ・ 「盛岡が好き」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

ブランドフォーラムの出演者に、直木賞候補となった盛岡を舞台とした小説「雲を紡ぐ」の作者伊吹有喜さんを招いたことで集客につながりました。

子どもたちに向けた郷土愛の醸成として、緑が丘小学校の総合学習に協力し、毎年連携する関係性を構築できたほか、活動を周知するチラシを小学校に配布したことで、新規の学校での周知を行うことができました。一方、取組の成果が指標の上昇に結び付きませんでした。

- ・ 地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」／△遅れが生じている

各事業担当者と講師との情報交換を個別に行うことで、事業の課題等を共有し、横の連携を図ることが出来ました。

それぞれの活動に対し、訴求する相手方（ターゲット）を設定したことで、効果的な訴求につながりました。

ふるさと納税のデジタルプロモーション及び効果測定を実施し、寄付者数の増加に貢献できました。

情報発信を効果的に行うためのマーケティング研修や情報交換が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、想定回数実施できなかったほか、対面での実施が出来ませんでした。

- ・ 観光客入込数／△遅れが生じている

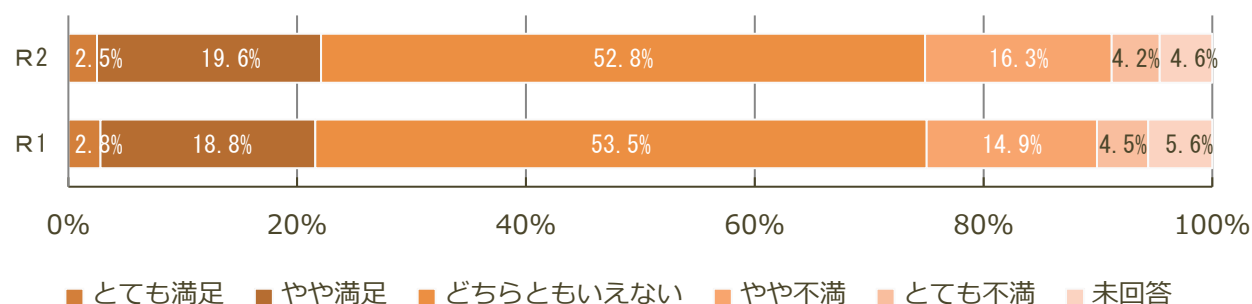
民間事業者などと連携し、ターゲットを明確にしたプロモーションの方向性を構築したうえで事業を実施しました。

移住相談体制の拡充や、「盛岡という星で」プロジェクトの一環として、盛岡の暮らし体験ツアーを実施することで、市への来訪のきっかけ作りを行うことができました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け観光客入込数は減少しました。

■ 施策に対する市民の実感

「盛岡の価値や魅力を育み、市内外へ発信している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

市民・事業者との意識共有

（成果）

情報発信に興味を持つ市民向けの動画制作セミナーや高校生と連携したインターネットラジオの制作により、盛岡の魅力の再確認と情報発信ができたほか、ブランドフォーラム当日の様子を動画配信サイトへアーカイブとして残すことで多くの市民への普及啓発を行うことが出来ました。

（問題点）

取組の成果が指標の上昇に結び付きませんでした。

（今後の方向性）

「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき、市内住民に向けたインナープロモーションを行います。

情報発信の強化

（成果）

庁内の様々なプロモーションにおいてマーケティングや戦略的な情報発信を取り入れることが出来るよう、セミナーや情報交換を行うことで連携を図り、庁内の情報発信力の向上を図ることが出来ました。

（問題点）

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、県外への移動が制限され、東京圏からの来訪者数を増やすことが出来ませんでした。

（今後の方向性）

「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づき市外に向けたプロモーションの効果を高めるため、マーケティング手法を取り入れ、全庁的な視点で連携した情報発信を実践します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

市民の関心及び魅力度における盛岡市の順位について、ともに目標値を達成することができませんでした。このことから、事業効果を検証しながら情報発信の手法を構築する必要があります。

市民や事業者のシビックプライドの醸成や市外に向けた情報発信、市外在住者との関わりを深めていくことなどを通じてシティプロモーションをより一層推進するために、「盛岡市シティプロモーション指針及び推進計画」に基づく事業を着実に推進します。

施策15 良好な景観の形成

市民と共に、自然環境と歴史的環境とが調和した盛岡らしい魅力ある景観を保持するなど、良好な景観の形成を図ります。

■ 主要事業の実績

都市景観シンポジウム、都市景観賞などを通し市民への景観に対する意識の向上を図り、景観計画区域内行為届の審査・指導により良好な景観形成となるよう誘導し、併せて景観計画の周知を行いました。

景観重要建造物、景観重要樹木等の維持保全を図り、市所有の景観重要建造物等を公開しました。

屋外広告物の許可により、景観計画との整合と公衆への危害防止を図りながら、官民が連携する啓発イベントを行い、屋外広告物制度の周知を図りました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
77		都市景観形成指導事業	一般	★	1	1	0	景観指導、都市景観シンポジウムの開催、都市景観賞の決定・表彰など
78		景観計画推進事業	一般		72	86	71	盛岡ふれあい覆馬場プラザ指定管理、紺屋町番屋改修工事・活用調整事務、景観重要建造物や景観重要樹木の適切な維持管理、保存建造物修復事業補助など
79		屋外広告物事務	一般		3	3	0	屋外広告物の許可、屋外広告物業の登録、簡易除却ボランティア活動の推進など
施策の計（一般会計 3事業）					77	90	71	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																																				
まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合	↗	%	△	<table><caption>「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合</caption><thead><tr><th>項目</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績値</td><td>70.1</td><td>70.8</td><td>69.7</td><td>65.9</td><td>72.2</td><td>72.3</td><td>72.0</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>目標値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>74.7 (R1)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>79.3 (R6)</td></tr></tbody></table>	項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	70.1	70.8	69.7	65.9	72.2	72.3	72.0					目標値					74.7 (R1)						79.3 (R6)
項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	70.1	70.8	69.7	65.9	72.2	72.3	72.0																																	
目標値					74.7 (R1)						79.3 (R6)																													
まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合	↗	%	○	<table><caption>「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合</caption><thead><tr><th>項目</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績値</td><td>59.6</td><td>59.6</td><td>52.3</td><td>52.3</td><td>58.9</td><td>56.0</td><td>59.0</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>目標値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>69.4 (R1)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>79.3 (R6)</td></tr></tbody></table>	項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	59.6	59.6	52.3	52.3	58.9	56.0	59.0					目標値					69.4 (R1)						79.3 (R6)
項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	59.6	59.6	52.3	52.3	58.9	56.0	59.0																																	
目標値					69.4 (R1)						79.3 (R6)																													
まちづくり評価アンケート調査「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合	↗	%	◎	<table><caption>「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合</caption><thead><tr><th>項目</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績値</td><td>69.9</td><td>71.1</td><td>66.6</td><td>65.3</td><td>70.0</td><td>66.8</td><td>71.5</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>目標値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>74.6 (R1)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>79.3 (R6)</td></tr></tbody></table>	項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	69.9	71.1	66.6	65.3	70.0	66.8	71.5					目標値					74.6 (R1)						79.3 (R6)
項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	69.9	71.1	66.6	65.3	70.0	66.8	71.5																																	
目標値					74.6 (R1)						79.3 (R6)																													
まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板など)は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合	↗	%	◎	<table><caption>「屋外広告物は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合</caption><thead><tr><th>項目</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績値</td><td>28.1</td><td>28.8</td><td>26.8</td><td>26.2</td><td>29.1</td><td>27.9</td><td>29.6</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>目標値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>31.1 (R1)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>33.6 (R6)</td></tr></tbody></table>	項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	28.1	28.8	26.8	26.2	29.1	27.9	29.6					目標値					31.1 (R1)						33.6 (R6)
項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	28.1	28.8	26.8	26.2	29.1	27.9	29.6																																	
目標値					31.1 (R1)						33.6 (R6)																													
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合	↘	%	◎	<table><caption>「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合</caption><thead><tr><th>項目</th><th>当初値</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr></thead><tbody><tr><td>実績値</td><td>20.6</td><td>18.8</td><td>20.1</td><td>21.0</td><td>21.4</td><td>21.5</td><td>19.8</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>目標値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>17.4 (R1)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>14.8 (R6)</td></tr></tbody></table>	項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	20.6	18.8	20.1	21.0	21.4	21.5	19.8					目標値					17.4 (R1)						14.8 (R6)
項目	当初値	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																													
実績値	20.6	18.8	20.1	21.0	21.4	21.5	19.8																																	
目標値					17.4 (R1)						14.8 (R6)																													

・ 「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

市所有の景観重要建造物等の公開により景観意識の向上を図っていますが、老朽化が進み、計画的な改善が必要となってきています。

また、誇れる景観があることに気付いていないことが考えられることから、歴史景観地域の市民への周知のほか、山並み・河川などを含めた優れた景観ポイントの発掘や、景観を意識し、人を呼び込む魅力的な道路・橋梁・沿道建造物等の整備が必要です。

・ 「誇れる田園や丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合／○目標値に向け推移

田園・丘陵地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域ですが、建設可能な新たな建造物等が建設される際には、景観に配慮した形態・意匠・色彩とするよう誘導しながら、のびやかで美しい周辺の自然と調和した佇まいを維持向上していく必要があります。

・ 「誇れる山間地の景観があると思う」と答えた市民の割合／◎目標値に向け順調に推移

山間地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域ですが、建設可能な新たな建造物等が建設される際には、景観に配慮した形態・意匠・色彩とするよう誘導しながら、豊かな自然に囲まれた現状の環境や眺望対象としての景観の維持を行っていく必要があります。

・ 「屋外広告物は、景観に配慮して表示・設置されていると思う」と答えた市民の割合

／◎目標値に向け順調に推移

官民が連携する啓発イベントを通じて屋外広告物制度について周知啓発を行い、制度が浸透してきている傾向にはありますが、さらに屋外広告物の制度の周知を徹底し、適正な屋外広告物が設置されるよう執り進めていく必要があります。

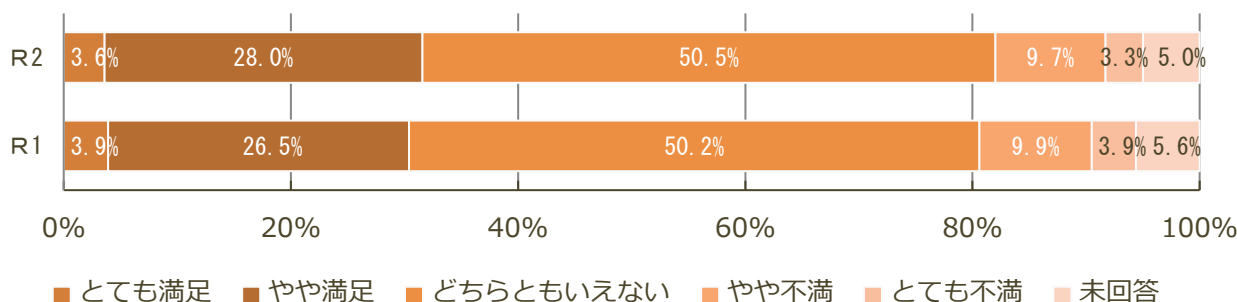
・ 「盛岡市の景観について、改善したい景観がある」と答えた市民の割合

／◎目標値に向け順調に推移

目標値に向け、順調に推移している状況ではありますが、改善したい景観が具体的に何であるか把握し、市街地においては、景観に対する配慮が不足している建設等や、景観重要建造物等の老朽化による腐朽や解体により、次世代に継承すべき魅力ある盛岡固有の景観が失われつつあるので、景観の保全を図っていく必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「盛岡らしい景観が形成されている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

景観保存対策の充実

(成果)

市所有の景観重要建造物を公開することにより、景観重要建造物の認識を高めました。

景観重要樹木の樹勢診断により、樹木の状態を把握することで適切な維持保全につながりました。

(問題点)

景観重要建造物の改修が進まず老朽化が進むことが、まちづくり評価アンケート調査において誇れる景観があると回答した割合が年々減少している要因のひとつと考えられます。

盛岡の優れた景観を把握し、PRする必要があります。

(今後の方向性)

景観重要樹木について、より一層の樹勢診断等の活用を図り、枯渇のないよう維持保全に努めます。

歴史的町並み整備事業の周知を図り、鉾田町の歴史的街並みの修景を進めます。

市所有の景観重要建造物の維持保全のため、計画的な改修を図ります。

良好な景観形成の誘導

(成果)

都市景観シンポジウム、都市景観賞等により市民の都市景観に関する意識の向上を図りました。

(問題点)

官民が連携する啓発イベントを行い、屋外広告物制度について周知を図りましたが、広く浸透しているとはいえない状況です。

(今後の方向性)

市民がより一層盛岡の景観に興味を持ってもらえるよう、都市景観シンポジウムや都市景観賞の内

容の充実を図ります。

また、屋外広告物の制度の周知の方法を検討し、屋外広告物の適正化を継続的に取り組みます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

都市景観シンポジウム、都市景観賞等を開催し景観に関する意識の向上を図っていますが、成果指標である、まちづくり評価アンケートの全ての評価指標が概ね微増傾向であるものの、令和6年の目標値達成が見込めない状況にあります。

引き続き都市景観シンポジウム、都市景観賞の内容の充実化等について検討するとともに、成果指標が停滞している要因の把握に努める必要があります。

景観重要建造物等については、老朽化に対応するために計画的な改修を進める必要があり、その先鞭をつける紺屋町番屋改修では、利活用のあり方も指標向上に一定の役割を果たすことが期待されます。

また、屋外広告物については、あらためて広く市民への制度周知に努める必要があります。

施策16 計画的な土地利用の推進

地域の特性をいかし、機能的で魅力的な都市を形成するため、自然環境の保全と人々の営みとの調和を考慮しながら、コンパクトで効率的な市街地を形成するなど、計画的で適正な土地利用を推進します。

■ 主要事業の実績

都市計画法に基づく区域区分等の見直しに向けた都市計画基礎調査や開発許可制度，国土利用計画法に基づく土地取引事後届出制度，国土調査法に基づく地籍調査などにより，国土利用計画盛岡市計画や都市計画マスタープランに基づく適正な土地利用が図られました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
80		都市計画区域区分変更事業	一般		0	2	2	岩手県及び広域市町（滝沢市・矢巾町）との事前調整協議など
81		開発許可事務事業	一般		1	1	0	都市計画法に基づく開発・建築の許可事務，宅地造成等規制法に基づく許可
施策の計（一般会計 2事業）					1	2	2	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合 (市域における都市計画区域の割合 ^{*1})	→	%	☆	当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(50.3) R6目標値(50.3)
農用地として保全し土地利用する割合 (市域における農用地区域の割合 ^{*2})	→	%	◎	当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(8.4) R6目標値(8.4)
森林として保全し土地利用する割合 (市域における森林区域の割合)	→	%	◎	当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(73.2) R6目標値(73.2)

*1 都市計画区域と農用地区域、森林区域とが重複している区域があるため、3区域の割合の合計は100.0%を超えます。

*2 「農用地として保全し土地利用する割合」の当初値は、平成26年度の速報値としています。

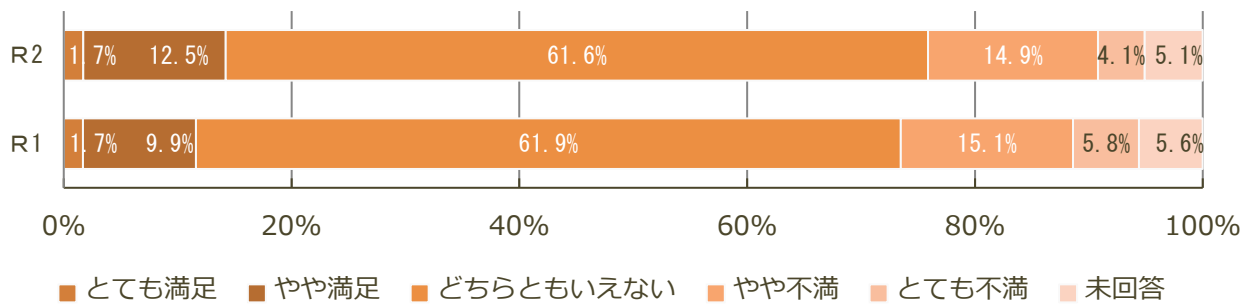
- ・ 市域における都市計画区域の割合／☆目標値に到達
- ・ 市域における農用地区域の割合／◎目標値に向け順調に推移
- ・ 市域における森林区域の割合／◎目標値に向け順調に推移

関連する上位計画や制度等の適切な運用及び関係施策や計画における相互連携による調整を図ったことから、目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られています。

また、開発及び建築行為における申請前の窓口相談等において十分な指導を行っていることから、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られました。

■ 施策に対する市民の実感

「地域の特性を生かした土地利用の計画、管理などが行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

土地利用に関する計画の策定・見直し

（成果）

目標に即した整備，開発，保全の方針が適正に図られています。

（問題点）

将来における都市部及び農村部の生活サービス，コミュニティ，社会資本の維持が困難になることが予想されます。

将来における森林資源の保全維持管理を図る必要があります。

（今後の方向性）

近年の社会情勢の変化や各種関連計画の策定等を踏まえ，市の都市計画の方針を定めている盛岡市都市計画マスタープランの地域別構想の見直しのほか，都市再生特別措置法の改正を踏まえた盛岡市立地適正化計画の見直しを進めます。

農用地や森林を生産機能の場，豊かな自然景観や水源涵養資源として保全・活用するため，総合的で計画的な土地利用を進めます。

土地利用の管理・指導

（成果）

市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られています。

開発許可及び建築許可の相談件数が多く，相談内容が多岐にわたり，時間を要するため予約制を導入したことにより，相談者の待ち時間の解消が図られています。

（問題点）

審査基準の緩和に関する相談や調査，資料収集が必要で，複雑な相談内容への対応に時間を要しています。

（今後の方向性）

より効率的な窓口対応を図るため，開発建築相談の予約制を推進し，説明資料等の工夫等を検討します。

市街化調整区域における開発等許可基準は，国の動向や他都市の事例，岩手県との協議等を踏まえ，地域の実情等に応じた運用を継続して検討します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

盛岡市都市計画マスタープラン（全体構想）の見直し，盛岡市立地適正化計画（令和2年3月策定，令和3年3月変更）の確実な運用及び開発許可の適正な運用等により，計画的な土地利用を進めており，成果指標による進捗評価は良好に推移しています。

今後は、法令改正等を踏まえた見直しのほか、社会情勢の変化等や市民意見を踏まえた盛岡市都市計画マスタープラン（全体構想）に基づき、市街化調整区域の地区計画の運用方針等の策定を進め、引き続き、合理的な土地利用を図る必要があります。

また、盛岡市都市計画マスタープラン（地域別構想）の見直しを進めるほか、農村部のコミュニティ維持等の課題に対応する市街化調整区域の土地利用について、関係部署と連携して検討を進めます。

基本目標3 人を育み未来につなぐまちづくり

施策17 子どもの教育の充実

子ども一人ひとりの個性をいかし、学力を定着させ、生きる力を育むことができるように、学校や家庭、地域などが連携しながら、子どもの教育の充実と健全な育成を図ります。

■ 主要事業の実績

教員の指導力向上のための取組を行い、児童生徒の学力向上を図るとともに、道徳教育・先人教育の充実などにより、豊かな心の育成を進めました。

また、スクールアシスタントや不登校生徒等対策相談員を配置し、個別に配慮が必要な児童生徒への支援に取り組みました。

学校等の施設については、校舎の大規模改修工事、トイレ改修工事等を行ったほか、施設の適切な維持保全に努めました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
82		教育振興事業（小学校・中学校）	一般		151	149	0	小学校教師用教科書及び指導書等を購入等
83		先人教育推進事業	一般		1	1	0	先人カレンダーの作成など
84		生徒指導強化推進事業	一般		64	63	0	スクールアシスタント、不登校生徒等対策相談員の各小中学校への配置、スクールガードリーダーの委嘱など
85		教育活動推進事業	一般		14	13	0	少人数指導非常勤講師2名の配置、学校司書11名の配置など
86		小学校整備事業	一般		1,470	1,960	920	向中野小増築等工事（実施設計）、飯岡小校舎増築等工事、仁王小及び大新小校舎大規模改修工事、城南小屋内運動場大規模改修工事（実施設計）
87		中学校整備事業	一般		751	848	238	仙北中第二屋内運動場等整備工事、城西中校舎大規模改修工事、北陵中校舎大規模改修工事（基本設計）
88		学校プール整備事業	一般		0	0	0	今後の整備予定を検討
89		（仮称）盛岡学校給食センター建設事業	一般		223	131	0	アドバイザー業務委託、測量及び登記業務委託、造成工事、汚水樹設置工事、水道管敷設工事、下水道受益者負担金、事業者選定委員会
施策の計（一般会計 8事業）					2,673	3,165	1,158	

・ 小学校整備事業

地質調査において想定していた地質に差異があり調査方法を変更したこと、既存改修部分の工事内容の減少に伴い設計業務量が減少したこと及び工事費等において予算額に対する契約額に差金が生じたことにより実績額（繰越額を除く）が小さくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移	
小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生】	↑	ポイント	○		
小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生】	↑	ポイント	○		
体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生】*	↑	ポイント	△		
体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生】*	↑	ポイント	△		

*令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を実施していません。

- 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【小学校4年生：国語】／◎目標値に向け順調に推移**
 数研式全国標準学力検査（NRT）の結果において、全国平均より高い水準でした。各領域の平均正答率では、「読むこと」領域の全国比が121であり、「話すこと・聞くこと」領域（119）、「書くこと」領域（116）及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域（111）でも全国平均を上回っているが、誤答率が5割以上である小問内容7項目のうち、3項目が「書くこと」領域の内容であり、目的や条件を踏まえて書く活動が不足しており、適切に表現する力が不足していると考えられます。
- 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【小学校4年生：算数】／△遅れが生じている**
 数研式全国標準学力検査（NRT）の結果において、全国平均より高い水準でした。各領域の平均正答率では、「数量関係」領域の全国比が114であり、「数と計算」領域（111）、「量と測定」領域（104）及び「図形」領域（103）でも全国平均を上回っているが、誤答率が5割以上である小問内容4項目のうち、3項目が「図形」領域の内容であり、「関連付けて考える」学習活動の不足から、図形の性質や図形の作図の根拠の理解不足が考えられます。
- 小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：国語】／◎目標値に向け順調に推移**
 数研式全国標準学力検査（NRT）の結果において、全国平均より高い水準でした。各領域の平均正答率では、「話すこと・聞くこと」の全国比が113であり、「書くこと」領域（108）、「読むこと」領域（102）及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域（112）でも全国平均を上回っていますが、「読むこと」領域の「説明的な文章を読むこと」、「語句や表現技法についての理解」において、全国平均を下回っており、「言葉による味方・考え方」を働かせて言語活動を行うことが不足し、言葉の働きや文章構成等

に着目した理解力が不足していると考えられます。

・ **小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：数学】／○目標値に向け推移**

数研式全国標準学力検査（NRT）の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「数と式」領域の全国比が112であり、「図形」領域（103）及ぶ「資料の活用」領域（109）でも全国平均を上回っていますが、「関数」領域の全国比が94で、全国平均を下回っており、「数学的な見方・考え方」を働かせて、論理的、統合的・発展的に考える機会や、表・式・グラフを関連させながら事象について考察したり表現したりする機会が不足していると考えられます。

・ **小中学校学力検査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：英語】／☆目標値に到達**

数研式全国標準学力検査（NRT）の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「書くこと」領域の全国比が110であり、「聞くこと」領域（104）、「話すこと」領域（105）及び「読むこと」領域（107）でも全国平均を上回っているが、「話すこと」領域の「テーマに沿ってスピーチする」、「読むこと」領域の「英文を正しく読み取る」において、全国平均を下回っており、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスのとれた指導の継続が必要と考えられます。

・ **体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【小学校5年生：男】／△遅れが生じている**

50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果（令和元年度）によるものです。

筋力（握力）が全国標準値を上回っています。全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られてきているが、全国との比較において低い結果となり、正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきていることや、登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられます。

・ **体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【小学校5年生：女】／△遅れが生じている**

50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果（令和元年度）によるものです。

筋力（握力）、敏捷性（反復横とび）、瞬発力（立ち幅跳び）が全国標準値を上回っています。全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られているが、全国との比較において低い結果となっており、正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきていることや、登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられます。

・ **体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：男】／△遅れが生じている**

50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ハンドボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果（令和元年度）によるものです。

投力（ハンドボール投げ）が全国標準値を上回っています。全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られているが、全国との比較において低い結果となっており、運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多いことが要因として考えられます。

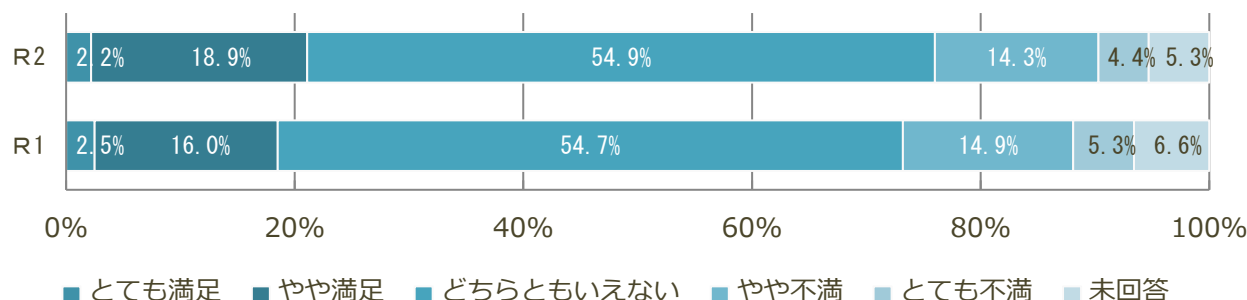
・ **体力運動能力調査の全国水準（100）との比較【中学校2年生：女】／△遅れが生じている**

50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ハンドボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果（令和元年度）によるものです。

筋力（握力）、筋持久力（上体そらし）、柔軟性（長座体前屈）は、全国標準値を上回っています。全身持久力（20mシャトルラン）とスピード（50m走）は、改善が図られているが、全国との比較において低い結果となっており、運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多いことが要因として考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「将来を担う子どもたちを育てる小中学校の教育内容や施設の整備が充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

小中学校教育の充実

（成果）

学力検査では、NRT検査結果において指標項目全てが全国平均よりも高い水準でした。

体力運動能力調査では、体育の授業での運動量確保やSAQトレーニングによって改善が図られています。

（問題点）

学力検査では、「目的や条件を踏まえて書くこと」「図形の性質を踏まえて作図すること」「言葉の働きや文章構成に着目して読み取ること」「表・式・グラフを関連させること」「聞く・話す・読む・書くを関連させること」に関する誤答率や無答率が多い小問内容があります。

体力運動能力調査では、正しい姿勢で歩いたり走ったりする児童の減少、運動に対して正しく身体を動かすことができない生徒が多いことが課題となっています。

（今後の方向性）

校内研究会において、全市的共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を行い、児童生徒が学んだことを自覚し、達成感や有用感をもつことができるよう、具体的な指導・助言を行います。

また、「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させます。

家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に学ぶ生徒を育成します。

小学校における体力運動能力調査に関しては、徒歩の登下校の呼びかけをし、基礎体力の向上を図るほか、体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図ります。

また、研究発表会での実践では、9年間を見通して「走る」に特化し、研究を推進します。

中学校における体力運動能力調査に関しては、小学校に引き続き、「走る」に特化し、体力の向上を図るほか、体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図ります。

また、体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図ります。

幼稚園教育の充実

（成果）

保護者の満足度が向上しています。

（問題点）

園児の減少に伴い、集団が小規模となり、幼児同士の人間関係の固定化や体験できる遊びの限定、集団生活を通して身に付けなければならない社会性をはぐくむことが難しい状況が生じています。

保護者のニーズに対応した預かり保育その他の取組の充実が求められていますが、運営効率の面から取組拡大は困難です。

（今後の方向性）

幼児理解に基づく個の特性に応じたきめ細かな幼児教育を提供し、保護者への積極的な情報発信を図ります。小学校教育との相互理解と円滑な接続を図り、交流活動の推進を図ります。

園児数減少の影響を考慮し、今後の園の在り方について保護者や地域住民の意見も含め検討します。

高等学校教育の充実

（成果）

進路指導が充実し、希望する進学・就職の目標達成率が向上しています。

（問題点）

社会構造や雇用環境が大きく、急速に変化する時代においても、社会的・職業的に自立し、社会の担い手となる人材の育成に向けた教育の充実が求められています。

確かな学力を身に付けさせ、安定的に進路目標を実現できる生徒の育成に関して、言語活動重視の対話型授業によるコミュニケーション能力の育成が求められており、授業力向上に関する教職員の更なる研修が必要です。

（今後の方向性）

「総合的な探究の時間」等を通して、地域・企業と連携し、社会経済の仕組みの理解、地域理解、職業に関する知識を身に付けさせ、職業選択の能力や将来設計能力などを育成するキャリア教育の充実を図り、「起業家教育」の教育課程への位置付けとその充実について検討します。

岩手大学教職大学院等と連携し、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての研修を実施し、授業改善につなげます。

教職員研修の充実

（成果）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、各講座に定員（会場定員の1/2）を設けて開催し、全講座の定員245人を上回る、386人の参加希望者があり、全ての講座で参加者を抽選で決定し開催しました。

参加者アンケートでは、講義だけでなく、協議や演習、実技、見学等の工夫により、研修の充実が図られているとの指摘が見られ、満足度（4段階評価：3.85）の向上が図られました。

（問題点）

夏期休業中の開催では、県教委の教育課程説明会や授業力向上研修、中学校の運動部の東北大会、高校体験入学等が重なることが予想され、開催期日について工夫する必要があります。

（今後の方向性）

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年度も各講座に定員（全講座定員445人）を設け、感染症対策を徹底して開催します。

従来の講座に加えて、今日的課題、教員のニーズを踏まえ、「ICT活用」「コミュニティ・スクール」「生徒指導（いじめ）」「教育相談（LGBT）に係る講座を新設し開催します。

講座の内容に応じて、各学校の効果的な実践事例を取り上げ、2学期からの教育活動の充実を図ります。

岩手県立総合教育センターが開催する、授業力改善研修、教育課程説明会や学校行事等の開催期日等について確認しながら開催します。

学校施設の整備・充実

（成果）

新たな２校の大規模改修に着手し、既に着手している事業に係る工事及び実施設計を実施することができました。

（問題点）

学校を含む公共施設について、限られた財源を効果的に活用し、計画的な保全の実施と施設の長寿命化を図り、次世代に大きな負担を強いることなく、「公共施設の保有の最適化」を推進し、持続可能な市民サービスの提供を目指す必要があります。

（今後の方向性）

「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき、事業費の精査を行い、限られた財源を効果的に活用することにより、将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努めていきます。

令和３年７月に改訂した「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」に基づき、施設の長寿命化を目指して必要な改修の検討を進めるとともに、施設の複合化が円滑に進むよう関係団体、関係部署等と緊密な調整を進めていきます。

学校プール老朽化への対応として、民間プールの活用、学校プールの共用化及び市営プールの使用等について検討を進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

盛岡市学校教育の目標を、「子どもたち一人一人に、自立して社会で生きていくための基礎を育む」とし、全市的な取組を総合的に進めており、一定の効果が出ているものと認識しています。

成果指標としている小中学校の学力については、学力向上推進事業による授業改善等の取組により、全ての指標で全国水準を上回る傾向が維持されていますが、体力運動能力については、令和２年度は調査が行われていませんが、令和元年度調査において、全国水準から低下傾向の項目が見受けられます。

学力、体力運動能力とも、なお課題があることから、要因を分析し、取組方法を研究しながら、引き続き全市的な取組を展開してまいります。

施策18 生涯学習の推進

誰もが楽しみや生きがいを持ち、豊かに暮らすことができるように、いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築を図ります。

■ 主要事業の実績

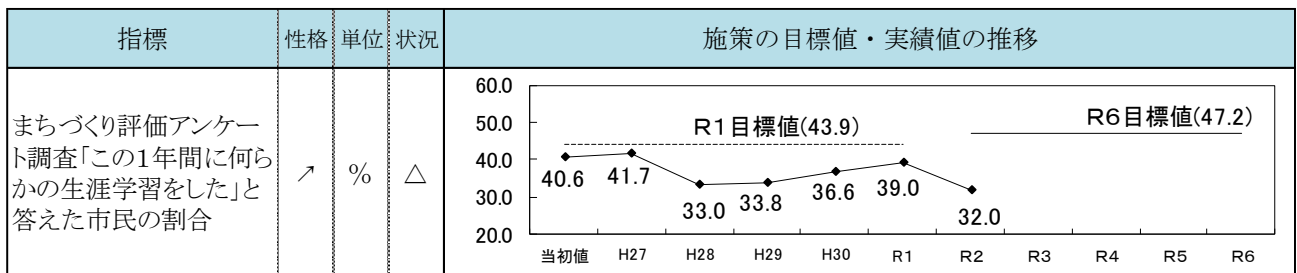
公民館等では、市民ニーズを把握するとともに、コロナ禍におけるリスク評価を行い、感染防止対策を講じながら、家庭教育支援・青少年教育・成人教育・高齢者教育・芸術文化活動・生涯学習推進・地域連携など、幅広いテーマで学習機会の提供に努めました。

また、中央公民館企画展示室の大規模改修工事、中央公民館に隣接する駐車場用地の取得、浜民公民館・浜民図書館の長寿命化修繕（20年目）に取り組むなど、市民の良好な学習環境の整備に努めました。

（単位 百万円）

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
90		社会教育促進事業	一般	★	10	7	0	学校・家庭・地域連携推進事業、生涯学習推進事業、社会教育団体活動支援、成人のつどい式典実施など
91		社会教育施設整備事業	一般		54	54	52	（仮称）南部公民館整備事業・子ども科学館施設整備事業：令和3年度以降に着手予定 図書館大規模改修事業：市立図書館の耐震改修及び大規模改修工事に係る地質調査業務委託
施策の計（一般会計 2事業）					64	61	52	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



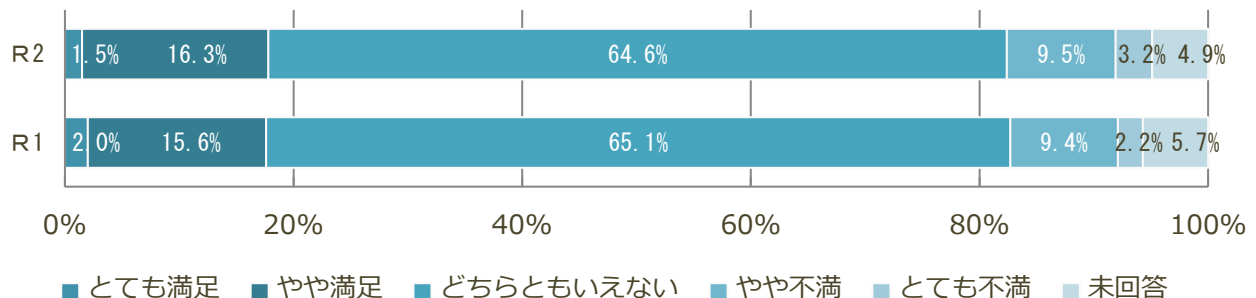
・ 「この1年間に生涯学習をした」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

新型コロナウイルス感染拡大に伴う市民の活動自粛や、ライフスタイルの多様化、情報通信機器の発達等により、生涯学習に対する市民意識が変化していることが社会的背景として考えられます。

社会教育施設における学習講座は、多くの参加が期待できる市民が学びたいテーマだけでなく、防災や環境など社会の変化に応じて学んでほしいテーマとのバランスを図りながら実施する必要があること、また、学習活動の機会や時間の確保が難しい働き世代の講座参加者数が少ない状況にあることを踏まえ、講座の開催日時や内容について、さらに見直しを図っていく必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「いつでもどこでも学ぶことができる各種講座の開設や生涯学習環境が整っている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

社会教育の充実

（成果）

家庭教育支援や青少年教育など社会教育事業の提供により、市民の学習機会の充実が図られるとともに、中学生リーダーや新成人のリーダーが育成されています。

（問題点）

学びの循環推進事業では、多彩な講座メニューを用意し、市民の継続的な学習活動に活用されていますが、大学教員を講師として派遣する「専門コース」の活用が少ないほか、防災や環境など社会的な課題をテーマとする講座への講師派遣が減少しています。

（今後の方向性）

各種講座等の開催に当たり、大学との連携強化を図るほか、社会教育に関する事業の効果的な周知方法を検討するとともに、家庭教育支援や青少年教育など社会教育に係る学習機会の充実と団体の育成支援を継続します。

社会教育施設の整備・充実

（成果）

多様な講座の開催に努めました。

中央公民館企画展示室の大規模改修工事、中央公民館に隣接する駐車場用地の取得、渋民公民館・渋民図書館の長寿命化修繕（20年目）などに取り組みました。

（問題点）

講座により参加者数に偏りがあるほか、勤労青年層の参加が少ないです。

老朽化の進む社会教育施設の計画的な改修、及び新たな施設整備を進める必要があります。

（今後の方向性）

各種講座等の開催に当たり、大学との連携強化を図るほか、市民ニーズの把握に努め、学習テーマのバランスを図り、魅力ある講座を実施します。

老朽化した社会教育施設の計画的な改修、及び「公共施設保有の最適化と長寿命化のための基本方針」との整合を図りながら、市民ニーズに対応した新たな施設整備を推進します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

市民の生涯学習を支援するため、市民ニーズを捉え、多様な講座等の開催に努めているところであるが、受講者の年代や性別に偏りがあるほか、多様化するライフスタイルにも幅広く学習機会に接することができるよう、更なる創意工夫、改善が必要と考えられます。

また、社会教育施設の老朽化が進んでおり、市民が安全・安心に利用できることに加え、利便性の高い施設となるよう修繕・改修・整備を計画的に実施していく必要があります。

今後も、市民の学習意欲を高め期待に応えられるよう、ソフト・ハード両面から、生涯学習推進のための環境づくりに努めてまいります。

施策19 社会を担う人材の育成・支援

将来を担う若い世代や女性がライフスタイルに合わせ、社会のさまざまな場面で活動できるように、人材の育成や情報の提供などの支援に取り組みます。

■ 主要事業の実績

県が設置する「ジョブカフェいわて」に市事業としてカウンセラーを配置し、若者の就業支援を行いました。

国が設置する「もりおか若者サポートステーション」において、市事業としてワーキングルームの開設やボランティア活動の場の提供、臨床心理士によるカウンセリングなどを実施し、若年無業者の就業に向けた支援を行いました。

市役所でのインターンシップを希望する大学生等の受入れを行いました。

高校生が市内の民間企業でのインターンシップを経験できるよう、受け入れ可能企業と高校生とのマッチングを行いました。

地元企業で働く若手社員の仕事の様子や仕事を選んだきっかけなどを紹介し、地元で働き暮らすことをイメージしやすくすることで、将来の地元定着を目的とした冊子「モリオカシゴトカメラ」を作製し、盛岡広域管内の高校1年生に配布しました。

若者の地元定着を支援するため、就職後3年目までの若手社員を対象に、コミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修を実施しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
92		若者の就業支援事業	一般		17	17	0	ジョブカフェいわて、若者サポートステーションの運営業務委託、新社会人就職定着支援など
施策の計（一般会計 1事業）					17	17	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																											
もりおか若者サポートステーションに年度内に新規登録した盛岡市民のうち就職決定した者の割合	↗	%	△	<table><caption>就職決定者の割合推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (%)</th><th>目標値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>62.9</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>62.9</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>66.6</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>35.0</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>60.0</td><td>62.9</td></tr><tr><td>R2</td><td>51.3</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>62.9</td></tr></tbody></table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	当初値	62.9		H27	62.9		H28	66.6		H29	35.0		R1	60.0	62.9	R2	51.3		R6		62.9			
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																													
当初値	62.9																														
H27	62.9																														
H28	66.6																														
H29	35.0																														
R1	60.0	62.9																													
R2	51.3																														
R6		62.9																													
ジョブカフェいわての利用者数	↗	人	☆	<table><caption>ジョブカフェいわての利用者数推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (人)</th><th>目標値 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>29,529</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>32,310</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>31,938</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>42,851</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>51,501</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>67,800</td><td>55,000</td></tr><tr><td>R2</td><td>73,207</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>55,000</td></tr></tbody></table>	年度	実績値 (人)	目標値 (人)	当初値	29,529		H27	32,310		H28	31,938		H29	42,851		H30	51,501		R1	67,800	55,000	R2	73,207		R6		55,000
年度	実績値 (人)	目標値 (人)																													
当初値	29,529																														
H27	32,310																														
H28	31,938																														
H29	42,851																														
H30	51,501																														
R1	67,800	55,000																													
R2	73,207																														
R6		55,000																													

* 厚生労働省への報告が義務付けられている対象者の人数を採用していますが、平成27年度から報告対象が変更されたため、指標も「進路を決定した人数」から「就職を決定した人数」に見直しました。当初値は27年度の実績値としています。

- ・ もりおか若者サポートステーションに年度内に新規登録した盛岡市民のうち就職決定した者の割合／△遅れが生じている

各関係機関や病院との連携が図られており、全体の登録者、市内在住の登録者とも増加傾向にあります。一方、利用者の抱える問題が複雑化し、一人ひとりに対する支援に要する期間が長期化する中

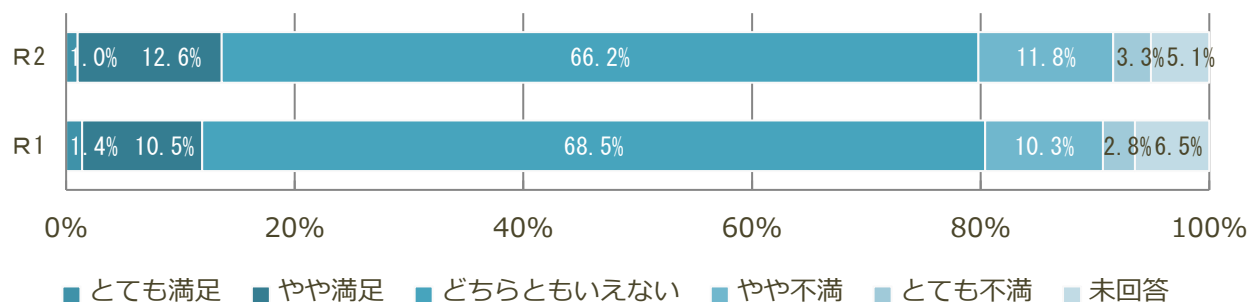
で、新規登録者に対する就職者の割合は前年度より低下しました。

・ ジョブカフェいわての利用者数／☆目標値に到達

岩手県が設置する「ジョブカフェいわて」において、就職等に関するカウンセリング等の業務を行っていますが、県事業との連携により、きめ細やかなカウンセリングが実施できていることから、利用者は目標を大きく上回っており、若い世代に十分に認知されているものと考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「ライフスタイルに合わせた、若い世代や女性の活躍を支援する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

若い世代の活躍支援

（成果）

「ジョブカフェいわて」の利用者が目標の1.3倍超となっており、若年者の就労に関する相談の拠点として十分に認知されています。

（問題点）

若年無業者となる背景は、心身の健康上の理由や人間関係に関する不安など、多種多様で複雑な要因があり、家族が公にすることを避ける例も多いため、支援を必要とする若年無業者の全容把握は困難です。

「もりおか若者サポートステーション」の延べ利用者数も前年以上を確保し一定の実績を上げていますが、利用者の抱える問題が複雑化していることから、一人の支援に対し、以前に比べて時間を要しています。継続的かつ丁寧な支援が求められる分野でもあり、臨床心理士によるカウンセリング、ジョブトレーニングやボランティア体験の実施など、様々な支援メニューにより、利用者の社会的自立につなげていく必要があります。

（今後の方向性）

若年者は今後の社会を担う貴重な人材であり、就労や職場定着は重要な課題となっていることから、引き続き若年者や若年無業者の就労支援を行います。また、「もりおか若者サポートステーション」については、更なる利用促進のため、周知・PRに努めるとともに、本人の意向を尊重しながら丁寧な支援に努めていきます。

「ジョブカフェいわて」については、より利用者のニーズに沿った支援が展開できるよう、事業の振り返り等を通じた改善に努めていきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

「ジョブカフェいわて」や「もりおか若者サポートステーション」と連携を図りながら、若い世代や女性が活躍できるよう、今後も様々な支援を展開していきます。

施策20 地球環境の保全と自然との共生

地球環境や豊かな自然を次世代に引き継ぐため、地球温暖化対策やごみの減量化・資源化の推進、水や緑の保全などに取り組み、地球環境の保全と自然との共生を推進します。

■ 主要事業の実績

【自然の保護と活用】

近郊自然歩道9コースについて、ガイドマップを配布及び環境部ホームページに詳細なコースマップや花暦などを掲載し、また、適切な維持管理を行い、利用者の安全確保に努めました。

【環境を大切にする心の育成】

環境学習講座を11回開催したほか、環境部ホームページを活用し環境啓発を行いました。

【資源循環型社会の形成】

地区別収集データの分析及び地区別収集データに基づく各地区独自の取組事例を紹介しました。

市クリーンセンターにおいて資源化可能な事業系古紙類の搬入規制を開始しました。

市リサイクルセンターに監視カメラを設置し、適正な分別がなされていない事業系ごみの搬入規制体制を強化しました。

【地球温暖化対策の推進】

「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置補助金」を交付し、住宅への太陽光発電システム等の普及を図りました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
93		地球環境啓発事業	一般		6	6	0	環境啓発イベント及び環境学習講座の開催、環境部ウェブサイト保守管理・新規コンテンツ作成委託など
94		資源集団回収報奨金交付事業	一般		30	25	0	資源集団回収を実施する団体への報奨金など
95		地域循環型生ごみ処理推進事業	一般		1	1	0	大型生ごみ処理機（盛岡地域3地区）による生ごみ排出量の減量化
96		事業系ごみ減量等推進事業	一般		5	3	0	事業系ごみの適正処理に関する指導・啓発
97		地球温暖化対策実行計画推進事業	一般		16	18	0	太陽光発電システム設置への補助、地球温暖化対策実行計画推進基金の積立てなど
98		生出地域エコタウン事業	一般	★	2	2	0	電気自動車のリース、LED照明のリースなど、自然エネルギーの活用や省エネルギーの整備を行い、自然環境との共生を目指した地域づくりを推進
施策の計（一般会計 6事業）					59	54	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																											
まちづくり評価アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	↗	%	○	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>80.8</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>82.6</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>82.7</td><td>R1目標値(83.0)</td></tr><tr><td>H29</td><td>80.4</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>81.1</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>80.4</td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>80.6</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>R6目標値(86.0)</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	80.8		H27	82.6		H28	82.7	R1目標値(83.0)	H29	80.4		H30	81.1		R1	80.4		R2	80.6		R6		R6目標値(86.0)
年度	実績値	目標値																													
当初値	80.8																														
H27	82.6																														
H28	82.7	R1目標値(83.0)																													
H29	80.4																														
H30	81.1																														
R1	80.4																														
R2	80.6																														
R6		R6目標値(86.0)																													
まちづくり評価アンケート調査「CO ₂ の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合	↗	%	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>80.7</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>78.4</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>79.2</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>77.1</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>79.6</td><td>R1目標値(83.0)</td></tr><tr><td>R1</td><td>77.2</td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>76.6</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>R6目標値(86.0)</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	80.7		H27	78.4		H28	79.2		H29	77.1		H30	79.6	R1目標値(83.0)	R1	77.2		R2	76.6		R6		R6目標値(86.0)
年度	実績値	目標値																													
当初値	80.7																														
H27	78.4																														
H28	79.2																														
H29	77.1																														
H30	79.6	R1目標値(83.0)																													
R1	77.2																														
R2	76.6																														
R6		R6目標値(86.0)																													
ごみ総排出量*	↘	t	☆	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>118,398</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>114,318</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>111,703</td><td>R1目標値(111,170)</td></tr><tr><td>H29</td><td>110,003</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>109,892</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>108,210</td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>102,970</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>R6目標値(105,880)</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	118,398		H27	114,318		H28	111,703	R1目標値(111,170)	H29	110,003		H30	109,892		R1	108,210		R2	102,970		R6		R6目標値(105,880)
年度	実績値	目標値																													
当初値	118,398																														
H27	114,318																														
H28	111,703	R1目標値(111,170)																													
H29	110,003																														
H30	109,892																														
R1	108,210																														
R2	102,970																														
R6		R6目標値(105,880)																													

* 盛岡市一般廃棄物処理基本計画の改訂にあわせ、平成28年度に目標値を変更しました。

・ 「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合／○目標値に向け推移

平成28年度まではほぼ目標値を達成していましたが、平成29年度以降は実績値が目標値を下回っています。自然環境の保全と活用の周知が不十分であったと考えられます。

今後は、近郊自然歩道にもっと親しんでもらえるよう、令和3年度に整備する玉山地区への新しいルートの周知や、環境部ホームページにおいて情報を掲載するなど、身近な自然に触れ合う機会の情報発信が必要です。

・ 「CO₂の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合／△遅れが生じている

2年連続で前年度より実績値が減少しています。近年、気候変動による自然災害が頻発しており、環境の変化に関する報道も多くありましたが、環境問題や省エネよりも、自らの生活や命を脅かす感染症問題のほうがより意識されている可能性も否定できません。

今後も、地球温暖化対策としてのCO₂削減の重要性や、再生可能エネルギーの導入促進、ごみの減量など、取り組みやすい内容を分かりやすく市民に情報発信するなど、「地球環境にやさしい生活」に関する市民の意識をより高めていく必要があります。

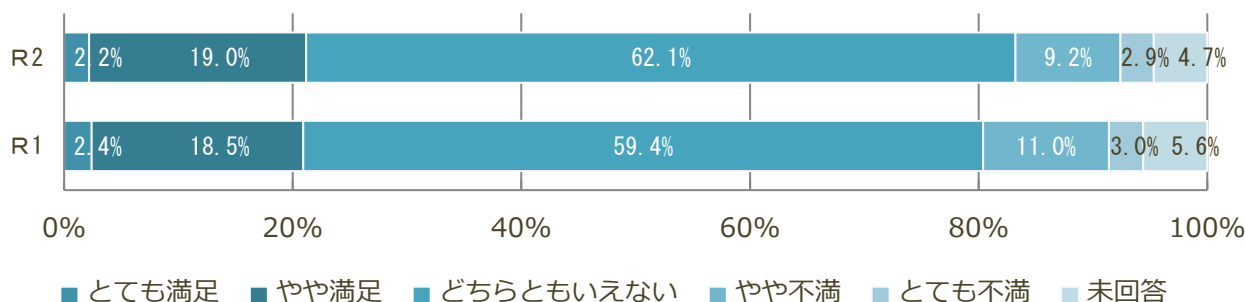
・ ごみ総排出量／☆目標値に到達

当初値より年々ごみ総排出量が減少し、令和6年度の目標を達成しています。これまでのごみの発生抑制やリサイクルの取組、令和2年度から実施している事業系ごみの搬入規制などが成果として現れているほか、コロナ禍に伴う経済活動の縮小により主に事業系ごみの排出量が減少したことが、総排出量の減少に寄与していると考えられます。

コロナ禍の収束による事業活動の回復に伴い、ごみの総排出量が再び増加する懸念があることから、取組を強化継続する必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「エネルギーの有効利用や廃棄物の発生抑制など、環境への負荷を軽減する取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

自然の保護と活用

（成果）

近郊自然歩道や登山道の情報を提供するとともに適切な管理を行い、市民が自然に親しむ場所を提供することができました。

玉山地域における新しい近郊自然歩道設置に向けて地元住民との話し合いを行い、コース概要を決定しました。令和3年度に案内板や方向指示板等の整備を行う予定です。

（問題点）

自然歩道コースの一部に崩落によるルートの通行ができないものや、JR東日本の大志田駅及び浅岸駅が廃止したことによる起点・終点までの交通手段がないものがあり、コース・ルートの見直しや維持、管理について検討をする必要があります。

（今後の方向性）

森林や河川などのかけがえのない自然や多様な生物が生息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの市民が自然を感じられる環境づくりを進めます。

環境を大切にする心の育成

（成果）

エコライフ推進イベントを従来のイベント方法ではなく、動画を作成しユーチューブで配信する方法をとり、前年度6,500人（来場者）に対して8,529回（動画再生回数）となり、31.2%増加しました。

（問題点）

地球環境にやさしい生活を常に心がけている市民の割合が目標値に達しておらず、更なる環境啓発に努める必要があります。

（今後の方向性）

市民や事業者に環境保全に向けた取り組みやすい情報を分かりやすく提供するとともに、環境学習講座の開催や環境啓発の周知を行い、環境を大切にする市民・事業者を育成します。

資源循環型社会の形成

（成果）

家庭ごみ（資源を除く。）については、減量を目的とする各種事業の実施により、分別排出及び資源化に対する市民意識は高まっており、ごみ総排出量は着実に減少してきました。

事業系ごみについては、令和2年度から搬入規制を開始したことと、新型コロナウイルスの影響による企業活動の縮小が相まって、ごみ総排出量は前年度（令和元年度）と比べて大きく減少しました。

（問題点）

新型コロナウイルス感染症対策の影響により、令和2年3月以降、家庭ごみの排出量が増加傾向にあるため、引き続き、今後の動向を注視する必要があります。

また、今後企業活動の回復に伴って事業系ごみの排出量の増加が予想され、その動向にも注視が必要です。

（今後の方向性）

家庭ごみの減量化については、ごみ排出データ分析から得られた地区ごとの特徴を踏まえ、資源化・減量化に関する効果的な周知啓発を行うとともに、令和3年度から導入する「資源・ごみ分別アプリ」を通じ、より効果的な周知を図ります。

事業系ごみの減量化については、搬入規制の実施及び廃棄物の適正排出について、引き続き、事業者へ十分な周知を行い、資源化の推進及びごみ排出量の一層の削減を目指します。

地球温暖化対策の推進

（成果）

住宅用太陽光発電システム等への補助により、91件の太陽光発電システムが設置されました。

（問題点）

住宅用太陽光発電システム等への補助事業の財源である、地球温暖化対策実行計画推進基金の残高が減少しており、事業実施財源の確保及び事業の優先度の検討が必要です。

（今後の方向性）

温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及促進を図るとともに、市民の省エネ行動の周知啓発などを進めます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

地球温暖化対策、自然環境保全については、環境基本計画等を改定し、多様な講座を開催するなど施策の推進に努めているところですが、今後も脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギー利用拡大や市民の省エネ行動の実践啓発などを効果的に進める必要があります。

循環型社会の形成に係るごみの排出状況については、事業系ごみが減少する一方で家庭系ごみが増加しているなど、新型コロナウイルス感染症対策の影響が大きいと受け止めており、今後のトレンド予測が難しい状況ですが、そのような中でも、市民・事業者が資源化・減量化に取り組むことができるよう、効果的な施策の展開に努めるとともに、様々な機会を捉えて周知・啓発を重ねていく必要があります。

基本目標 4 人が集い活力を生むまちづくり

施策21 農林業の振興

生産地であり、かつ、消費地である地域特性をいかし、都市部との交流を図りながら、地産地消をベースとした付加価値の増大につながる農林業を推進するとともに、山林農地の有する国土保全・水源かん養などの多面的機能を維持・発揮するため、農林業者の経営力の向上や後継者の育成などの支援に取り組めます。

■ 主要事業の実績

安全安心な農畜産物の安定供給に向けて、農業者の生産意欲と生産性の向上を図るため、有害鳥獣被害対策や農業用施設機械の導入などを支援したほか、「盛岡市農業まつり」などのイベントを通じ、盛岡産農畜産物の魅力を発信しながら消費拡大に努めました。

「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に基づき、「美食王国もりおか」ウェブサイトを通じた情報発信をはじめ、コロナ禍の状況に配慮しながら食と農の基盤強化、魅力発信、流通体制の強化及び異業種連携の促進に係る事業を複数展開し、盛岡産農畜産物の認知度向上を図るとともに、盛岡の食や農への興味、関心を高める機会を創出しました。

地域で作成した「地域農業マスタープラン」について、住民間での共有を深めながら、関係機関との連携強化のために設置された「人・農地問題解決加速化推進チーム」により、担い手への農地の利用集積、集約化の支援を行いました。

また、「農業次世代人材投資事業」や「親元就農給付金事業」などの取組により、新規就農者及び担い手の確保・育成に努めました。

農業用水路など農業施設の維持管理のほか、農村地域の生活環境保全に向けて地域一体となる取組を推進しました。また、国の中山間地域等直接支払事業を活用し、耕作放棄の防止と農地の多面的機能の維持確保に努めました。

健全な森林の育成を促進するために、市産材の利用拡大と地域林業の支援に取り組みしました。

アカマツを枯死させる松くい虫被害の拡大抑止のため、県や近隣市町等と連携し、監視体制の強化や被害木の早期駆除に努めました。

森林の経営管理の集積・集約化による林業の活性化を図るため、森林環境譲与税を活用し、市内民有林において、航空レーザ計測による森林資源の現況調査を実施しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
99		水田農業構造改革事業	一般		14	14	0	米の計画的生産と水田を有効に活用した麦、大豆等の生産の定着と拡大に係る助成
100		いわて地域農業マスタープラン実践支援事業	一般		6	5	0	農業者が組織する団体等に対する農業機械導入・施設整備等に係る経費の補助
101		盛岡りんご担い手バックアップ事業	一般		1	1	0	早期多収及び省力化を図ることができるりんごの「わい化栽培」のための苗木、支柱などの購入経費補助及びりんごの剪定作業の担い手の確保するため、新規剪定作業員の作業従事代を補助
102		食と農の連携推進事業	一般		28	28	0	6次産業化等による商品開発支援などを新型コロナウイルス感染症の状況に応じながら展開 商談会の開催などによる市内生産者と飲食店等の商談機会の創出や、「盛岡の美味いもんアンバサダー」認定店に対する支援として、応援冊子制作及びスタンプラリー企画を実施
103		畜産振興事業	一般		12	14	0	安定的、効率的な畜産、酪農経営を実現するため、各種補助事業を実施
104		有害鳥獣対策事業	一般		5	5	0	市鳥獣被害防止計画に掲げる有害鳥獣の捕獲及び被害防除の実施
105		木材需要拡大推進事業	一般	(★)	5	2	0	市産材を利用した住宅の新築や店舗等の改装等への補助、町内会が行う公共的な施設整備への市産材提供、木製ベンチのデザイン開発
106		農地中間管理事業	一般		17	11	0	農地中間管理事業受託事務、農地所有者及び地域に対する機構集積協力金の交付
107		中山間地域等直接支払事業	一般		68	59	0	農業生産条件不利地域である中山間地域において、将来に向けて農業生産活動を継続するため、国及び地方自治体（岩手県、盛岡市）で支援するもの
108		環境保全型農業直接支払交付金事業	一般		12	9	0	農地・農業用水等の資源や環境の良好な保存に有用な、生物多様性の保全に効果の高い営農活動や有機農業に取り組む団体への補助
109		多面的機能支払交付金事業	一般		251	227	0	多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動を支援し、地域資源の保全管理を推進した
110	1	農業基盤整備事業（農政課）	一般	(★)	41	49	0	老朽化した水路等の農業用施設の復旧や維持補修に係る費用に対し助成 農道整備事業や土地改良事業に係る各種事業への助成
110	2	農業基盤整備事業（産業振興課）	一般		5	5	0	老朽化した水路等の農業用施設の復旧や維持補修に係る費用に対し助成 農道整備事業や土地改良事業に係る各種事業への助成
111		森林適正管理推進事業	一般	★	11	9	0	再造林及び除間伐等の作業、林内作業道の開設・改良等に要する経費に対して助成
112		森林経営管理事業	一般		58	56	0	森林施業の集約化に向け、リモートセンシングによる森林資源の現況調査を実施
113		市有林造成事業	一般	★	48	46	0	基本財産の造成と公益的機能の充実のために、市が管理する森林において、保育・間伐・作業道改良などを実施
114		地籍調査事業	一般		40	40	22	根田茂地区の境界の立会及び測量並びに31年度に調査した根田茂・砂子沢地区の測量成果の閲覧及び地籍図の作成
施策の計（一般会計 16事業）					622	580	22	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
農業総生産額*	↗	百万円	△	11,000 10,000 9,000 8,000 7,000 7,697 8,832 9,412 9,464 9,292 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(8,876) R6目標値(10,025)
林業総生産額*	↗	百万円	☆	1,200 1,000 800 600 400 532 960 833 896 1,031 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(922) R6目標値(966)
新規就農者数	↗	人	◎	200 150 100 50 71 97 111 126 150 161 186 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(121) R6目標値(211)
農用地の利用集積面積	↗	ha	◎	6,000 4,500 3,000 1,500 2,476 2,981 3,044 3,170 3,270 3,465 3,730 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(4,230) R6目標値(4,581)

*最新値は平成30年度の統計値。令和元年度結果は令和4年3月に公表予定です。推計方法の変更や最新の統計結果等により遡及改定しており、過去の公表値と異なっております。

- ・ 農業総生産額／△遅れが生じている

平成30年度の農業総生産額（令和3年4月公表）は、本市で最も産出額が多い養鶏業（鶏卵）において全国的な相場の下落による減少があったものの、米、野菜、果実の増加により、小幅な減少に抑えられました。

米については、平成30年度から生産数量目標が廃止され、国が策定する需給見通し等を踏まえ需要に応じた生産を推進するため、農業再生協議会と連携しながら米政策を推進しています。

また、麦・大豆等の主食用米以外の作物については、産地交付金の交付により、水田の有効活用による収益性の向上及び地域の特性を生かした産地づくりの推進を図っています。

- ・ 林業総生産額／☆目標値に到達

岩手県の推計によると盛岡市の素材生産量は、増加傾向にあり、伴って林業総生産額が増加したものと推されます。

目標値は達成していますが、新型コロナウイルス感染症の影響による外国産木材の不足等、林業や素材生産を取り巻く状況の変化が大きいことから、森林施業の集約化・生産基盤の整備など、今後、より安定的な生産に繋げていくための取組を、林業の川上から川下までが一体となって進めていく必要があります。

- ・ 新規就農者数／◎目標値に向け順調に推移

国の「農業次世代人材投資事業」による支援に加え、平成29年度に市単独の「親元就農給付金事業」を創設したほか、「農業経営改善支援員」による伴走型の相談業務により、平成25～令和2年度までの8か年で115人、令和2年度は25人の新規就農者を確保しました。

農業者の高齢化、担い手不足に対応するため、引き続き新規就農者の育成・確保に努めるとともに、新規就農者の収入の安定化や農業技術の習得等について、関係機関と連携したきめ細やかな支援を継続する必要があります。

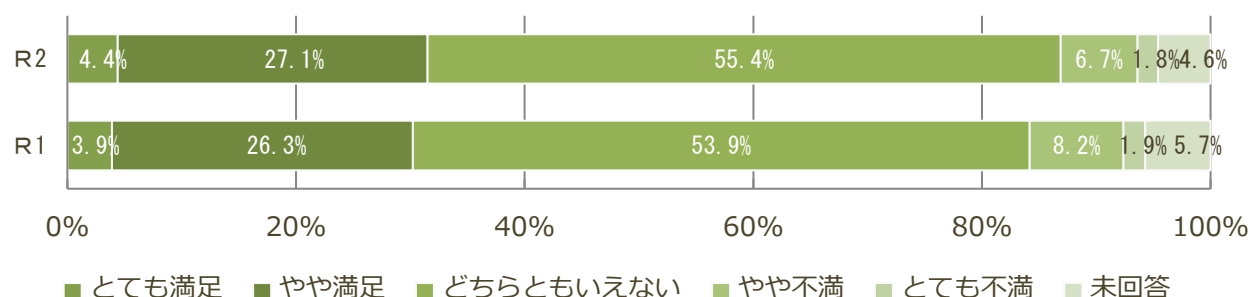
- ・ 農用地の利用集積面積／◎目標値に向け順調に推移

担い手への農地集積は、令和6年度目標値には未達となり、約81%の達成率です。要因は、「貸し手」と「借り手」のマッチングがうまくいっていない部分があること、特に中山間地域においては、耕作条件が悪いことなどから集積が進みにくい環境にあることが考えられます。

目標値は達成していませんが、着実に農地利用集積面積が増加していることから、令和元年度・令和2年度にわたり実質化した地域農業マスタープラン（人・農地プラン）を実践し、集積を進めるための各種支援策を具体的に紹介しながら、農地中間管理事業の周知を図る必要があります。

■ 施策に対する市民の実感

「地域特性を生かした、地産地消の取組が進んでいる」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

経営力・生産意欲の向上と後継者の育成

（成果）

魅力発信事業や体験型プログラムの実施により、盛岡産農畜産物の認知度が高まりました。
有害鳥獣捕獲活動の担い手である狩猟免許取得者が増加しました。
産直利用者の増加に伴い、都市と農山村との交流人口が増加しました。

（問題点）

新規就農者の認定農業者への移行など、農業への定着につながる取組を進める必要があります。
盛岡ブランド食材の中には、需要と供給の安定性に欠ける品目があります。
外国産材の流入が滞っている機会を捉え、市産材の一層の利用促進を図る必要があります。

（今後の方向性）

高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、地域における「人と農地の問題」への対応に取り組めます。

農業者の就業機会の創出や6次産業化・地産地消の推進の役割を担う「農産物直売所」を側面から支援します。

盛岡ブランド食材として振興してきた特産食材の今後の方向性を検討するため、各生産組合等の意向を確認しながら取組の方向性を整理します。

新たな鳥獣被害が拡大しており、捕獲者の負担が増加する中で、その軽減に資する取組を実施します。

生産基盤の整備

（成果）

農業用機械・施設の導入を支援し、生産者の意欲喚起と生産性の向上に寄与しました。
中山間地域等直接支払事業及び多面的機能支払事業の実施により、遊休農地の発生を抑制しました。
生産者の中で、GAP※への意識が高まり、環境と調和した農業生産活動への認識が深まりました。

（問題点）

全国的に米の民間在庫量が増加したことから、米価の下落が生じています。
農用地や水路、農道などの農業用施設の保全管理に関する担い手の負担が増加しています。
主伐後の再造林費用の確保が困難なため、利用期を迎えた森林の主伐が進んでいません。

（今後の方向性）

余剰米の増加に伴う米価の下落に対応するため、市において補助制度を設けたほか、消費拡大への支援に努めるとともに、国への働き掛けを行います。

効果的・効率的な生産に資する圃場整備や農道整備を、地域のニーズに応じて推進するほか、老朽化した水路施設等の改修に取り組めます。

農用地の保全のため、地域の協働による持続的な保全活動への支援を推進します。

私有林の間伐作業や再造林に対する支援の拡充を検討します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

「農林業の振興」における重要課題の一つとして、従事者の高齢化と後継者不足に伴う労働力不足が挙げられ、担い手農家や林業経営体、農林業就業者の育成・確保が急務となっています。

このことに対応するため、「農業分野」においては、引き続き、関係機関と連携し、親元就農や新規就農者への継続的な支援や経営の安定化に向けた担い手への農用地の集積化・集約化を推進する必要があるほか、「林業分野」においては、森林資源の循環利用と、森林の有する公益的機能の高度発揮を図るた

※ GAP は、Good Agricultural Practices の頭文字をとった言葉で、直訳すると「よい農業の取組」という意味ですが、一般的には「農業生産工程管理」と呼ばれています。

めに、森林資源の調査結果の活用等により、林業経営体との連携を強化しながら取組を展開するべきと考えられます。

特に、生産性を向上させ、儲かる農林業の実現のため、生産基盤と生産施設の整備を推進するとともに、ICTやロボット技術を活用したいわゆるスマート農林業の導入などにも取り組む必要があります。

今後においても、戦略プロジェクトである「未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト」における集中的な取組と並行し、盛岡産農畜産物の高付加価値化と販路拡大に向けた「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略アクションプラン」の着実な実施や、国外への販路拡大に向けた「盛岡産農畜産物の輸出に向けた基本方針」に基づく取組の推進などを通じて、令和3年3月に策定した「もりおか農業・農村振興ビジョン2030」に掲げる目標達成に向けて、積極的に努めていきます。

施策22 商業・サービス業の振興

商業の活発な事業活動を展開させるため、地域特性をいかしたにぎわいのある商店街の形成や、生産者、消費者、商業者等の連携の促進、多様なサービス業の育成・活性化の支援など、商業・サービス業の振興を図ります。

■ 主要事業の実績

盛岡商工会議所等と連携し、各商店街に対し、盛岡市商店街連合会を通じたイベント開催等への補助を行い、商店街・個店の魅力向上を図りました。

また、中心市街地の商店街の活性化を図るため、「MORIO-Jカード」を活用した地域ポイントカード事業に取り組みました。

事業者への家賃補助や商品券の発行、業界団体が行う感染対策への助成など、新型コロナウイルス対応経済対策事業を実施し、感染拡大により影響を受けた事業者への重層的な支援により、事業継続につなげるとともに、地域経済の循環を図りました。

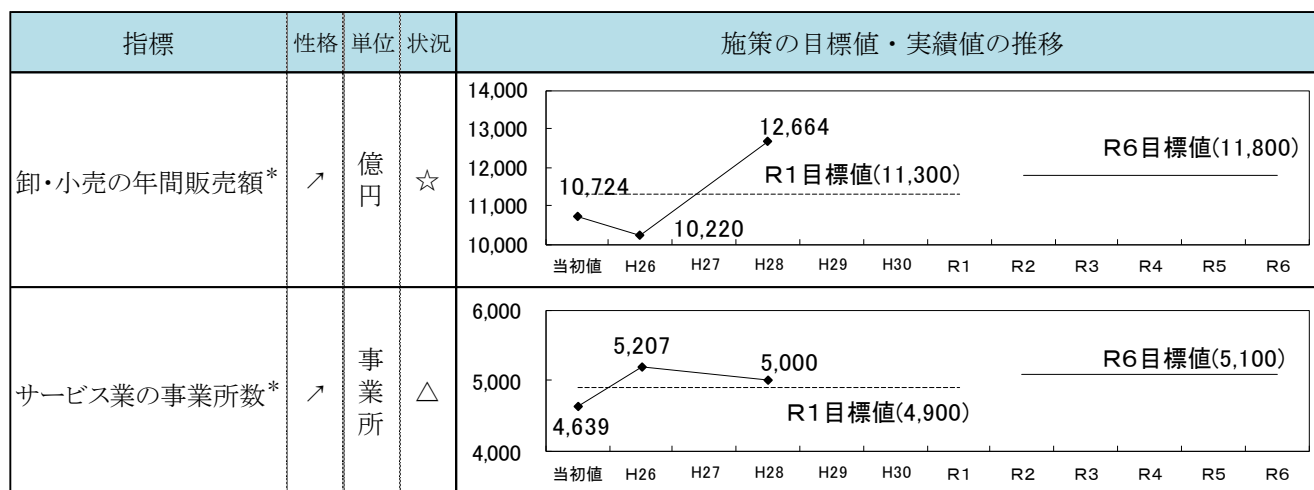
(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
115		商店街活性化支援事業	一般	(★)	6	684	0	商店街のイベントや商店街からの情報発信などの支援、事業者への家賃補助・家賃給付
116		商工団体育成事業	一般		40	81	0	商工団体に対する事業費補助、新型コロナウイルス感染症対策経費などの支援
117		商店街等指導事業	一般		1	1	0	商店街や業界団体等に対する経営指導、商店街の組織強化に対する支援
118		中央卸売市場活性化事業	卸売市場		1	1	0	市場活性化ビジョンの推進（活性化アクションプランへの助言指導業務委託、卸売市場開放デー開催など）
施策の計（一般会計 3事業）					46	764	0	
施策の計（一般会計以外 1事業）					1	1	0	

・ 商店街活性化支援事業

新型コロナウイルス対応経済対策（地域企業家賃補助事業・地域企業者家賃等給付事業）を実施したことで実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



* 経済センサスにより数年に一度調査している項目であるため、調査がない年度の数値は掲載していません。

・ 卸・小売の年間販売額／☆目標値に到達

卸・小売の年間販売額は平成28年度実績では、令和元年度及び6年度の目標値を上回っており、岩手県内の経済情勢において緩やかな回復の動きが継続していたことから、当市においても同様の傾向にあるものと考えられます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が長期化しており、外出を控える動きにより、中心市街地の歩行者・自転車通行量が令和元年度と比較し6.8%減少するなど、小売業の事業活動に大きな影響を及ぼしていることから、今後も厳しい状況におかれることが懸念されます。

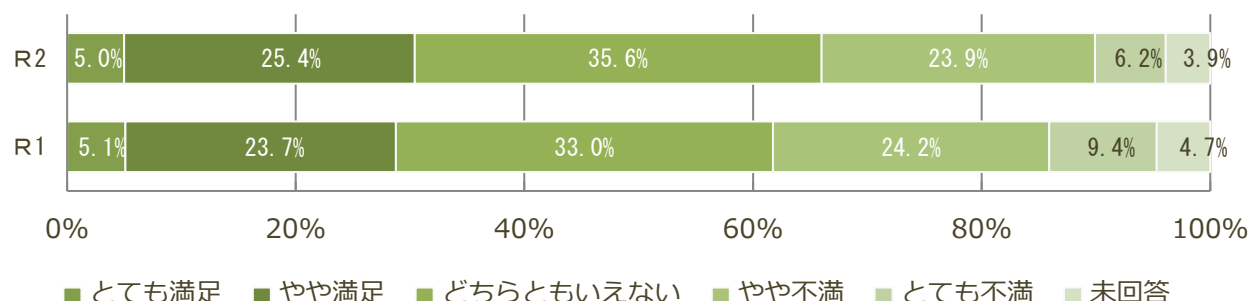
・ サービス業の事業所数／△遅れが生じている

サービス業の事業所数は、最新値の平成28年度実績では、令和元年度の目標値を上回っています。平成26年度との比較では減少していますが、当初値に比べるとサービス業全般に上昇しています。特に医療、福祉部門の事業所数の増加が顕著であり、高齢者の増加による社会的ニーズの高まりが要因と考えられます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が長期化しており、宿泊・飲食サービスの新規求人数は昨年度と比較し30.3%減少するなど、事業活動に大きな影響を及ぼしていることから、今後も厳しい状況におかれることが懸念されます。

■ 施策に対する市民の実感

「商店街で買い物がしやすい」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

魅力ある商店街の形成支援

(成果)

新型コロナウイルス感染症により外出を控える動きが広まった影響で、中心市街地の年間小売販売額は減少していますが、新型コロナウイルス対応経済対策事業を実施し、事業者の経営継続支援を行ったことにより、空き店舗の数に大きな変化は見られていません。

(問題点)

中心市街地の店舗が、小売業から飲食・サービス業に業態変化していることや、コロナ禍での外出自粛の影響により、日中の通行量が減少する流れに歯止めがかかっていません。

商店街等による感染症対策をしながらのイベント開催や、交通の利便性に繋がる基盤整備事業やソフト事業の実施により一定の効果は見られますが、年間を通した通行量の増加に至っていません。

(今後の方向性)

平成29年度に策定した、「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していくとともに、令和元年度末に運用開始となった「盛岡市立地適正化計画」とも連携しながら、「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」に沿って、関係団体が相互に連携し、社会構造の変化に対応した持続可能な中心市街地の形成に取り組みます。

各種事業を推進していくにあたって、市の補助金、負担金は重要な財源となっていることから、補助制度は必要と考えられますが、市としても各事業の内容について十分な精査を行ったうえで交付額を算定していく必要があります。

商店街の個別の課題やニーズに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえた「新しい生活様式」への対応などについての研修会等の開催を支援し、ウィズコロナ、ポストコロナを見据えた商店街の活性化と魅力強化を図るほか、これまであまり研修会等を開催していない商店街に対して補助の活用を促します。

ロジスティクス機能の充実

(成果)

平成29年度3月に作成した「市場活性化ビジョン2017」により、場内業者と開設者が一体となって活性化に取り組むことにより、市場の役割や魅力の発信を行うことができました。

また、こども食堂への食材の提供を通じ食育の推進を図ることができました。

(問題点)

卸業・運輸・通信事業者数は、基準年と比べて増加傾向にあるものの、卸売市場では青果部、水産物部とも取扱量・取扱高の減少傾向が続いています。新型コロナウイルス感染症等の影響により、特に水産物部において取扱量・取扱高の大幅な減少となっており、生鮮食品の安定供給、効率的な物流に対する市場の役割が相対的に低下しています。

物流業界では、ドライバーの労働環境改善や効率化・集約化等により新たな拠点整備に向けた用地需要が高まっていますが、本市では現在のところ各種規制があり、すぐに対応できる用地がない状況です。

(今後の方向性)

改正市場法の施行に伴う生鮮食料品等の流通構造や流通環境の変化を注視しながら、市場活性化ビジョン2017の迅速な見直しにも順次着手します。

盛岡市公共施設総合管理計画による個別計画に基づき、市場機能の維持及び適正化を図ります。

物流は産業全般を下支えしており、産業振興に不可欠な分野であることから、交通環境の優位性を生かし、盛岡南インターチェンジ周辺に需要に対応する流通業務用地の整備を検討します。

多様なサービス業の振興

(成果)

新型コロナウイルスの感染拡大により影響を受けた事業者への新型コロナウイルス対応経済対策事業の重層的な支援により、経営への影響の軽減を図ることができました。

また、サービス業の新規求人数が前年より減少していますが、全業種の減少割合と比較しても大きな差は見られませんでした。

（現状の成果，問題点）

補助金の活用が個店の魅力向上や売上増など直接の成果につながるよう取り組む必要があります。

（今後の方向性）

盛岡商工会議所等が各種事業を推進するに当たり、市の財政的支援は重要であり、継続的に支援を行い事業成果の向上を図ります。

平成29年度に策定した「盛岡市商業振興ビジョン」に基づき、商業振興施策を体系的、計画的に推進していきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

県内の経済情勢は、緩やかな回復の動きが継続されてきた状況にあったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大の長期化により、商業・サービス業分野は大きな影響を受け、特に、飲食業や宿泊業を中心に厳しい状況が続いています。

また、中央卸売市場における生鮮食料品の流通についても、青果部、水産部とも取扱量・取扱高の大幅な減少となっており、新型コロナウイルス感染症の影響は、広範囲に及んでいます。

今後においても、新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれ、回復には一定程度の期間を要することから、コロナ禍の中で、経済活動を維持継続できるようこれまでの施策に加え、経済回復に向けた支援策を適宜講じていく必要があります。

施策23 工業の振興

製造業等の活発な事業活動を展開させるため、大学や公設試験研究機関などとの連携を進めるとともに、企業の新技術や商品開発、海外展開を支援するほか、新事業創出や起業の支援、産業集積基盤の整備、ものづくり人材の育成など、工業の振興を図ります。

■ 主要事業の実績

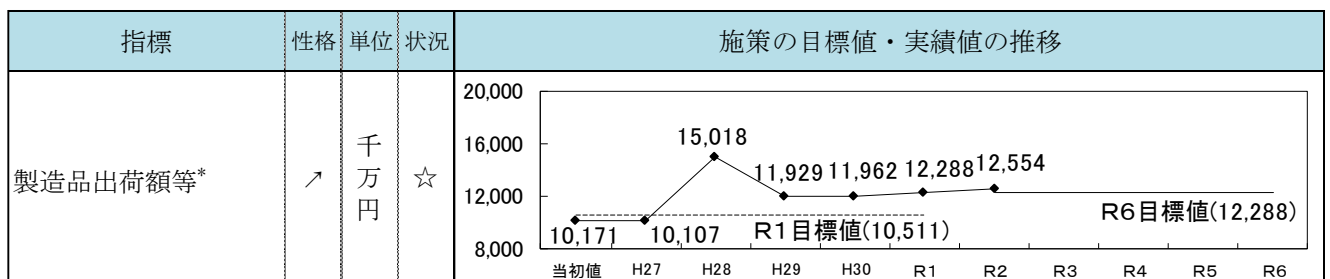
令和2年度は、3社が、産学共同研究事業補助金を活用し大学等と共同研究を実施しました。

周辺市町と連携して実施した「起業家塾@もりおか」の卒塾生による3件の新規創業がありました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
119		工業振興事業	一般		10	24	0	製造業者や事業者に対する助成制度の運用、企業サポート専門員の企業訪問による企業経営課題への助言・指導支援など
120		新産業等用地整備事業	新産業等用地		963	954	0	道明地区新産業等用地（第一事業区）の整備
121		地場・伝統産業振興事業	一般	(★)	12	62	0	盛岡市味と工芸展、いわての物産展等の開催支援などを通じた地場産業・特産品の支援
122		産業支援事業	一般		1	1	0	経営相談窓口の設置及び専門家派遣、新分野進出企業の支援
123		成長分野拠点形成支援事業	一般		33	24	3	海外展開を目指す新事業に対する助成、ヘルスケア産業協議会の活動や企業集積の誘引力となるクラスター形成への支援
124		産学官連携研究センター管理運営事業	一般		19	18	0	産学官連携研究センターの管理運営
125		新事業創出支援センター管理運営事業	一般		8	8	0	新事業創出支援センターの管理運営
126		産業支援センター管理運営事業	一般		17	17	0	産業支援センターの管理運営
施策の計（一般会計 7事業）					99	154	3	
施策の計（一般会計以外 1事業）					963	954	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



* 計画策定時は、速報値を当初値に用いて目標値を設定していましたが、確定値が目標値を超えたため、平成28年度に目標値を変更しています。

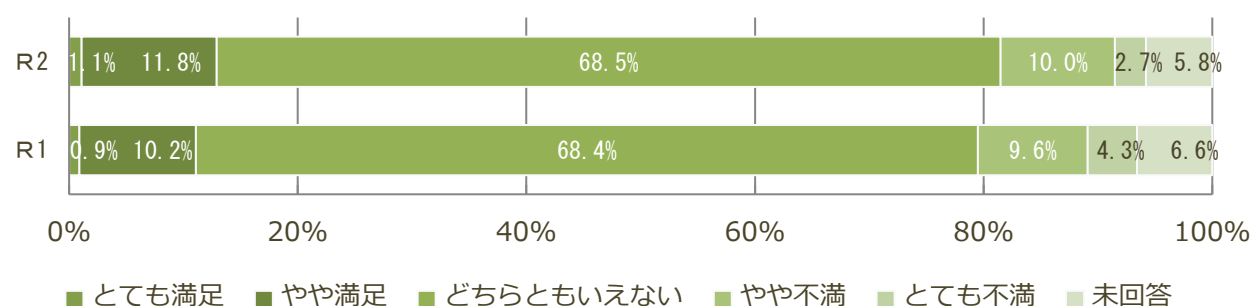
・ 製造品出荷額等／☆目標値に到達

製造品出荷額等の実績値が平成28年度は増加し、平成29年度は減少していますが、これは個別企業の特例事例によるものと想定され、全体的には企業の設備投資に対する補助事業も活用されていることから、市のリーディング産業である金属製品製造業などの業績が好調であることが指標に表れたものと認められます。その後は順調に増加傾向が続いています。

新技術の製品化・事業化の支援など、企業に寄り添った支援が必要なことから、企業サポート専門員や共同研究員を中心に、事業者ごとの課題等の把握に努め、情報提供や助言・指導を行います。

■ 施策に対する市民の実感

「大学や公的研究機関などとの連携や、新事業創出や起業の支援など、工業の振興への取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

地場企業の経営力の強化

（成果）

企業サポート専門員を配置し、企業訪問を引き続き実施する体制をとり、当初は年間100件を目標にしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から訪問が出来ない期間が発生したため目標を年間85件に設定し、結果的に91件の企業訪問を行うことが出来ました。

国内外を対象とした販路開拓支援事業では、国内の出展が1件ありました。

（問題点）

経営改善等研修会について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため研修会自体の自粛もあり開催数が減少しています。

（今後の方向性）

企業訪問により事業者の意向を把握し、事業者の共通する課題の解決が図られるような研修会を実施します。

企業訪問を通じて、事業者の意向や個別課題等の把握に努め、情報提供や助言・指導を行います。また、より計画的・効率的な企業訪問ができるよう努めます。

販路開拓支援事業については、オンライン展示会を対象に加え経営基盤の強化を目指します。

道明地区新産業等用地への企業誘致に一層取り組み、雇用の場の確保と市民所得の向上を目指します。

産学官金連携と新事業育成の支援

（成果）

岩手大学との連携により、新技術や新製品を開発しようとする企業等を支援する施設の管理運営を指定管理者制度により実施し、地域課題の把握と産学連携を活用した解決の支援を行いました。

（問題点）

令和2年度は、計画していた企業数である2社より多い3社が、補助事業を活用し大学等と共同研究を実施しましたが、製品化には更に研究が必要な状況にあります。

産＋学＋官＋金＋民による新事業育成の支援体制が有効に機能するように取り組む必要があります。

（今後の方向性）

補助事業等の周知を実施します。

インキュベーションマネージャー等と情報交換を実施し、インキュベーション施設の活用と有効な支援策について研究します。

高等教育機関、産業従事者等と連携し、人材の育成にかかる支援策について検討します。

新技術の製品化・事業化につなげるため、産学官金の関係者と緊密に情報交換を行い、地方創生推進交付金の活用も検討しながら、実効性のある支援策について研究します。

上記研究、検討を進め、社会経済情勢や事業内容に即した支援を実施します。

企業集積と生産基盤の拡充促進

（成果）

令和2年度は、新たに固定資産を投下した1社を含む市内企業23社に対して、65件、79,206,474円の固定資産税相当額の補助を行いました。

盛岡テクノパーク入居企業から事業用地拡張の引合いがあり、令和3年度に最後の一区画が売却予定となっています。

（問題点）

製造業等は新たな企業立地が進んでいません。

（今後の方向性）

道明地区において新たな産業等用地の整備に取り組めます。

道明地区新産業等用地のPRに努め、企業の誘致に取り組めます。

創業・起業の支援

（成果）

周辺市町と連携して実施した「起業家塾@もりおか」の卒塾生による3件の新規創業がありました。

（問題点）

起業家塾を受講した創業者または創業希望者がインキュベーション施設へ入居し、インキュベーションマネージャー等の支援を受けるといった流れの創業が少ない状況にあります。

（今後の方向性）

盛岡商工会議所が主催する「もりおか創業スクール」など、同様の創業者向け施策の周知を実施します。

インキュベーション施設連絡会議の実施により起業家情報を共有します。

インキュベーション施設への入居メリットなどの情報を、起業家塾で周知するとともに、アフターフォローやホームページ等により創業者に周知します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

製造品出荷額は、令和元年度の目標値を上回っているが、引き続き、積極的な企業訪問に努め、地場企業の経営力強化や産学官連携、新事業育成支援、創業・起業支援の取り組みを推進するとともに、道明地区新産業等用地の整備を進め、企業集積と生産基盤の拡充促進を図る必要があります。

また、成長分野である「医療福祉機器分野」、「情報サービス分野」の振興策を明確化し、県との連携による施策や取組の推進を図ることで、本市のヘルステック産業とIT産業の振興に加え、県全体の産業の高付加価値化や県の「北上川バレープロジェクト」の推進にも貢献していく必要があります。

今後においても、新型コロナウイルス感染症の影響が続くと見込まれることから、コロナ禍の中で、

経済活動を維持継続できるよう適宜支援策を講じていくとともに、サプライチェーンの国内回帰や拠点の分散化などの動向も的確に捉えて取り組む必要があります。

施策24 観光の振興

盛岡に多くの人々が訪れるようにするため、地域資源を活用した観光地域づくりと広域的な観光交流の促進に努め、積極的な情報発信により、国内外の旅行者やコンベンションの誘致を推進するとともに、祭り・イベントの充実や特産品などの物産の振興、おもてなしの心の醸成や受入態勢の整備など、観光の振興を図ります。

■ 主要事業の実績

コロナ禍において、移動の制限や自粛が継続する中、観光関連事業者への支援金の給付による経済的負担の軽減や感染防止対策への支援、さらには宿泊需要喚起策としての「盛岡の宿応援割事業」の利用対象を最大東北6県と新潟県まで拡大し、国や県の施策と併用可能として実施するなど、観光基盤の維持や観光客入込数の激減の抑制につなげる取組を行いました。

令和3年4月から6か月間の期間で開催される「東北デスティネーションキャンペーン」を見据え、JR東日本盛岡支社との地方創生の連携に関する協定（盛岡の観光振興と魅力発信）による首都圏等の駅構内での観光ポスターの掲出やデジタルサイネージによる映像放映などの国内プロモーションを実施し、コロナ禍による観光需要の喚起に向けた取組を行いました。

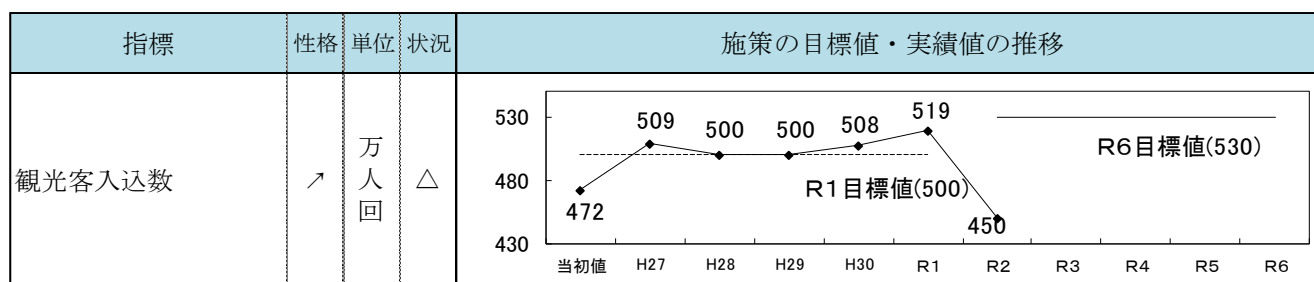
（単位 百万円）

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
127		観光客誘致宣伝事業	一般		24	387	0	国内プロモーション事業などによる総合的な観光PR活動及び盛岡の宿応援割補助による宿泊事業者支援
128		祭り・イベント振興事業	一般		54	16	0	各種まつり・イベント行事への支援や宣伝事業等を実施する。
129		MICE（マイス）誘致推進事業	一般		26	1	0	盛岡広域圏内を主会場として開催する一定規模以上の会議やコンベンションなどに対する補助
130		広域観光推進事業	一般		21	13	0	関係団体（岩手県観光協会、八幡平国立公園協会、盛岡駅観光案内所など）への支援・補助
131		道の駅設置事業	一般	★	74	66	3	基本設計の作成、開業準備等に係る業務委託、特産品開発
施策の計（一般会計 5事業）					199	482	3	

・ 観光客誘致宣伝事業

新型コロナウイルス感染症蔓延の影響に伴うイベント中止等により、市の負担金が減額となりました。一方、観光支援に係る経済対策として、盛岡の宿応援割事業及び国内観光プロモーション事業の実施により全体として実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



・ 観光客入込数／△遅れが生じている

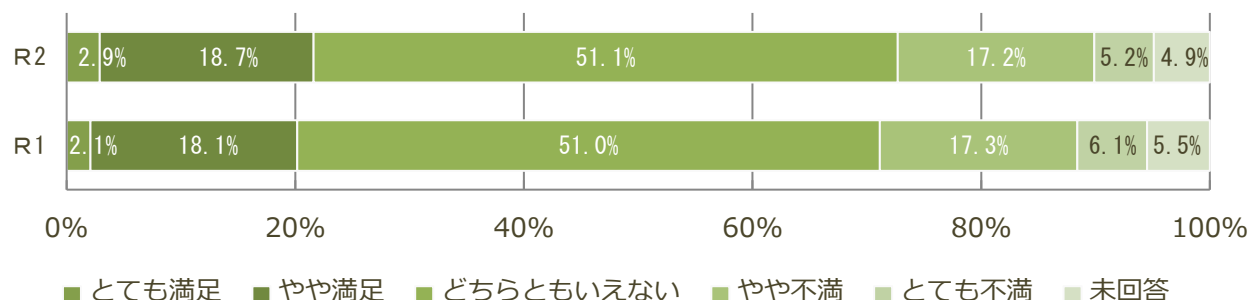
国内外における新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、3月頃から観光客の入込数に影響が見え始め、全国一斉の緊急事態宣言の発令など、移動の制限と自粛の意識の高まりにより、前年比で観光客入込数は86.7%、宿泊客数は61.2%となりました。

緊急事態宣言の解除後、国の観光需要喚起策である「Go To トラベルキャンペーン」や宿泊需要喚起策として実施した「盛岡の宿応援割事業」により、前年の水準は下回るも徐々に回復基調も見られたが、感染拡大の波による首都圏等における緊急事態制限の再発令やまん延防止等重点措置の適用等により、移動の制限と自粛意識が継続し、観光需要の回復には至りませんでした。

コロナ禍により祭り・イベントや首都圏でのプロモーションについても、中止を余儀なくされ、観光客の入込につながる取組が実施できませんでした。

■ 施策に対する市民の実感

「観光地としての魅力が溢れている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

観光情報の発信と観光客誘致の推進

（成果）

コロナ禍において、移動の制限や自粛が継続する中、域内観光需要の喚起策等を実施し、観光客入込数の激減の抑制につなげる取組を行いました。

（問題点）

コロナ禍が継続しており、収束の時期が見通せないことから、移動の自粛や制限により、インバウンドのほか、国内においても依然として観光需要の回復が見込まれない状況です。

（今後の方向性）

コロナ禍により観光需要の低迷は継続しており、移動の制限や自粛が継続する中でも、宿泊需要の喚起策となる宿泊割引事業のほか、まちなか観光の推進に向けた伝統芸能を含めた地域の観光資源を生かした取組を展開し、域内における観光需要の喚起策を継続して実施する必要があります。

ポストコロナに対応する新しい観光の在り方に適応する施策の展開とコロナの収束に備えた国内外における効果的なプロモーションを展開します。

観光地域づくりと滞在型観光の推進

（成果）

コロナ禍において、盛岡でのコンベンション開催に対して、12件（参加者数 1,519人）の支援や盛岡市内を主会場とする一定規模以上の全国大会に対して、2件の開催費用一部助成を行いました。

（問題点）

コロナ禍の長期化により、大人数が参集する従前どおりのMICE開催の需要は近年中には回復しない可能性もあります。

（今後の方向性）

コロナ禍によって新たに生じたMICEの開催形態への対応、今後の誘致活動の手法など、ポストコロナに対応した施策を検討し、実践していく必要があります。

ポストコロナにおける新しい観光の在り方に対応した地域資源の活用によるまちなか観光の充実に向けた取組や広域連携による周遊型のモデルルートの検討とともに、コロナの収束後を見据えた効果的な誘致宣伝の取組を推進します。

国際観光の推進

（成果）

コロナの影響が出始める2月までの外国人観光客宿泊者数は、令和元年を上回る状況でした（R1：7,988人回、R2：8,780人回、約10%増）。

（問題点）

コロナ禍により海外渡航の制限が継続しており、インバウンド需要が激減し、回復の時期が見通せない状況です。

（今後の方向性）

インバウンド需要の回復時期は、国内における観光需要の回復後となることが見込まれ、現地でのプロモーションなど積極的な誘客活動ができない状況の中で、需要の回復期に備えた受入環境の整備とコロナ禍における有効なプロモーションを検討し、展開していく必要があります。

コロナ収束後のインバウンド需要の回復に向けて、多言語表記による観光案内板の整備や広域連携による効果的な海外プロモーションを検討し、展開します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

国内外における新型コロナウイルス感染症のまん延により、観光需要が激減する状況と収束の時期が見通せない中で、宿泊事業者等への支援金の給付による市内の観光基盤を支える支援策のほか、移動の制限や自粛意識が継続する状況において、域内における観光需要を喚起し、宿泊事業者を支援する盛岡の宿応援割事業を7月から3月まで継続的に実施し、11月からは県が実施する宿泊割引事業との相乗効果を図るため、対象を東北6県と新潟県民に拡大した宿泊需要の喚起策により、観光客入込数の確保と回復につなげる取組を実施しました。

依然として感染収束の時期が見通せない状況ですが、目標指標の達成に向けたインバウンドを含めた観光需要の回復期への取組として、コロナ禍における経験や知見のほか、地域の事業者等との意見交換などにより、新しい観光の在り方や地域の特性を生かしたポストコロナに対応する効果的な施策を検討し、計画的に実践する必要があります。

施策25 雇用の創出

若い世代を中心とした市民の多様な働く場を確保するため、商工団体等との連携を図るとともに、積極的な企業誘致を展開するほか、創業支援などにより、多様な雇用の創出を図ります。

また、勤労者が安心して働くことができるように、労働環境の向上を促進します。

■ 主要事業の実績

岩手県中小企業団体中央会ほか6つの商工関係団体に対し、岩手労働局、岩手県と合同で要請活動を行い、雇用の拡大を図りました。

若年者の地元定着を図るため、ハローワークや県等との連携による就職面談会を実施したほか、就職を希望する高校生を主な対象として地元企業の協力によるインターンシップを実施しました。

地元企業を対象に、採用力向上に向けた新しい採用手法に関するセミナーや、自社の魅力を伝えるプレゼンテーションの方法、採用につながるインターンシッププログラムの構築に関する研修会を実施しました。

オンラインを活用した就職面談会を開催しました。

企業誘致については、新型コロナウイルス感染症拡大で、誘致活動が満足に行えなかったほか、例年開催している首都圏でのセミナーも中止または動画配信にとどまったが、コロナの感染拡大以前から誘致を働きかけていた企業1社が立地しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
132		盛岡広域企業誘致推進事業	一般	(★)	1	1	0	情報関連・研究開発・食料品製造系企業などの誘致
133		雇用対策推進事業	一般		11	91	2	もりおか就職面談会の開催、正規雇用拡大に向けた取組。コロナ禍における雇用の維持に向けた取組。
134		勤労者対策事業	一般		75	130	0	勤労者団体への補助、勤労者向け融資制度の預託
施策の計（一般会計 3事業）					87	222	2	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
盛岡公共職業安定所管内の有効求人倍率	→	倍	◎	当初値 0.94 H27 1.13 H28 1.19 H29 1.29 H30 1.38 R1 1.29 R2 0.96 R3 R4 R5 R6 R1目標値(1.00) R6目標値(1.00)
盛岡公共職業安定所管内の就職率*	↗	%	△	当初値 37.4 H27 37.6 H28 38.1 H29 39.1 H30 38.3 R1 38.5 R2 33.2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(40.0) R6目標値(42.5)

* 就職率＝就職件数÷新規求職申込件数

・ 盛岡公共職業安定所管内の有効求人倍率／◎目標値に向け順調に推移

新型コロナウイルス感染症の影響により雇用吸収力の大きい宿泊業・飲食サービス業の求人が令和元年度と比較して約30%落ち込みました。

今後ワクチン接種が順調に進めば、社会・経済活動ともに回復することが見込まれ、併せて求人倍率も回復していくものと考えられます。

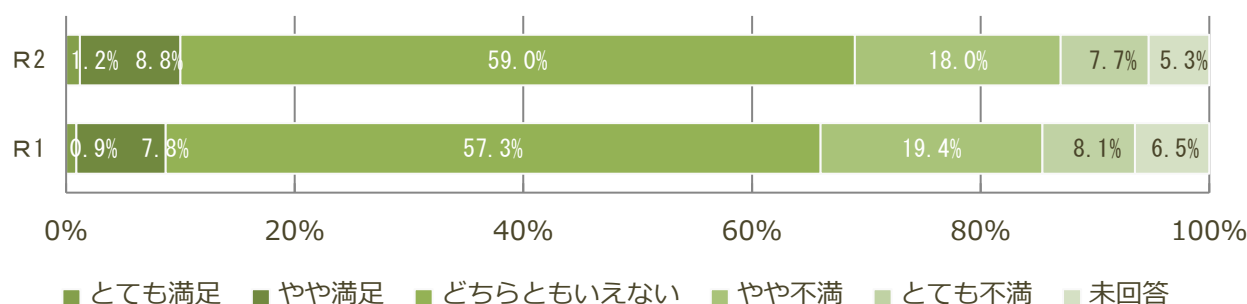
・ 盛岡公共職業安定所管内の就職率／△遅れが生じている

企業求人数の減少のほか、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部で就職活動を控える動きがあったため、新規求職申込件数が令和元年度と比較して約7.9%減となったことから、就職率も減少しました。

今後は感染症対策も行われていることから、求職活動を行う人の増加が見込まれるほか、ワクチン接種の進展により更なる求職者活動の活発化が見込まれます。

■ 施策に対する市民の実感

「企業の誘致や雇用対策の取組が行われている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

企業の誘致

(成果)

誘致に至った企業が1社ありました。

事業拠点分散化動向調査により、本市への立地意向について把握ができました。

首都圏等の企業を対象としたマッチングイベントに参加し、本市へのサテライトオフィス立地のメリットをPRするとともに、企業の動向把握を行いました。

(問題点)

立地を希望する企業の条件に合致する空きオフィスや土地が少ない状況です。

(今後の方向性)

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら首都圏等の企業に対し、訪問等による情報収集を行うとともに、補助制度や盛岡市の優位点などの情報提供を行うほか、県や広域市町と連携し、企業立地セミナーを開催するなど、盛岡地域への立地のメリット等の発信を継続的に行います。

また、道明地区新産業等用地の整備を進めるほか、産学官金の関係者との連携により、ヘルステック分野や製造業の誘致に努めます。

雇用対策の推進

(成果)

盛岡公共職業安定所管内の新規高等学校卒業者と県内の大学卒業者の就職内定率はそれぞれ98.9%（前年比▲0.3ポイント）、96.0%（前年比▲1.8ポイント）となっており、新卒採用についてはほぼ前年並みの高い水準が維持されています。

(現状の成果、問題点)

新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の一般求人が減少し、求人倍率が1.0を下回り目標

値を下回っています。

（今後の方向性）

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が進展していることから、今後、社会・経済情勢の好転とともに、求人倍率は回復するものと見込まれます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、若者の地元志向の高まりが見られることから、インターンシップ事業やジョブカフェ等と連携した支援を行い、若者の地元定着に向けた取組を行います。

勤労者福祉の充実

（成果）

勤労者福祉については、勤労者福祉サービスセンターの会員数が、平成26年度から7年連続して年度末会員数4,000人を下回っており、目標数に届いていないものの、令和2年度末の会員数は3,927人と前年度末と比較して84人増加しており、会員数の減少に一定の歯止めがかかっています。

勤労者融資については、自動車購入融資は令和元年度に引き続き多く利用されているほか、そのほかの融資も令和元年度と同程度利用されており、勤労者の生活支援につながっています。

（問題点）

勤労者福祉サービスセンターの会員数が目標数に達していません。

（今後の方向性）

勤労者福祉サービスセンターについては、会員の増加を図るため積極的な加入促進活動を実施します。

勤労者融資については、利用は好調であることから、引き続き勤労者のニーズにこたえていきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の影響により、盛岡公共職業安定所管内の有効求人倍率は、宿泊業・飲食サービス業を中心に落ち込みが顕著です。

また、コロナ禍により若者の地元志向の傾向はあるものの、企業では、必要な人員を確保できない状況が見られるほか、依然として若者の首都圏への流出が続いており、企業の認知度向上と若者の地元定着につながる取組を推進する必要があります。

また、企業誘致については、産学官連携関係者や金融機関、友好都市である東京都文京区など、多様なネットワークを最大限に活用するとともに、県及び広域市町と連携した取組を推進するほか、「事業拠点分散化等動向調査」等の成果を踏まえた誘致活動を一層推進する必要があります。

今後においても、新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれることから、コロナ禍の中で、経済活動を維持継続できるよう適宜支援策を講じていくとともに、サプライチェーンの国内回帰や拠点の分散化などの動向も的確に捉えて取り組む必要があります。

施策26 都市基盤施設の維持・強化

快適な市民生活と活発な産業活動を支えるため、道路や橋りょう、公園、上下水道施設などの都市基盤施設の適切な維持管理と機能強化を図ります。

■ 主要事業の実績

良好な住宅地の誘導については、建築物等の確認申請・完了検査や旧耐震木造住宅の耐震診断・耐震改修等により、建築物の適正化を図りました。

安全快適な道路環境の向上については、市道改良率向上、除雪指定路線延長、橋梁修繕工事促進等により、道路利用者の安全で快適な通行を確保しました。

都市公園の整備と利用促進については、公園等の整備により公園面積の増加を図りました。一方、コロナ禍においてイベント等の中止・延期により利用促進を図ることが出来ませんでした。

都市緑化の推進については、花苗配布や市民・事業者・行政の協働によるハンギングバスケット設置などにより、私的空間の緑化を図りました。

安定給水の確保については、耐震管の採用や計画的な経年管更新事業により耐震化率が向上し、安全でおいしい水を安定供給しました。

汚水処理の充実については、污水管整備や浄化槽補助金により汚水処理人口普及率が向上し、衛生的な水環境を確保しました。

雨水浸水対策の推進については、雨水排水施設整備により下水道雨水施設整備率が向上し、浸水被害の解消と都市機能を確保しました。

既成市街地の再整備については、土地区画整理事業及び生活環境整備事業の実施により生活環境整備率が向上し、定住人口の増加が図られました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
135		建築指導事務	一般		11	10	0	建築指導・確認審査、中間検査、完了検査に係る事務など
136		耐震診断・改修促進事業	一般		2	1	0	木造住宅の耐震診断及び耐震改修に対する補助
137		道路橋りょう維持管理事業	一般		766	909	185	盛岡市道舗装補修、点検や道路照明灯電気料 好摩駅東西自由通路・トイレ及び街路灯の維持管理など
138		橋りょう維持補修事業	一般		314	349	232	舟場橋、松木平橋、文化橋の橋梁修繕工事及び葉の木沢跨線橋外2橋の橋梁定期点検負担金など
139	1	道路除排雪事業（除排雪委託ほか）	一般		654	1,564	0	市道等の除排雪
139	2	道路除排雪事業（除雪車両等購入費）	一般		24	23	0	小型除雪機の購入
140		身近な暮らしを支える道路事業	一般	(★)	1,723	1,871	851	二子沢線、岩山2号線、市道岩手公園開運橋線（菜園工区）等の路線整備 過年度に市道認定した路線の道路環境改善及び浸水対策として、舗装新設工事
141		都市公園整備事業	一般		393	469	213	中央公園・高松公園・太田地区街区公園の整備など
142		盛岡市動物公園整備事業	一般		222	822	600	動物公園指定管理料、動物公園再生事業債務負担行為の設定、全体協定締結、施設整備に係る実施協定締結

143	お城を中心としたまちづくり事業	一般		71	62	54	石垣変位調査、遺構等測量図化、三ノ丸北西部足場設置業務、三ノ丸北西部発掘調査、整備委員会、お城を中心としたまちづくり懇話会
144	公園等維持管理事業	一般		194	198	10	公園施設の修繕、街路樹の維持管理、長寿命化計画策定調査など
145	花と緑のまちづくり事業	一般	★	18	13	0	ハンギングバスケット設置補助、地域緑化支援など
146	上水道安全対策事業	水道		504	391	100	配水幹線の整備、重要給水施設配水管の整備
147	配水管整備事業	水道		1,495	1,513	611	配水能力増強事業、経年管対策事業、未給水地域解消事業、配水調整ブロック整備事業などによる配水管整備
148	水道水源水質保全促進事業	水道		4	4	0	水源涵養林植栽地下刈り、間伐など
149	浄配水場施設整備事業	水道		987	816	139	浄水場（米内、沢田、新庄、生出など）の設備更新、工事、経年導送水管の整備など
150	鉛製給水管解消事業	水道		3	5	0	給水装置に鉛製給水管を使用している者が行う布設替え工事に対する補助
151	公共下水道汚水施設整備事業	下水		1,162	1,172	310	汚水管渠の整備など
152	流域下水道建設負担金事業	下水		183	200	0	北上川上流流域下水道都南処理区の整備（流域幹線及び処理場施設整備への負担金）
153	公共下水道改築更新事業	下水		31	452	357	資材単価調査、計画書作成業務委託、管更生工事
154	浄化槽整備事業	一般	★	24	19	0	浄化槽設置整備に対する補助
155	公共下水道雨水施設整備事業	下水		447	782	494	雨水管渠の整備など
156	太田地区整備事業	一般		1,887	2,400	1,041	建物等移転補償、道路築造、宅地造成など
157	都南中央地区整備事業	一般		1,067	1,653	913	建物等移転補償、道路築造、宅地造成など
158	道明・下飯岡地区整備事業	一般		836	640	321	建物等移転補償、道路築造、宅地造成など
159	優良建築物等整備事業	一般		106	106	0	優良建築物等整備事業（中央通三丁目）における建設事業費の一部に対する補助
160	盛岡バスセンター整備事業	一般		171	596	66	公民連携事業によりバスターミナル機能とにぎわい機能を持つ新たな盛岡バスセンターの整備 隣接する道路の拡幅工事、アレ・ヴェールの解体工事
施策の計（一般会計 17事業）				8,483	11,705	4,485	
施策の計（一般会計以外 9事業）				4,816	5,335	2,012	

- ・ **道路橋りょう維持管理事業**
国予算の追加補正にて、法面補修工事が予算化されたため、実績額が大きくなりました。
- ・ **道路除排雪事業（除排雪委託ほか）**
断続的に降り続いた大雪に伴い道路除排雪日数が多かったことにより、実績額が大きくなりました。
- ・ **身近な暮らしを支える道路事業**
国予算の追加補正にて工事施工箇所が増えたことにより、実績額が大きくなりました。
- ・ **盛岡市動物公園整備事業**
盛岡市動物公園再生事業に国の交付金事業を導入したことにより実績額が大きくなりました。
- ・ **上水道安全対策事業**
事業延期による年度内施工の中止などにより、実績額が小さくなりました。
- ・ **浄配水場施設整備事業**
債務負担工事の年度割の変更と、入札不調による工事発注の中止により実績額が小さくなりました。
- ・ **公共下水道改築更新事業**
国予算の追加補正にて工事施工箇所が増えたことにより、実績額が大きくなりました。
- ・ **公共下水道雨水施設整備事業**
国予算の追加補正にて工事施工箇所が増えたことにより、実績額が大きくなりました。
- ・ **太田地区整備事業，都南中央地区整備事業**
交付金の追加補正交付決定があったため、実績額が大きくなりました。
- ・ **道明・下飯岡地区整備事業**
区画整理事業は交付金の追加補正交付決定があったため、実績額が大きくなりました。一方、生活環境改善事業は交付決定額が想定を下回り全体として実績額が小さくなりました。
- ・ **盛岡バスセンター整備事業**
都市構造再編集支援事業補助金が計画額よりも多く配分されたことから、令和３年度に予定していたバスセンター用地買戻し（バスロータリー部分）を令和２年度に実施したことにより実績額が大きくなりました。

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																																				
市道改良率*	↗	%	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>73.9</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>74.4</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>74.6</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>74.8</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>74.8</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>75.0</td><td>74.8</td></tr><tr><td>R2</td><td>75.0</td><td></td></tr><tr><td>R3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>75.7</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	73.9		H27	74.4		H28	74.6		H29	74.8		H30	74.8		R1	75.0	74.8	R2	75.0		R3			R4			R5			R6		75.7
年度	実績値	目標値																																						
当初値	73.9																																							
H27	74.4																																							
H28	74.6																																							
H29	74.8																																							
H30	74.8																																							
R1	75.0	74.8																																						
R2	75.0																																							
R3																																								
R4																																								
R5																																								
R6		75.7																																						
まちづくり評価アンケート調査「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合	↗	%	◎	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>74.2</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>74.7</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>78.1</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>78.9</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>77.8</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>77.2</td><td>80.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>79.9</td><td></td></tr><tr><td>R3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>80.0</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	74.2		H27	74.7		H28	78.1		H29	78.9		H30	77.8		R1	77.2	80.0	R2	79.9		R3			R4			R5			R6		80.0
年度	実績値	目標値																																						
当初値	74.2																																							
H27	74.7																																							
H28	78.1																																							
H29	78.9																																							
H30	77.8																																							
R1	77.2	80.0																																						
R2	79.9																																							
R3																																								
R4																																								
R5																																								
R6		80.0																																						
水道管路の耐震化率	↗	%	○	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>23.3</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>24.9</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>25.5</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>26.4</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>27.4</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>28.1</td><td>29.6</td></tr><tr><td>R2</td><td>29.1</td><td></td></tr><tr><td>R3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>34.6</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	23.3		H27	24.9		H28	25.5		H29	26.4		H30	27.4		R1	28.1	29.6	R2	29.1		R3			R4			R5			R6		34.6
年度	実績値	目標値																																						
当初値	23.3																																							
H27	24.9																																							
H28	25.5																																							
H29	26.4																																							
H30	27.4																																							
R1	28.1	29.6																																						
R2	29.1																																							
R3																																								
R4																																								
R5																																								
R6		34.6																																						
污水处理人口普及率 (処理区域内人口／行政区域内人口)	↗	%	○	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>95.0</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>95.2</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>95.3</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>95.7</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>95.9</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>96.1</td><td>96.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>96.3</td><td></td></tr><tr><td>R3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>97.8</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	95.0		H27	95.2		H28	95.3		H29	95.7		H30	95.9		R1	96.1	96.0	R2	96.3		R3			R4			R5			R6		97.8
年度	実績値	目標値																																						
当初値	95.0																																							
H27	95.2																																							
H28	95.3																																							
H29	95.7																																							
H30	95.9																																							
R1	96.1	96.0																																						
R2	96.3																																							
R3																																								
R4																																								
R5																																								
R6		97.8																																						
面的整備による生活環境整備率(整備済路線延長／整備計画路線延長)	↗	%	○	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>29.0</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>30.5</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>31.7</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>33.7</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>38.1</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>42.4</td><td>63.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>50.9</td><td></td></tr><tr><td>R3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>97.0</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	29.0		H27	30.5		H28	31.7		H29	33.7		H30	38.1		R1	42.4	63.0	R2	50.9		R3			R4			R5			R6		97.0
年度	実績値	目標値																																						
当初値	29.0																																							
H27	30.5																																							
H28	31.7																																							
H29	33.7																																							
H30	38.1																																							
R1	42.4	63.0																																						
R2	50.9																																							
R3																																								
R4																																								
R5																																								
R6		97.0																																						

* 平成28年度に新しく追加した指標です。

・ 市道改良率／△遅れが生じている

令和2年度の道路改良実績は4,236mであり、市道認定実績の4,009mを上回っています。ここ数年同様の傾向となっていますが、前年度実績から横ばいとなっています。

・ 「公園や街路樹などの街の中の緑が多いと思う」と答えた市民の割合／◎目標値に向け順調に推移

コロナ禍における移動制限等により、身近な公園・緑地等を利用する機会が増えたものと考えられます。

ただし、街路樹等の植栽管理に関する苦情も増えており、植栽施設の適正な維持管理が行き届いていない実情が背景にあります。

要因としては、公園施設の老朽化や樹木の大径木化等の進行により増大する維持管理費用に対し、財源の確保が十分にできていないことが挙げられます。

・ 水道管路の耐震化率／○目標値に向け推移

使用する全ての水道管に耐震管を採用することにより、耐震化率の向上を目指し、前年度比1ポイント上昇の目標を達成しています。

令和元年度までは入札不調・不落の影響により、経年管対策事業等の遅れが生じましたが、令和2年度は工事規模や発注時期を工夫し、概ね計画した工事を施工できました。令和6年度目標値達成に向け、債務負担行為や予算繰越制度を活用し、建設工事閑散期の発注等により、着実に計画を進めます。

- ・ **汚水処理人口普及率（処理区域内人口／行政区域内人口）／〇目標値に向け推移**

未整備地区や土地区画整理事業実施地区等の下水管渠の整備や浄化槽設置整備事業の推進により、汚水処理人口普及率は令和6年度の目標値に向けて着実に推移しています。

今後は、集落が点在する未整備地区への整備が多くなり、費用対効果（管渠整備延長に対する汚水処理人口の増加）の低下が見込まれることから、更に効率的・効果的な汚水管渠整備を実施するとともに、浄化槽等を活用した公共下水道によらない汚水処理と合わせた整備を実施する必要があります。

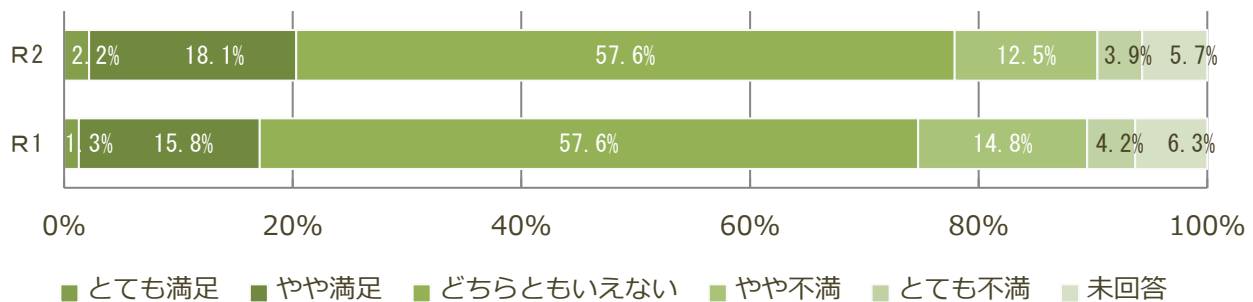
また、整備済地区においても下水道への接続促進を図る必要があるほか、老朽化が進行している既存施設の修繕・改築を進める必要があります。

- ・ **面的整備による生活環境整備率（整備済路線延長/整備計画路線延長）／〇目標値に向け推移**

必要とする予算の確保が十分にできていないため、令和2年度で50.9%と進捗が伸び悩んでいる傾向にありますが、目標値に向け推移している状況です。

■ 施策に対する市民の実感

「快適で暮らしやすい居住環境が整っている」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

良好な住宅地の誘導

（成果）

建築確認申請に係る完了検査率について、盛岡市と指定確認検査機関を合わせた全体では90.80%となり令和元年度と比較し7.7ポイント減少しましたが、盛岡市に申請された物件については113.48%となり目標値以上となりました。

耐震診断によって耐震性能が不足する結果となっていた「要緊急安全確認大規模建築物」に該当する1施設の所有者が、当該建物の耐震化に向け耐震補強工事を行ないました。

（問題点）

違反建築物に対する苦情・相談の件数が令和元年度の138件に対し、111件と減少しましたが、件数は多い状態で推移しています。

旧耐震木造住宅の耐震診断支援・耐震改修補助について、耐震改修補助は応募戸数が募集戸数を下回りました。（耐震診断支援は募集10戸に対して応募10戸、耐震改修補助は募集2戸に対して応募0戸）

「要緊急安全確認大規模建築物」に該当する1施設が耐震補強工事を予定していましたが、延期となりました。

（今後の方向性）

指定確認検査機関分の完了検査率に改善が見られない場合は、市が同機関に申請され未検査となっている物件に対し、督促状を送付することを検討します。

建築主に対し、旧耐震木造住宅の耐震診断・耐震改修工事の周知・啓発を目的とした戸別訪問を実施するなど、応募者の増加を図ります。

耐震補強工事が保留となった「要緊急安全確認大規模建築物」の1施設について、建築物の所有者、設計者等と綿密な協議を行い、実施に向けた適正な進捗管理を行います。

安全・快適な道路環境の向上

（成果）

市道改良率が平成元年度に引き続き令和2年度の目標を達成しました。

（問題点）

道路整備や橋りょう維持補修等の予算の安定的な確保が十分にできていません。

（今後の方向性）

市道の改良について、毎年舗装新設実績を積み重ねることにより、令和元年度目標値を達成することができており、事業は順調に推移していることから、このまま維持を図ります。

予算確保については、「道路橋梁整備促進同盟会」及び「道路対策協議会」等において、国への要望活動を行い、補助金や交付金の安定的な予算確保につなげます。

都市公園の整備と利用促進

（成果）

公園整備等により、緑の基本計画で目標としている一人当たりの公園面積12㎡/人が維持されました。

（問題点）

公園整備後の適正な運営（維持）管理に必要となる維持管理費用の財源確保が困難となっています。

（今後の方向性）

公園整備の新たな手法である公募設置管理制度（Park-PFI）を活用し、民間事業者による公園施設整備や収益施設から利益の一部を公園運営（維持）管理に充てることにより魅力ある公園として持続的に機能の充実を図ります。

都市緑化の推進

（成果）

花苗の配布等により各町内の緑化が図られたとともに、地元のコミュニティ活動に大きく寄与しました。また、企業や住民の協力によりハンギングバスケット設置数が日本一を継続しています。

（問題点）

街路樹の老木化および大径木化により維持管理費が嵩み適正な維持管理が追い付かない状況にあり、景観を損ねるとともに道路交通の安全にも支障をきたす状態となっています。

（今後の方向性）

今後も市民・事業所・団体等の協働による花と緑のまちづくりが継続できる仕組みづくりを検討します。また、街路樹維持管理の組織体制の見直しと効率的な外部発注及び効果的な再整備について検討します。

安定給水の確保

（成果）

耐震管の採用による管路整備や老朽施設の計画的な更新により、管路耐震化率は29.1%、有効率は95.7%に達しており、災害に強い水道施設の構築が進捗しています。

水道法の水質基準に適合した安全な水道水を給水区域内に安定的に供給しています。

（問題点）

水道施設工事の入札不調は改善傾向がみられますが、計画的な施設更新を阻む一因となっています。

（今後の方向性）

計画的に水道施設工事を実施するため、工事規模や発注時期の調整等を行い、継続して年間を通した工事発注を実施することにより、工事業者が受注しやすい発注方法等を検討し、工事実施に努めます。また、安全な水道水の安定供給を持続するため、水道事業に関する情報発信を図り、経営の健全化に努めます。

汚水処理の充実

（成果）

未整備地区や土地区画整理事業実施地区等の下水管渠の整備、浄化槽設置整備事業の推進により、汚水処理人口普及率は微増しており、汚水処理未整備地区の解消に向けて進捗しています。

（問題点）

未整備地区は、集落が点在する郊外部が多数あり、管渠整備による普及率の伸びが低調です。また、既存施設の老朽化が進行しています。

（今後の方向性）

未整備地区における投資効果等を検討し、整備計画等の見直しを進め、効果的で効率的な管渠整備を進めます。

また、既存施設の定期点検や巡視の強化等による予防保全的な維持管理とともに、老朽施設の計画的な修繕や改築を進めます。

雨水浸水対策の推進

（成果）

未整備地区や土地区画整理事業実施地区等の下水管渠の整備により、下水道雨水施設整備率は増加しており、大雨浸水の解消に向けて進捗しています。

（問題点）

ルートの見直し等により幹線整備の進捗が停滞している箇所があります。

また、既存施設の老朽化が進行しています。

（今後の方向性）

他事業の担当部署との調整を図り、未整備地区の幹線整備と面的整備を計画的に推進します。

施設整備による浸水対策には長期間を要するため、短期的に対応できる浸水被害箇所の側溝整備や樹改良等のほか、既存施設の点検清掃や土のうステーションの設置等のソフト的な浸水防除対策を継続します。

既成市街地の再整備

（成果）

土地区画整理事業及び生活環境整備事業により、住環境整備や宅地造成が進み住宅や店舗等が建設され定住人口が増加しています。

（問題点）

必要とする予算の安定確保が困難となっており、事業の進捗が遅れています。

（今後の方向性）

確実な予算確保のため国や県への要望活動を行うとともに、新たな財源の検討等を引き続き行います。

仮換地指定対象者及び建物等移転対象者等へ引き続き丁寧な説明を行い、事業の理解と協力を得ながら事業進捗を図ります。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

安全で快適な市民生活と活発な産業活動を支える都市基盤施設である道路や橋梁、公園、上下水道施設は、それぞれの整備事業や土地区画整理事業、生活環境整備事業の進捗により確実に整備が進んでいます。

また、施設の老朽化に対しても、維持管理計画や長寿命化計画により、維持更新が進められています。

一方で、これらの事業を進める財源確保が課題となっており、より効果的・効率的な整備や民間活力の活用を検討する必要があります。

近年は自然災害が多発化しており、特に地震への対策として、橋梁や上下水道施設などの基礎的インフラの耐震化を促進するとともに、一般住宅についても倒壊の危機を回避するため、旧耐震木造住宅の耐震診断・耐震改修工事の周知・啓発を進める必要があります。

施策27 交通環境の構築

幹線道路の整備や公共交通機関の利便性の向上を図るほか、自転車走行環境や歩行環境の整備などに取り組むことにより、総合的な交通体系を確立するとともに、マイカー利用の抑制と公共交通や自転車利用の促進を図り、環境にやさしく快適な交通環境を構築します。

■ 主要事業の実績

総合交通計画の推進については、これまでの交通施策の取組により、快適に移動ができると答えた市民の割合は増加傾向にあります。

また、もりおか交通戦略については次期計画として公共交通・自転車利用促進につながる施策の検討と、施策を支える将来道路網計画の検証を行うとともに、都市計画道路整備プログラムの策定を進めました。

公共交通機関の利便性向上と利用促進については、「まちなかおでかけパス」を「一定区間乗り放題」から「利用回数に応じて負担してもらう」制度に令和2年度から見直しました。

自転車、歩行者のための交通環境の充実については、自転車走行空間の整備や放置自転車対策事業の推進により、自転車や徒歩で快適に移動できると答えた市民の割合が向上するなど、自転車の利用促進と歩行環境の向上を図りました。

都市活動を支える幹線道路の整備については、都市計画道路等の整備による幹線道路改良率の向上と公共交通の利用促進施策により、主要幹線道路の混雑度は1.0を下回っています。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
161	1	公共交通利用促進対策事業（整備関連）	一般		234	259	243	J R 田沢湖線新駅関係（鉄道施設詳細設計、駅前広場測量設計・不動産鑑定料・用地補償費・交渉旅費等）
161	2	公共交通利用促進対策事業（ソフト）	一般		83	71	0	ノンステップバス導入補助、市内バス運営協議会負担金、広域生活路線維持維持補助、まちなか・おでかけバス事業費補助、おでかけバス特典ポイント（MORIO-J）発行手数料、盛岡駅前広場誘導業務委託 バスロケーションシステム更新事業、交通系ICカード導入事業
162	1	自転車の安全と利用促進に関する事業（整備関連）	一般		13	8	0	自転車走行空間整備工事
162	2	自転車の安全と利用促進に関する事業（ソフト）	一般		1	1	0	パンフレット作成など
163		都市の骨格を形成する街路事業	一般		29	14	11	明治橋大沢川原線（大通工区）、愛宕町三ツ割線（山岸四丁目）等の路線整備
施策の計（一般会計 3事業）					360	353	254	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移																											
平日の主要幹線道路の混雑度	↘	割合	☆	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>1.11</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>1.04</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>1.03</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>1.02</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>0.95</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>0.99</td><td>1.09</td></tr><tr><td>R2</td><td>0.95</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>1.00</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	1.11		H27	1.04		H28	1.03		H29	1.02		H30	0.95		R1	0.99	1.09	R2	0.95		R6		1.00
年度	実績値	目標値																													
当初値	1.11																														
H27	1.04																														
H28	1.03																														
H29	1.02																														
H30	0.95																														
R1	0.99	1.09																													
R2	0.95																														
R6		1.00																													
交通の手段分担率の変化(自動車)	↘	%	◎	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>59.3</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>63.9</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>64.7</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>66.6</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>67.6</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>68.6</td><td>56.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>64.2</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>53.0</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	59.3		H27	63.9		H28	64.7		H29	66.6		H30	67.6		R1	68.6	56.0	R2	64.2		R6		53.0
年度	実績値	目標値																													
当初値	59.3																														
H27	63.9																														
H28	64.7																														
H29	66.6																														
H30	67.6																														
R1	68.6	56.0																													
R2	64.2																														
R6		53.0																													
交通の手段分担率の変化(バス, 鉄道)	↗	%	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>14.7</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>12.5</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>12.6</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>14.0</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>13.0</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>13.9</td><td>17.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>13.1</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>19.0</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	14.7		H27	12.5		H28	12.6		H29	14.0		H30	13.0		R1	13.9	17.0	R2	13.1		R6		19.0
年度	実績値	目標値																													
当初値	14.7																														
H27	12.5																														
H28	12.6																														
H29	14.0																														
H30	13.0																														
R1	13.9	17.0																													
R2	13.1																														
R6		19.0																													
交通の手段分担率の変化(徒歩, 自転車など)	↗	%	◎	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>26.0</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>23.6</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>22.7</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>19.3</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>19.4</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>17.6</td><td>27.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>22.7</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>28.0</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	26.0		H27	23.6		H28	22.7		H29	19.3		H30	19.4		R1	17.6	27.0	R2	22.7		R6		28.0
年度	実績値	目標値																													
当初値	26.0																														
H27	23.6																														
H28	22.7																														
H29	19.3																														
H30	19.4																														
R1	17.6	27.0																													
R2	22.7																														
R6		28.0																													
1日当たりのバス・鉄道利用者数	↗	人	△	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>当初値</td><td>71,962</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>75,191</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>75,309</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>75,827</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>74,863</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>72,769</td><td>74,400</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>74,600</td></tr></tbody></table>	年度	実績値	目標値	当初値	71,962		H27	75,191		H28	75,309		H29	75,827		H30	74,863		R1	72,769	74,400	R6		74,600			
年度	実績値	目標値																													
当初値	71,962																														
H27	75,191																														
H28	75,309																														
H29	75,827																														
H30	74,863																														
R1	72,769	74,400																													
R6		74,600																													

・ 平日の主要幹線道路の混雑度／☆目標値に到達

平日の主要幹線道路の混雑度は、令和元年度において増加はしたが、基本的に減少傾向となっており、平成27年度以降、目標値を下回っています。

幹線道路の整備が着実に進んでいることと、「まちなか・おでかけパス」事業の推進により、高齢者のマイカーから公共交通への転換が図られていることが、混雑度を下げている要因と考えられます。

・ 交通の手段分担率の変化（自動車）／◎目標値に向け順調に推移

通勤時における自動車の交通手段分担率は目標値を達成できていません。通勤者の「マイカーから公共交通への転換」の取り組みが十分に浸透していない可能性があり、更なる検証が必要です。

一方で、令和2年度の自動車の交通手段分担率は、令和元年度から4.4ポイントの減少となり、平成28年度以降、一番低い分担率となりました。自転車走行空間の整備の効果が出始めたこと、コロナ禍による影響があるものと考えられます。

・ 交通の手段分担率の変化（バス、鉄道）／△遅れが生じている

通勤時におけるバスや鉄道の交通手段分担率は平成29年度までは増加傾向にありましたが、平成30年度に以降は13%台で推移し、横ばい状況となっています。モビリティ・マネジメントなどによるバスや鉄道の利用促進策を浸透させる必要があります。

・ 交通の手段分担率の変化（徒歩、自転車など）／◎目標値に向け順調に推移

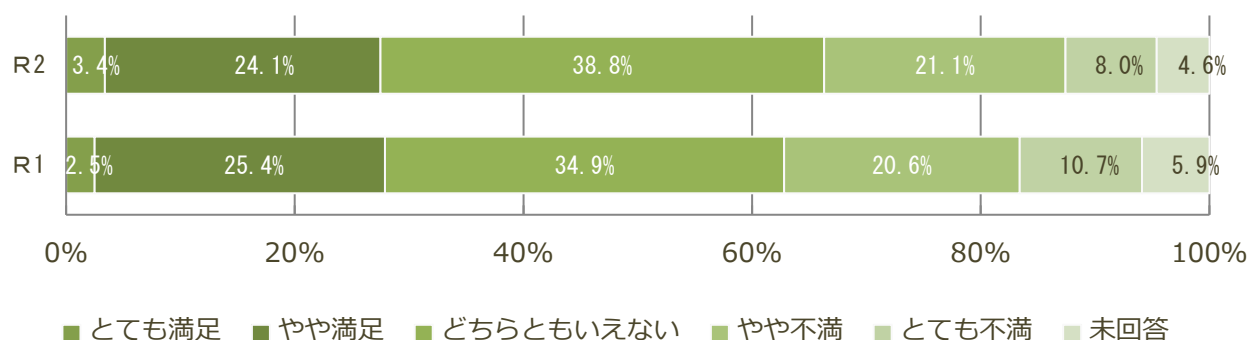
通勤時における徒歩や自転車などの交通手段分担率は、令和元年度までは減少傾向であったが令和2年度には5.1ポイントの増加となり、平成28年度と同じ水準まで戻りました。これは自転車走行空間の整備の効果が出始めたこと、コロナ禍による影響があるものと考えられます。

- ・ **1日当たりのバス・鉄道利用者数／△遅れが生じている**

1日当たりのバス・鉄道利用者数は、平成30年度までは目標値を超えていましたが、令和元年度（最新値は令和元年度のもの）は目標値を下回る結果となりました。盛岡都心循環バス「でんでんむし」の減便やコロナ禍による影響が減少の要因として考えられます。

■ 施策に対する市民の実感

「幹線道路や公共交通機関が利用しやすい」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

総合交通計画の推進

（成果）

盛岡市総合交通計画やもりおか交通戦略の各種施策の取組により、成果指標の「快適に移動できる」と答えた市民の割合が増加傾向にあります。

岩手県交通の好摩直通線の廃止に伴って当該地域が公共交通空白地とならないよう検討を重ね、岩手県北バスによる代替の路線バス運行することになりました。

（問題点）

社会情勢の変化に合わせ、各種計画の見直しや策定を行う必要があります。

（今後の方向性）

国に対し財源確保を引き続き要望するほか、厳しい財源の状況にあって効果的・効率的な整備が図られるプログラムの策定に取り組みます。

社会情勢の変化に対応した都市計画道路ネットワークを検討し、関連計画との整合性を踏まえた、もりおか交通戦略の次期計画の策定に取り組みます。

盛岡市地域公共交通網形成計画に位置づけた「公共交通空白地区を解消する移動手段の確保・導入」事業について、市民や交通事業者と連携・協力しながら取り組みます。

公共交通機関の利便性向上と利用促進

（成果）

高齢者の移動への支援として、路線バス事業者とIGRいわて銀河鉄道への補助を行う「まちなか・おでかけバス事業」により、公共交通の利用促進を図りました。「まちなか・おでかけバス」は、令和2年度に料金体系をバス利用者の利用回数に応じた負担方式に制度変更を行い、バス事業者の負担軽減が図られました。

（問題点）

「まちなか・おでかけバス」、「玉山地域列車でおでかけきっぷ」とも新型コロナウイルス感染症による外出機会の減少が販売枚数の減少に影響しています。

公共交通については、持続を図るためにも、利便性向上により利用者を増やすとともに、効率化が求められています。

（今後の方向性）

引き続き、公共交通利用促進についてPRを実施していくほか、「まちなか・おでかけバス」については、新制度の検証を行います。また、盛岡市地域公共交通網形成計画に基づき、利便性の向上を図るためバスロケーションシステムの更新整備や交通系ICカードの導入に取り組むほか、路線バス運行の効率化を図るため、路線網の見直し・再編について検討します。

自転車、歩行者のための交通環境の充実

（成果）

盛岡市自転車ネットワーク計画に基づき、都市計画線道路明治橋大沢川原線、盛岡駅南大通線、本町上田線、上田深沢線において自転車走行空間の整備を実施し、ネットワークが形成された区間では自転車が逆走する違反が少なくなっており、市民アンケートにおいても「自転車で快適に移動できる」と答えた割合は増えています。

（問題点）

放置自転車対策については、様々な情報発信等の取り組みにより、盛岡駅周辺での放置数は減少傾向にあるが、市営駐輪場が盛岡駅から遠いとの意見も寄せられています。

（今後の方向性）

国、県と連携した自転車走行空間のネットワークの推進について、整備時期の調整を行いながら国の補助制度を活用し整備に取り組みます。

放置自転車対策について、情報発信等を強化するとともに、利便性の高い駐輪場に関する検討を行います。

都市活動を支える幹線道路の整備

（成果）

都市計画道路等の整備において、区間毎の完成や供用を行うことにより、幹線道路改良率が増加しました。

（問題点）

道路整備事業費予算（交付金）の確保が難しい状況です。

（今後の方向性）

予算確保については、「道路橋梁整備促進同盟会」及び「道路対策協議会」等において、国への要望活動を行い、補助金や交付金の安定的な予算確保につなげます。

もりおか交通戦略に基づき、歩いて楽しむ中心市街地の形成を図るため、エリアを囲む都心環状道路（盛岡駅南大通線（大沢川原Ⅱ工区））の整備に着手します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

平日の主要幹線道路の混雑度は減少傾向にあり、幹線道路の事業進捗により、着実にネットワーク形成が進んでいます。一方、事業を進める財源確保が課題となっており、より効果的で効率的な整備により、早期に効果が発揮できるネットワークの形成を図る必要があります。

バス・鉄道利用者数がコロナ禍の影響により減少したとみられ、合わせて「まちなか・おでかけパス」の販売数も減少しており、公共交通機関の維持存続を図りつつ、コロナ禍終息後の利用促進策を検討する必要があります。

また、徒歩・自転車などの交通手段分担率は上昇しており、今後とも増加を図る施策を継続する必要があります。

公共交通の利便性向上に向け、「盛岡市地域公共交通網形成計画」に位置付けた施策に取り組んでいく必要があります。

施策28 国際化の推進

産業や教育、文化、スポーツなど幅広い分野において、諸外国との交流を促進し、市民の国際感覚の醸成を図るとともに、外国人が訪れやすく、暮らしやすい環境の整備を進めます。

また、企業の国際競争力向上への支援や国際的に活躍できる人材の育成など、国際化の推進を図ります。

■ 主要事業の実績

（公財）盛岡国際交流協会と連携し、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に留意しながら、市民や外国籍市民を対象とした各種講座を開催し、異文化理解の推進や国際交流の次代を担う人材育成に取り組みました。

令和元年に友好都市提携を結んだ台湾花蓮市との友好都市提携記念として、令和2年度に花蓮市が建立した記念碑の除幕式典にオンライン中継を活用して参加し、友好交流の深化を図りました。

令和2年度に迎えたカナダビクトリア市との姉妹都市提携35周年記念事業について、相互訪問を伴う事業は中止となりましたが、盛岡市ビクトリア市姉妹都市提携35周年記念事業実行委員会で実施した姉妹都市交流事業補助による民間事業3件のうち、2件について実施しました。

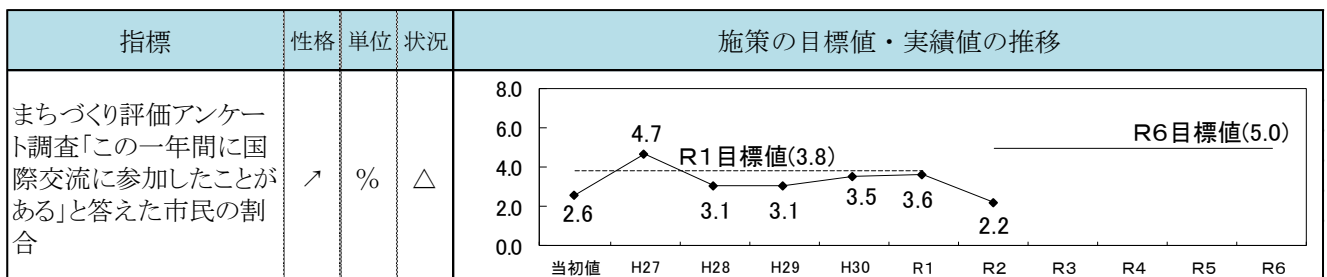
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるカナダのホストタウン事業として、街中をタペストリーで装飾し機運醸成を図りました。

国際リニアコライダーの誘致実現に向け、市民の機運醸成及び理解の促進を図ったほか、関係団体と連携し、国際リニアコライダーの誘致推進に努めました。

（単位 百万円）

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
164		姉妹都市等国際交流事業	一般	★	34	27	0	姉妹都市カナダビクトリア市や友好都市台湾花蓮市との交流推進のほか、新しい生活様式における国際交流事業の実施
165		国際交流関係事業	一般		2	0	0	アールム大学からの短期留学生の受入れ、教師・生徒のインディアナ州への派遣は、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止。
施策の計（一般会計 2事業）					36	27	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況



・ 「この一年間に国際交流に参加したことがある」市民の割合／△遅れが生じている

令和2年度に予定していた盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年記念事業をはじめとする国際交流事業が、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった影響が如実に表れています。

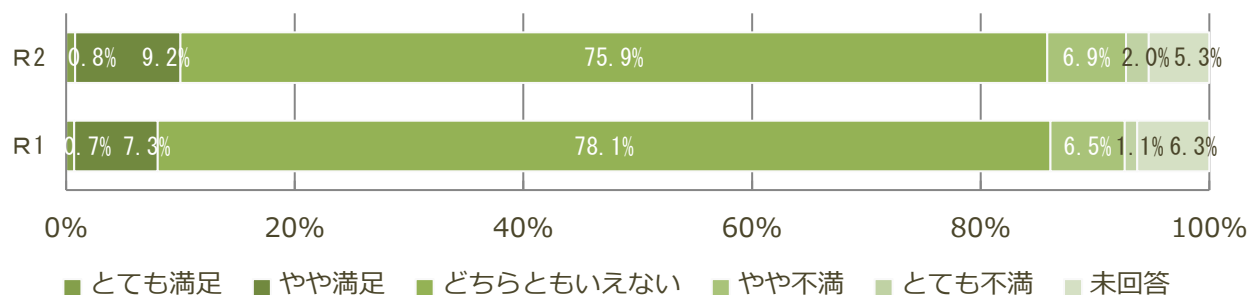
様々な制限の中ではありますが、令和元年に友好都市提携を行った台湾・花蓮市が友好都市提携を記念した記念碑を建立した際は、オンライン中継で現地の建立式典と繋ぎ、祝意を示すなど、コロナ禍でも工夫を凝らし、事業を実施したほか、（公財）盛岡国際交流協会が実施する各種事業において

も、コロナ対策を徹底するとともに、Zoom等のオンライン会議ツールを活用した事業を実施するなど、新しい生活様式の中で、国際交流を継続できるような取組を行っています。

課題としては、新型コロナウイルス感染症の影響による海外との行き来や、多くの人を集めての事業実施ができない状況が続き、国際交流に参加する市民の割合が減少してしまうことが挙げられます。

■ 施策に対する市民の実感

「異文化にふれ国際交流に参加する機会が充実している」と感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

国際交流の推進

(成果)

市と（公財）盛岡国際交流協会が連携し、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら各種講座・イベントを開催し、市民の国際交流への理解および関心を深めることができました。

また、オンラインを活用した事業を展開するなど、コロナ禍における新しい生活様式に対応した事業を実施しました。

(問題点)

新型コロナウイルス感染症の影響により出入国が制限される状況下で、従来型の往来を伴う市民の国際交流の機会は減少しました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、「アールム大学留学生研修事業」及び「盛岡ーインディアナ州交流派遣事業」が中止となりました（「盛岡ーインディアナ州交流派遣事業」については、ホームステイの実施が不可能であることから令和2年度をもって廃止。）。

また、これらに代わる代替事業を実施できなかったことにより、各学校において国際理解教育の推進を図る機会が減りました。

(今後の方向性)

ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた国際交流推進の方向性について検討を進めると同時に、現在盛岡市内に在住する外国籍市民の生活向上に向けて令和3年度に実施する外国籍市民実態調査をもとに外国人が抱える問題やニーズの把握に努め、全ての市民が暮らしやすいまちづくりを推進し、更なる多文化共生の推進を図ります。

令和元年に友好都市締結した台湾・花蓮市との交流事業について、民間の協力を得ながら企画検討を進めます。

「アールム大学留学生研修事業」と同大学から招聘する外国人英語指導講師の採用は今後も継続し、市内各小中学校における国際理解教育を推進します。

国際都市づくりの推進

(成果)

高校生以上を対象とした科学技術講座により、キャリア教育の一環として、ILC誘致を見据えた社会について啓発することができました。

まちづくり評価アンケート調査「国際リニアコライダーを知っている」と答えた市民の割合が上昇しました。

(問題点)

「ILC市民大会」を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響を勘案し、中止しました。

(今後の方向性)

誘致決定までのプロセスを注視しながら、引き続き、県、関係市町が一丸となって周知活動を進めます。

国際リニアコライダーの誘致が決定した場合は、外国人研究者が居住、訪問する機会の増加が想定されることから、平成29年度に外部有識者で構成される「ILC誘致実現を見据えた国際化まちづくりアドバイザーボード」から提出された「国際化に向けたまちづくりに対する提言書」を参考に、国際化のまちづくりを積極的に進めていきます。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の影響により、中学生ビクトリア市研修や周年事業における相互訪問など、往来を伴う国際交流が再開できるまでには時間を要することが見込まれることから、今後においては社会状況に影響されない新たな交流の在り方についても検討を進め取り組んでまいります。

今後増加が見込まれる外国籍市民が地域で安心して生活できるよう、ニーズ調査の結果を踏まえながら、ごみの出し方パンフレットや発災時の避難所における案内表示の多言語化などの環境整備を進めることにより、身近な地域で国際交流を推進するための基盤づくりに取り組みます。

姉妹都市、友好都市との交流について、産業や教育、文化など多分野にわたる交流を市民レベルで促進します。

施策29 都市間交流の促進

にぎわいのあるまちを創出するとともに、市民生活の質を高めるため、市民とさまざまな都市や地域の人々との交流を促進します。

■ 主要事業の実績

友好都市であるうるま市や文京区の特産品を賞品としたスタンプラリーを開催し、「友好都市・ロケ地」や「観光・景勝地・施設」、「歴史・先人」といった各スポットを紹介することにより、本市が持つ魅力の発信や再発見につなげ、友好都市の周知を図るとともに、コロナ収束後の来盛機会の醸成に努めました。

文京区内の区立小中学校の給食において「和食の日交流自治体の旅・盛岡産黒毛和牛の日」を実施した際に、食材提供のほかに本市を映像で紹介し、区内小中学生に本市への興味関心を高めてもらう機会としました。

令和3年度から令和7年度を取組期間とする第1期都市圏ビジョンを策定しました。

(単位 百万円)

主要事業	枝番	主要事業	会計区分	新市	計画額	実績額	翌年度繰越額	事業の内容
166		都市間交流事業	一般		1	8	0	盛岡の文化財や姉妹・友好都市のスポットなどを歩いて楽しむ「デジタルスタンプラリー事業」を、新型コロナウイルス感染症の接触感染のリスクに配慮して実施
167		広域連携推進事業	一般		3	2	0	盛岡広域連携中枢都市圏ビジョンに係る事務
施策の計（一般会計 2事業）					3	10	0	

■ まちづくり指標（成果指標）の状況

指標	性格	単位	状況	施策の目標値・実績値の推移
都市間交流を促進するための協定等の締結数	↑	件	☆	当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(4) R6目標値(5)
みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数*	↑	件	◎	当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値(47) R6目標値(64)

* 平成28年度に指標を「にぎわいや産業振興につながる自治体連携の取組数」から「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数」に変更しています。

・ 都市間交流を促進するための協定等の締結数／☆目標値に到達

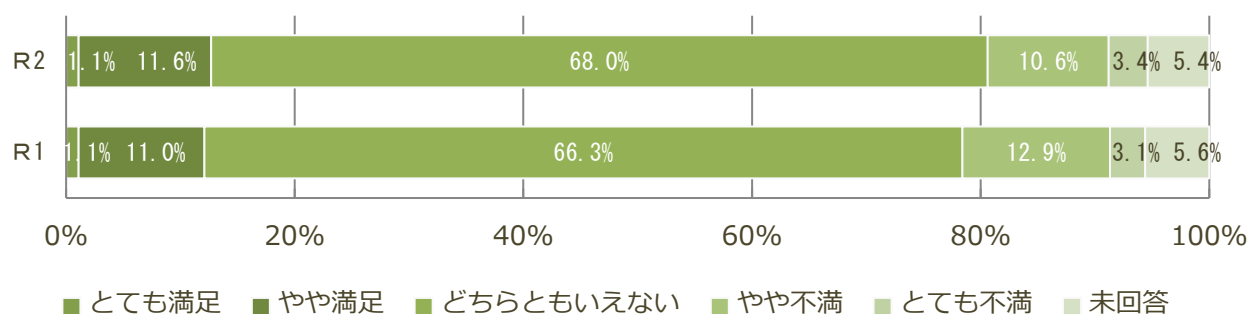
進捗状況としては順調ですが、都市間交流の機会がイベントの参加など限定的でした。

・ みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数／◎目標値に向け順調に推移

第1期ビジョンにおいて新たな事業が位置付けられたほか、連携した事業が概ね成果を上げたことから、各市町の課題に対し、連携して取り組むことの有効性が共有できています。

■ 施策に対する市民の実感

「都市間の交流が盛んになり、まちのにぎわい」を感じる市民の割合



■ 現状の成果、問題点と今後の方向性

都市間交流の促進

（成果）

コロナ禍においてもスタンプラリーの実施等により友好都市の周知を図ることができました。

（問題点）

友好都市をはじめ、引き続き経済・文化・歴史などの背景の異なる様々な都市との交流を促進する必要があります。

（今後の方向性）

スタンプラリーなどのイベントによる周知は、一時的な効果は見込めるものの継続が難しいことから、今後は恒常的なPRに努め、さらなる市民交流の促進につながる工夫をします。特に、令和4年度に友好都市提携10周年を迎えるうるま市については、記念事業の実施についてうるま市と具体の協議を進めます。

うるま市や文京区、函館市、あるいは南部氏ゆかりの市町など、既に友好都市等を提携している都市との交流をさらに深めるため、教育や文化、経済など多角的側面からの取組を広げることにより、市民レベルでの交流を促進します。

地域間連携の推進

（成果）

令和3年度から令和7年度を取組期間とする第2期都市圏ビジョンを策定しました。

新たに1件の新規事業を位置付けたほか、今後検討する事業に7件の事業を位置付けました。

（問題点）

新たに広域圏で連携して取り組む事業の検討を進めていく必要があります。

（今後の方向性）

国の広域連携の取組に関する制度の見直し・創設に係る情報に注視しながら、連携して取り組む事業について広域市町間で検討します。

■ 施策の取組の総括と今後の方向性

都市間交流の促進については、施策目的を達成するにあたり、各友好都市等との市民レベルの交流事業を更に促進させる必要があることから、本市の「盛岡さんさ踊り」やうるま市の「エイサー」など、各市が有する伝統文化の交流を通じ、お互いの特色ある文化を知る機会の増加に努め、友好都市に関する市民意識の醸成を促します。

(2) 主要事業の実績額一覧（基本目標・施策別）

まちづくりの取組では、盛岡市総合計画の基本構想に掲げる「目指す将来像」の実現に向け、4つの基本目標のもと、29の施策の中に、91の小施策、約1,000の事業を位置づけ、毎年度改革改善しながら事業を進めています。

その中でも、各施策において、優先的かつ重点的に実施する事業を「主要事業」に位置づけて施策の推進を図っています。

また、施策の推進に当たっては、「まちづくり指標」として目標を定めて進捗を図っているほか、施策の取組状況などについて、市民の皆さんがどのように感じているか毎年アンケート調査を行い、その結果を「市民の実感」として把握しながら進捗を図っています。

■ 主要事業の実績（基本目標別総括表）

令和2年度は、167事業を主要事業に位置づけながら施策の推進を図り、主要事業の実績額は、全会計合計で124,352百万円となりました。

内訳は下の表のとおりです。

（単位 百万円）

基本目標		会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	人がいきいきと暮らすまちづくり (66事業)	一般会計	43,734	43,838	269
		一般会計以外	54,352	55,679	0
2	盛岡の魅力があふれるまちづくり (15事業)	一般会計	396	365	73
		一般会計以外	0	0	0
3	人を育み未来につなぐまちづくり (17事業)	一般会計	2,813	3,297	1,211
		一般会計以外	0	0	0
4	人が集い活力を生むまちづくり (69事業)	一般会計	9,935	14,296	4,769
		一般会計以外	5,779	6,289	2,012
計（167事業）		一般会計	56,878	61,797	6,322
		一般会計以外	60,131	61,968	2,012
		合計	117,009	123,766	8,334

基本目標 1 人がいきいきと暮らすまちづくり（施策 1～10）

盛岡に定住する人口を保ち、活力ある社会を築いていくため、若い世代や子育て世代が住みたい、住み続けたいと思うとともに、豊富な経験を持つ高齢者が社会のさまざまな分野で活躍できるまちづくりを進めました。

また、誰もが、心身ともに健やかで自分らしさを発揮しながら、人がつながり、互いに支え合う共生社会の中で、充実感を持っていきいきと安全に暮らすことのできるまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績（施策別）

（単位 百万円）

	施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
1	地域福祉の推進	一般会計	180	176	0
2	子ども・子育て、若者への支援	一般会計	11,936	11,796	0
3	高齢者福祉の充実	一般会計	3,903	4,101	0
3	高齢者福祉の充実	一般会計以外	25,852	27,094	0
4	健康づくり・医療の充実	一般会計	6,749	6,574	0
4	健康づくり・医療の充実	一般会計以外	28,500	28,586	0
5	障がい者福祉の充実	一般会計	6,920	7,252	0
6	生活困窮者への支援	一般会計	8,539	8,425	46
7	人権尊重・男女共同参画の推進	一般会計	6	5	0
8	安全・安心な暮らしの確保	一般会計	4,969	5,033	223
9	地域コミュニティの維持・活性化	一般会計	213	202	0
10	生活環境の保全	一般会計	318	273	0
小計		一般会計	43,734	43,838	269
		一般会計以外	54,352	55,679	0

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別（P 4～41）」に掲載しています。

基本目標2 盛岡の魅力があふれるまちづくり（施策11～16）

盛岡を行き交う交流人口を増やし、にぎわいを創出していくため、雄大な自然や美しい景観，城下町の歴史，芸術文化，スポーツ，温かい人情など，盛岡の魅力を守り育てるとともに，まちづくりにいかし，盛岡らしさが光る，魅力あふれるまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績（施策別）

（単位 百万円）

	施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
11	歴史・文化の継承	一般会計	10	9	0
12	芸術文化の振興	一般会計	36	44	0
13	スポーツの推進	一般会計	261	213	0
14	「盛岡ブランド」の展開	一般会計	12	8	0
15	良好な景観の形成	一般会計	77	90	71
16	計画的な土地利用の推進	一般会計	1	2	2
小計		一般会計	396	365	73
		一般会計以外	0	0	0

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別（P43～63）」に掲載しています。

基本目標3 人を育み未来につなぐまちづくり（施策17～20）

長い歴史とともに築いてきた文化や環境などを次世代に引き継ぐため、未来の盛岡を支え、創り、つなぐことのできる人を育むまちづくりを進めました。

また、環境への意識が高まる中、豊かな自然環境と快適な都市機能との調和が続く、持続可能なまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績（施策別）

（単位 百万円）

	施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
17	子どもの教育の充実	一般会計	2,673	3,165	1,158
18	生涯学習の推進	一般会計	64	61	52
19	社会を担う人材の育成・支援	一般会計	17	17	0
20	地球環境の保全と自然との共生	一般会計	59	54	0
小計		一般会計	2,813	3,297	1,211
		一般会計以外	0	0	0

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別（P64～77）」に掲載しています。

基本目標 4 人が集い活力を生むまちづくり（施策21～29）

人口減少、少子高齢社会の進行とともに、地方の衰退が懸念されている中であっても、活力を生み出し、拠点都市としての役割を十分に果たしていくため、産業の振興や中心市街地の活性化を図るとともに、高次の都市機能の集積を推進し、求心力のあるまちづくりを進めました。

また、国際化が進展する中で、世界に通用する優れた人材を育むとともに、多文化共生のまちづくりを進め、世界に開かれた、活力を生むまちづくりを進めました。

■ 主要事業の実績（施策別）

（単位 百万円）

		施策	会計区分	計画額	実績額	翌年度繰越額
人が集い活力を生むまちづくり	21	農林業の振興	一般会計	622	580	22
	22	商業・サービス業の振興	一般会計	46	764	0
	22	商業・サービス業の振興	一般会計以外	1	1	0
	23	工業の振興	一般会計	99	154	3
	23	工業の振興	一般会計以外	963	954	0
	24	観光の振興	一般会計	199	482	3
	25	雇用の創出	一般会計	87	222	2
	26	都市基盤の維持・強化	一般会計	8,483	11,705	4,485
	26	都市基盤の維持・強化	一般会計以外	4,816	5,335	2,012
	27	交通環境の構築	一般会計	360	353	254
	28	国際化の推進	一般会計	36	27	0
	29	都市間交流の促進	一般会計	3	10	0
		小計	一般会計	9,935	14,296	4,769
			一般会計以外	5,779	6,289	2,012

※ 各施策の詳細については、「(1) 施策別（P78～115）」に掲載しています。

3 計画額と実績額の差が1億円以上となった主要事業

計画額との差が1億円以上となった主要事業（25事業）と、その主な増減理由は、次のとおりです。

（単位：百万円）

主要事業	枝番	施策	主要事業名	計画額 A	実績額 B	増減額 B-A	主な増減理由
7		子ども・子育て、若者への支援	認定こども園等運営費給付事業	4,029	4,187	158	給付費算定に係る加算項目の追加適用による増額。
15		子ども・子育て、若者への支援	子育てのための施設等利用給付事業	494	316	△ 178	主に子育てのための施設等利用給付事業（預かり保育事業分）の利用実績（児童数及び対象経費）が見込みを下回ったため。
21	1	高齢者福祉の充実	介護保険事業（繰出金）	3,829	4,089	260	介護保険費特別会計の保険給付費が増額となったため。
21	3	高齢者福祉の充実	介護保険事業（特別会計）	24,918	26,757	1,839	・保険給付費の増加。（新型コロナウイルス感染症対応の介護報酬臨時特例の影響等や利用者の増加等による） ・償還金の増加。（計画時は予測していなかったため）
22		健康づくり・医療の充実	各種健康診査事業	487	285	△ 202	R2当初予算では、個別検診のうち胃がんX線検診、胃がん内視鏡検診及び大腸がん検診についても実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により当該検診の実施を中止したことから、委託料及び事務費の一部に不用額が発生したため。
26		健康づくり・医療の充実	感染症対策事業	117	254	137	新型コロナウイルス感染症対策として予算措置した委託料等が見込みより支出減となったため。
33	2	健康づくり・医療の充実	国民健康保険事業（特別会計）	25,250	25,360	110	医療の高度化・被保険者の高齢層の増加等の影響による保険給付費の増。
38		障がい者福祉の充実	介護給付等給付事業	3,262	3,524	262	障がい福祉サービス利用者の増加による。
39		障がい者福祉の充実	訓練等給付事業	2,392	2,495	103	障がい福祉サービス利用者の増加による。
44		生活困窮者への支援	公営住宅整備事業	966	865	△ 101	入札差金（設計額と契約額の差金）により、事業費の減額が生じたため。
52		安全・安心な暮らしの確保	防災施設整備事業	180	294	114	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、災害時の避難所における感染リスク低減に必要な物資の拡充を行ったため。
86		子どもの教育の充実	小学校整備事業	1,470	1,960	490	地質調査において想定していた地質に差異があり調査方法を変更したこと、既存改修部分の工事内容の減少に伴い設計業務量が減少したこと及び委託料において予算額に対する契約額に差金が生じたため。
115		商業・サービス業の振興	商店街活性化支援事業	6	684	678	新型コロナウイルス対応経済対策（地域企業家賃補助事業・地域企業者家賃等給付事業）の実施による。
127		観光の振興	観光客誘致宣伝事業	24	387	363	新型コロナウイルス感染症蔓延の影響に伴うイベント中止等により、負担金が減額となった。また、観光支援に係る経済対策として、盛岡の宿泊振興事業及び国内観光プロモーション事業の実施により増額となったもの。
137		都市基盤の維持・強化	道路橋りょう維持管理事業	766	909	143	補助事業のR2追加補正にて、法面補修工事が予算化されたため。
139	1	都市基盤の維持・強化	道路除排雪事業（除排雪委託ほか）	654	1,564	910	断続的に降り続いた大雪に伴い道路除排雪日数が多かったことによる。
140		都市基盤の維持・強化	身近な暮らしを支える道路事業	1,723	1,871	148	防災パッケージの増額（前倒し補正）による。
142		都市基盤の維持・強化	盛岡市動物公園整備事業	222	822	600	盛岡市動物公園再生事業に国費（交付金）を充当したことによる。
146		都市基盤の維持・強化	上水道安全対策事業	504	391	△ 113	請負差金、事業延期による年度内施工の中止によるもの。

149	都市基盤の維持・強化	浄配水場施設整備事業	987	816	△ 171	債務負担工事の年度割の変更と入札不調による工事発注の中止による。
153	都市基盤の維持・強化	公共下水道改築更新事業	31	452	421	主な増額理由としては、国による令和2年度3次補正により事業費が増加したことによる。
155	都市基盤の維持・強化	公共下水道雨水施設整備事業	447	782	335	令和2年度3次補正予算によるもの。
156	都市基盤の維持・強化	太田地区整備事業	1,887	2,400	513	社会資本整備総合交付金(3次補正)及び防災安全交付金(住宅市街地総合整備事業)の追加配分があったことによる。
157	都市基盤の維持・強化	都南中央地区整備事業	1,067	1,653	586	交付金の交付決定額の減による事業費の減(中二生活)補助金の追加補正交付決定による事業費の増(中三区画、中三生活)によるもの。
158	都市基盤の維持・強化	道明・下飯岡地区整備事業	836	640	△ 196	交付金の追加補正交付決定による事業費の増(道明区画)交付金の交付決定額の減による事業費の減(道明生活、下飯岡生活)によるもの。
160	都市基盤の維持・強化	盛岡バスセンター整備事業	171	596	425	都市構造再編集支援事業補助金が計画よりも多く配分されたことから、R3年度に予定していたバスセンター用地買戻し(バスロータリー部分)をR2年度に実施したことによる。

4 令和2年度完了事業

令和2年度をもって事業が完了した主要事業は、次のとおりです。

■ 完了した事業（1事業）

（単位 百万円）

施策の柱 施策					
主要事業名	R3へ 繰越	事業内容	全 体 事業費	R 2 実績額	備考 （繰越内訳等）
4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤の維持・強化					
優良建築物等整備事業	無	優良建築物等整備事業における建設事業費の一部に対する補助を行う。	602	106	補助対象物件の建設工事が完了したものの。

■ 主要事業から一般事業に振り替えしたもの（2事業）

（単位 百万円）

施策の柱 施策					
主要事業名	R3へ 繰越	事業内容	全 体 事業費	R 2 実績額	備考 （繰越内訳等）
4 人が集い活力を生むまちづくり 26 都市基盤の維持・強化					
建築指導事務	無	建築指導・確認審査，中間検査，完了検査に係る事務を行う。	36	10	事務に係る経費のうち，経常的な経費が大半を占めることから一般事業に振替したものの。
1 人がいきいきと暮らすまちづくり 1 地域福祉の推進					
地域再犯防止推進計画事業	無	「盛岡市再犯防止推進計画」に基づき，市民向けシンポジウム等，再犯防止推進事業をモデル事業として行う。	7	3	計画策定が完了し，進行管理事務が主になるため，一般事業に振替したものの。

■ 事業は継続するが、構成事業が完了したもの（7事業）

（単位 百万円）

施策の柱 施策	R3へ 繰越	事業内容	全 体 事業費	R 2 実績額	備考 （繰越内訳等）
主要事業名					
構成事業名					
3 人を育み未来につなぐまちづくり					
17 子どもの教育の充実					
小学校整備事業					
飯岡小学校施設整備事業	無	盛南地区住宅開発等により児童数が増加し、教室数が不足する見込みとなっているため、校舎を増築し、学校施設の充実に図りました。	375	357	
城南小学校屋内運動場長寿命化改修事業	有	内外装や建具、水道等機械設備、電気設備等の老朽化が進んでいることから、「盛岡市立小中学校施設等整備基本方針」に基づき、長寿命化改修工事（躯体以外の全面改修）を実施し、学習環境の改善を図りました。	355	355	繰越 345
3 人を育み未来につなぐまちづくり					
17 子どもの教育の充実					
中学校整備事業					
仙北中学校第二屋内運動場等整備事業	無	仙北中学校は、盛岡南地区都市開発整備事業により、今後も生徒数が増加し、特に冬期間における体育の授業に支障を来している状況です。このことから、プール施設及び木造特別教室棟を解体し、跡地に第二屋内運動場及び屋外運動場を整備することにより、敷地の有効活用を図りました。	332	277	
4 人が集い活力を生むまちづくり					
26 都市基盤の維持・強化					
身近な暮らしを支える道路事業					
高櫓線	無	見前小中学校の通学路ですが、歩道が整備されていません。本路線に並行する鴨助堰を函渠に改修し、その上部空間を歩道として整備することで、歩行者及び車両通行の安全を確保しました。 L=1,050m、W=9.5m	981	11	
みたけ4号線（第二工区）	無	IGRの西側で通勤通学路として利用されています。厨川駅地下自由通路の開通に伴い、交通量の増加していることから、歩道の整備を行い安全を確保しました。 L=570m、W=11.3m	360	1	
中屋敷町青山一丁目2号線	無	道路歩行環境の改善として、歩道整備を実施しました。 歩道整備： 延長L＝約260m、幅員W＝1.2m （歩道部の側溝改修及び再舗装） バス停留所整備：1箇所 道路歩行環境改善（復興庁予算分）： R2年度で完了	32	27	
4 人が集い活力を生むまちづくり					
27 交通環境の構築					
都市の骨格を形成する街路事業					
（都）明治橋大沢川原線（大通工区）	有	明治橋袂から杉戸手を経由し、七十七銀行までの1.7kmの主要幹線道路の築造工事を行いました。 延長L＝161.0m 幅員W＝25.0m R2（R3繰）で完了見込み。	2,989	4	繰越 1.8 道路台帳作成業務委託（2件）